

主の国韓国とエバ国日本の罪

(一) サタン国家日本、罪の呪縛からの解放

- ①メシヤに対する思い込み
- ②歴史を見る観点
 - (1)原理講論、再臨論から
 - (2)日本の韓国統治 40 年

1、日本の韓国統治時代概要

- ①朝鮮王朝末期の韓国
- ②日本の朝鮮統治
- ③朝鮮王朝末期の混乱とキリスト教伝播
- ④もし日本が韓国を統治しなかったら…ロシアによる統治
- ⑤世界の植民地統治政策
- ⑥世界はどのように大東亜戦争を評価しているか
- ⑦大韓民国臨時政府と李承晩

2、日本はサタン側のエバ国への疑問

- ①本来のアダム国家韓国の相対は日本
- ②1988年、太田会長の御言報告
- ③日本はサタン側のエバ国の結論
- (3)真のお父様を最初に迫害し拷問を加えたのは日本人

(二) 神が準備した韓国とキリスト教の罪

1、2000年前のイエス降臨時

- ①ヘロデ大王:ユダヤ地区にヘロデ朝を成立
- ②ローマ帝国:ユダヤ地区の宗主国
- ③ユダヤ地区:ガリラヤにイエス誕生
- ④洗礼ヨハネ:エリヤの使命を持つ者
- ⑤ユダヤ人:イエスを迎えるための神の選民
- ⑥イエス:神の子、メシヤ

2、文先生誕生時の時代背景

- ①朝鮮総督府:朝鮮を統治するための官庁。(1919~1945)
- ②日本:朝鮮を統治
- ③韓半島と第三イスラエル 韓民族
- ④金百文、許孝彬:洗礼ヨハネ型人物
- ⑤韓国人:神の選民
- ⑥文鮮明:再臨主、イエスの使命の完成者

(2) 神が準備された再臨摂理

- 1、1945年当時の神の摂理
- 2、梨花女子大、延世大事件における神の摂理
- (3)久保木会長に語られた真のお父様の御言

(一)日本はサタン側のエバ国

私たちは統一教会に入ると、まず第一に教えられたのは日本はもともとサタン側のエバ国家だったが、恩讐をも愛する真のお父様の愛によって許され、神側のエバ国となることができたということです。

そして本来ならば神側のエバ国として、再臨摂理の大前線に立つことなどということは許されるはずもない罪深い日本人が、こうして真のお父様の愛によって許され、主の民韓民族と共に摂理を担うことが許されたわけですから、日本民族としての罪を悔い改め、誰よりも苦難の道を歩み、僕の僕となって摂理に貢献しなければいけない。神の摂理を担う万物と人材を天の前に責任をもって捧げなければいけないと教育されてきました。全ては墮落の張本人、エバの蕩滅であり、主の国韓国と、真のお父様を直接に迫害した罪深い民族としての、民族的蕩滅条件を立てなければいけないということを、ことあるごとに徹底的に教育されてきました。



そしてその教育を受けた日本人食口たちは、その教育に疑問を抱くこともなく、ただ素直に、純粋にそのみ言を信じてきました。そして一生懸命に伝道し、自分の家や畑を売り払い、子供たちの教育資金をも摂理の名目で天に捧げてきました。

時にはヤコブの知恵を使えと教育され、靈感商法や訪問販売等で多くの人々を騙したとしても、全ては天のみ旨のためだと自己正当化してきました。たとえ騙されたとしても結果的に天のみ旨に貢献出来たらば、それが条件となって本人または子孫が必ず救われると信じて、非合法的な活動にまで手を染めてきた人もいます。

さらには親をも騙し、お金を借りれるだけ借りては教会に献金してきました。カード時代になってからは可能な限りカードキャッシングを行って献金し、挙句の果ては自己破産にまで追い込まれ、最終的に生活保護を受けざるを得ない貧困にあえぐ食口たちを生み出してきました。

実際統一教会食口の生活保護受給率は、一般人の生活保護世帯の受給率よりもはるかに高いと言われています。

そんな統一教会の実情は国の知るところとなり、今では統一教会員と知れると、生活保護さえも受けることはできないと言われています。



統一原理を知り、真の御父母様と出会い、統一教会員として祝福を受けることにより、誰よりも幸せな人生を送ることができると信じみ旨の道を歩んできたなら、誰よりも惨めで、貧しい生活が待っていたのです。

しかしこんな惨めな人生、生きているときだけならばまだいいのですが、もし今まで教わった内容が間違いで、天に積んだはずの功労も実際は積まれていなかったとしたらどうなるのでしょうか？

さらには自らの人生を犠牲にしてまで捧げてきた献金が、天に積まれるどころか、サタンの活動資金になっていたとしたら、それは功労ではなく、逆に罪になってしまうのではないのでしょうか？

ここではまず、私たちが統一教会に入ることによってまっさきに教えられてきた、日本はサタン側のエバ国であり、主の国韓国を40年間迫害してきた罪深い国という内容は本当なのかを、日本による朝鮮統治時代の真実を解明することにより、明らかにしていきたいと思えます。

そして真のお父様を最初に迫害し、拷問を加えた罪深い日本人という内容も精査し、そこから浮かび上がる真実を明らかにしていきたいと思えます。

①メシヤに対する思い込み

ここで私たちがついつい陥りやすい思い込みについて述べたいと思います。

例えば 2000 年間キリスト教徒たちが陥っていた思い込みの一つが、神は全知全能であり、完全無欠な存在だということがあります。それゆえ神の子としての人間が天使長によって墮落してしまったとしても、神は悲しみなどせず、天国で神として悠然として信じられてきました。また神が全知全能なるがゆえに、神の子であるイエスも全知全能であり、使命に失敗することなどありえないと思込まれてきましたから、イエスの十字架も最初から神の計画として予定されていたと信じられてきました。それゆえイエスは十字架につくために降臨されたと信じられてきたのであり、十字架につくことによって人類の罪を清算されたと信じられてきました。



これらは神の絶対性と完全無欠性に対する信仰であると同時に、神が悲しまれるとか、イエスは使命に失敗したなどと解釈することは、神とイエスに対する不敬とみなされますので、このように信じるしかありませんでした。この 2000 年間のキリスト教徒の思い込みを、真のお父様は原理によって見事打ち砕かれ、人類始祖アダムとエバを失った神は悲しみの神であり、イエスの十字架は摂理に失敗した結果であることを解き明かされたのです。

同じような思い込みは我々統一教会員の中にも数多く見受けられます。

例えばメシヤについて、我々はどのように考えやすいかというと、

- 1、神が完全無欠の絶対神であるごとく、メシヤも完全無欠の絶対的存在である。
- 2、メシヤの御言も全て絶対的価値を持つ ⇒ メシヤの御言は無条件全て正しい。
- 3、メシヤは全ての面において NO1 ⇒ 宗教、政治、経済、運動、芸術全ての分野で NO1 である。

しかしメシヤとは、宗教的指導者としては NO1 であり、人類を原罪から解放できる唯一無二の存在であることは間違いありませんが、政治家として、科学者として、経営者として、芸術家としては、決して NO1 などということはありません。NO1 である必要もありません。

そこで私たちが意識しなければいけないことは、メシヤである真のお父様の御言にも二面性があるということです。

つまり、

- 1、神の代身者、メシヤとしての真理の御言 ⇒ 永遠不変の真理としての絶対的御言
- 2、人間文鮮明としてのお言葉 ⇒ 天才文鮮明氏の知識からくるみ言

というように、絶対的真理の御言と、人間文鮮明としての、一個人の知識から出るみ言の 2 種類があるということです。

例えば原理講論、統一思想、原理本体論や、8 大教材教本等は永遠不変の真理としての御言が基本ですが、集会等で語られたみ言は、絶対的真理ばかりではないということです。つまり真のお父様のただの知識から出たみ言ということもありますので、間違える場合もあります。

例えば真のお父様が、カラスは白いと言われた場合、メシヤが言われたみ言だからそこには我々には理解できない、何か深い意味があるのだろうと信仰的に捉えがちですが、実際はただの言い間違い



だったりすることもあるということです。

特にお父様は、経済家でも、経営者でもありませんので、真のお父様の指示に従った結果、経営がうまくいかなかった企業体は数多くあります。もっともこれはお父様の失態というよりは、各企業体を任された韓国人指導者たちが、自分たちの私利私欲に走り、まともな企業経営などしなかった結果である場合がほとんどです。しかしそんな指導者たちを任命したのもお父様になりますので、お父様のみ言も絶対正しかったとは言えません。

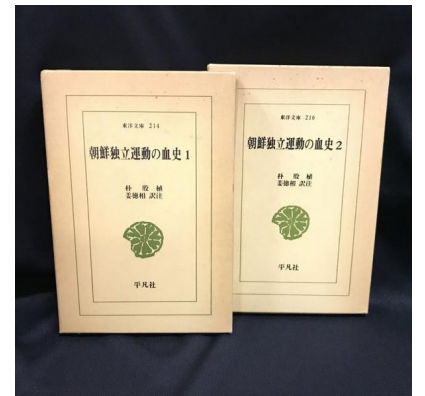
今回扱う日本はサタン側のエバ国だったということにしても、今改めて検証してみると、真のお父様の語られたみ言の中にも間違っただけの内容が多々見受けられます。

劉孝元会長の書かれた原理講論の内容もそうですが、真のお父様のみ言も、上海臨時政府の発表による日帝の悪逆非道さを訴えた報道に大きく影響されていると感じざるを得ません。今とは違い当時はインターネットなどありませんから、多方面の情報を集め、総合的に情報を分析することなどできなかったはずで

上海臨時政府によって、韓国国内での日本帝国の朝鮮支配の悲惨な様子が伝えられれば、当然その情報を真実と受け取るのは致し方ありません。特に真のお父様も、文潤國ハラボジも、上海臨時政府との繋がりは強かったので、そこから発せられる情報は、基本的に正しいと思っていたはずで

上海臨時政府第2代大統領朴殷植が1920年に著した『韓国独立運動之血史』を真実と取ってしまうでしょう。関東大震災時に上海臨時政府が機関紙「独立新聞」に「6000人の朝鮮人が虐殺された」とした根拠のない情報を載せたときも、真実と思ってとらえていたはずで

そういった偏った情報であったとしても、その偏った情報しか与えられていない状態でみ言を語れば、当然そのみ言も事実と違ったものになってしまうのは致し方ありません。



今回、日本による朝鮮統治時代を検証していったとき、残念ながらみ言の間違いともしうべき内容を、数多く発見することができました。

しかし最終的結論を言えば、それらすべての間違いをあえて犯してまでも、伝えなかった真実にまでたどり着くことができました。その真実というのは、単なる思い込みにすぎませんし、一つの可能性でしかありませんが、まさしく真のお父様の、真の愛がそこには込められていたと結論付けられるものでした。

ここではその結論に至るまで複雑なパズルを解くように、一つ一つの疑問を解明していきたいと思

<参考> 聖書を見る観点

原理講論 再臨論

(一) 聖書を見る観点

聖書を解釈するに当たっては、その観点をどこにおくかということが、最も重要な問題であるといわなければならない。

我々は、イエス以後2000年間も、洗礼ヨハネがその責任を完遂したという先入観をもって聖書を読んできたので、聖書もそのように見えたのであった。ところが、それと反対の立場から聖書を再び詳しく調べてみることによって、洗礼ヨハネは、その責任を完遂できなかったという事実が明らかにされたのである。我々は、聖書の文字が物語っている、その真の意味を把握するために、従来とは異なる角度で、もう一度、聖書を詳しく調べてみる必要があるのである。



②歴史を見る観点

基本的に歴史というものは、勝った者によって、自分の都合の良いように後世に書き残されてしまうものです。太閤記を見れば、百姓出身の秀吉が、信長に仕え立身出世し、最後には太閤にまで上り詰める、日本人が誇る最高の成功物語となっています。

しかし見方を変えれば秀吉は、日本史上まれにみる大量殺人鬼であり、さらには遠く朝鮮にまで出兵し、何の罪もない朝鮮人たちを一方的に攻め、殺し、今日に至るまで消し去ることのできない、日韓関係の最大の禍根を残した最悪の人間と見ることもできます。

今回ここで日韓関係史を研究していったとき、できるだけ中立的立場で、史実に忠実に検証を行いたいと思いました。

しかしそうするとどうしても何故か中間というよりは、左寄りなものの見方をしてしまうことに気がつきました。なぜそうなるのかと思い分析してみると、そもそも戦後日本人が受けてきた教育が、自虐史観に基づいた左寄りな教育であったため、中間位置は実際の中間よりも左側に行ってしまうのに気がつきました。

つまり日本の自虐史観では、戦前の日本のものはすべて悪であり、戦後アメリカによってもたらされた民主主義や文化が、すべて正しいということが戦後日本の出発点にあったからです。

戦前の日本人は天皇陛下を中心に、皇国臣民として教育勅語を守り、お国のために生きるように教育されてきました。

しかしこのような単語を並べただけでも、薄汚れた黒塗りの街宣車で、大音量で軍歌を流しながら、自分たちの主張を一方的に喚き散らす右翼のイメージが頭に浮かぶことと思います。

韓国人や中国人に言わせると、安倍晋三首相や、橋下徹元大阪知事らは、バリバリの右翼政治家というレッテルが貼られています。彼らは本当に右翼政治家の範疇に入るのでしょうか？

冷静に左翼、右翼、右翼政治家と呼ばれる人たちの主張を見ると、左翼、右翼に分類される人たちの主張は、最初に結論ありきでその自分が導き出した結論に沿った理屈を後からくっつけてきます。

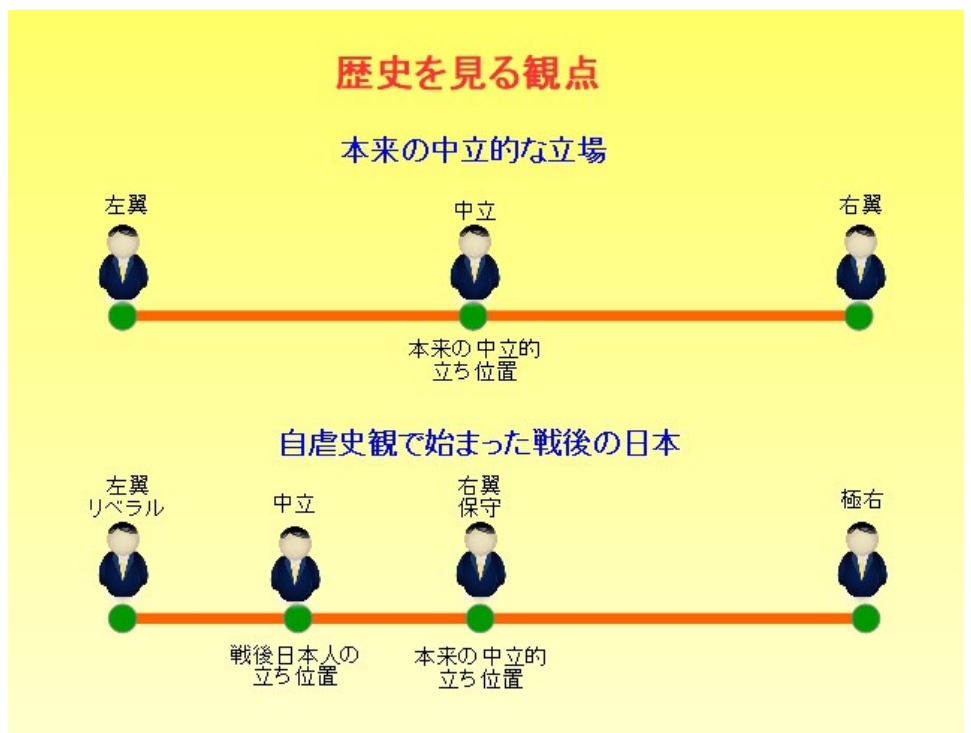
自分にとって都合のいい結論を肯定するために、都合の良い理屈を捜してくるのですが、それは真実であろうと偽りであろうと関係ありません。自己正当化できればそれでいいのです。

日本による朝鮮統治時代に関しても、慰安婦問題、徴用工問題にしても、すべて問題の根本は一緒です。日本統治時代、日本人に対して良い印象を持っている人たちの意見は黙殺し、日本人に対して恨みを持ち、憤りを感じている人たちの意見だけを大々的に宣伝します。それは時にはお金を払ってでもそのような証言をしてもらうこともあるのです。こうやって反日的な思想は形成され、そんな反日の教育を受けた人たちが、真実は何も知らずにさらに過激な運動に走っていきます。

一方日本でよく見る右翼活動家たちにも同じような傾向がみられます。

しかし安倍首相、橋下元大阪知事らの主張は違います。

実際のデータを示し、史実に忠実に証明しようと心がけているのです。それは日本のネトウヨと呼ばれる人たちにも共通しています。反日プロパガンダに反対し、ネット上で自説を主張する人たちの主張を見ると、中立的な立場で、史実に忠実に自説を論証しようと努めているのです。



嘘も百回言えば本当になるというように、反日的な主張はねつ造された根拠によるものであったとしても、いつの間にかそれが定説となり、多くの人たちに真実として信じられるようになってしまいました。

一旦定説になってしまうとそれを覆すのは簡単ではありません。

一つ一つ間違いを訂正し、真実を突きつけるしかありません。

そんな作業を行っているのがネトウヨと呼ばれる、ネット上の右翼的思考の持ち主たちなのです。

彼らは本当に右翼と呼ばれるべき人たちなのでしょう？

よく街頭で見る右翼活動家の人たちとは全く違います。

機会があれば彼らは、右翼活動家に対しても批判を行うかもしれません。以前何かのテレビ番組で、橋下元知事が実際右翼活動家と、つかみかからんばかりのバトルを展開していたことがありました。

それと同じように、ネトウヨの人たちも右翼活動家に対しても、左翼的立場の人たちに対するのと同じような態度を示すのではないのでしょうか？

彼らは右翼でも左翼でもない、史実に忠実な、本当の中立的立場をとる人たちが多いように思えます。しかしそんな人たちをも今はネトウヨと呼んで、右翼のレッテルを貼っています。

今回日本による朝鮮統治時代やその後の日韓の摂理を研究するに際し、ネトウヨの人たちを最初は右翼ととらえ、あまり参考にすべきではないと思っていました。しかし彼らの記事をよく読むと、実に中立的で、史実に忠実に書かれ、参考となる記事が多かったため、彼らネトウヨの人たちの意見も、大いに参考にさせていただきました。

歴史を見るときは、右とか左とかいう前に、何が真実で、何が偽りなのかを見極めることが重要であり、その真実にたどり着くためには、まずは自分の思い、自分の立場を捨て去ることが重要なのではないのでしょうか？

全てを捨て去ることができたとき、まったく新しい何かを発見することができるのかもしれません。

(1)原理講論、再臨論から

私たちは原理講論は永遠不滅の真理であると教わり、神山先生などはまるまる暗記したとも聞きました。

劉孝元先生が3年6ヵ月もの間、毎日16時間の原理講義を行うという精誠を捧げることによって書き上げた原理講論は、完全無欠の真理と思っていました。

しかし1966年に発刊された原理講論は、50年以上経った今、一部の内容は古くなり、今の時代には合わない部分も多くなってきました。

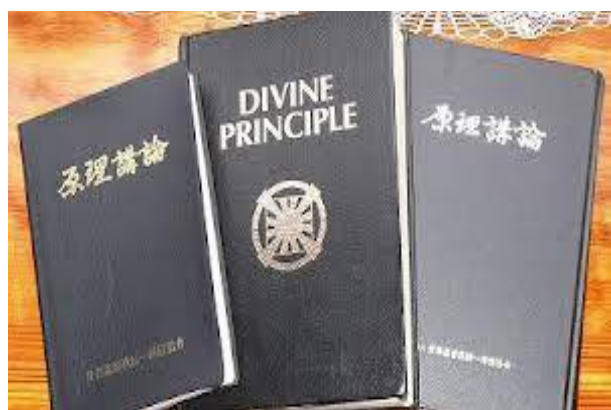
再臨論にあるサタン側の国家日本に関する記述も、下に示すように、明らかに事実とは違う記述が多く見られます。

それは真のお父様自身が抗日運動の闘志であり、上海臨時政府金九先生と連絡を取り合っていたという事実から見て、思想的に朴殷植著『朝鮮独立運動の血史』や上海臨時政府の機関紙「独立新聞」の影響を受けていたためだと思われま

す。また劉孝元先生ももともとクリスチャンであったという事実から、やはり抗日運動家であった可能性も高く、真のお父様と情報を共有し、原理講論を書き上げたとみるべきでしょう。

今のようにインターネットが発達し、正確な情報を得ることの可能な時代と違って、自分の身近な情報にしか接することのできない環境にありましたので致し方ないことでもあります。

しかしいつまでも間違っ



述べ伝え、真理の伝道者となるのであったら、明らかに間違っている内容を伝えるなどということではできません。それはただの厚顔無恥で非常識な人間になってしまうからです。間違いを認める勇気を持たなければいけないのです。

原理講論を勉強しないなどという食口は食口ではありません。原理講論をそのまま丸暗記するのもいいでしょう。しかし大人の信仰者としては、原理講論の内容を自らが体恤し、自由自在に語り、生活の中で実践できる者とならなければいけません。

そのような段階になったら、原理を学び感じた疑問には、自らが明確な回答を持たなければいけません。今回ここで取り上げるサタン側国家日本に対する考察は、そんな大人の信仰者になるための一つのきっかけを与えてくれるかもしれません。

原理講論 再臨論

(三) 東方のその国は、すなわち韓国である

韓国民族も、「40日サタン分立基台」を立てるためには、サタン側のある国家で、40年に該当する年数の苦役を受けなければならないのであり、これが日本帝国に属国とされ、迫害を受けた40年期間であった。

1905年に、日本の伊藤博文と当時の韓国学部長であった親日派李完用らによって、韓国の外交権一切を日本帝国の外務省に一任する条約が成立した。そうして、日本は韓国にその統監(のちの総督)をおき、必要な地域ごとに理事官をおいて、一切の内政に干渉することによって、日本は事実上韓国から政治、外交、経済などすべての主要部門の権利を剥奪したのであるが、これがすなわち乙巳保護条約であった。

西暦1910年、日本が強制的に韓国を合併した後は、韓国民族の自由を完全に剥奪し、数多くの愛国者を投獄、虐殺し、甚だしくは、皇宮に侵入して王妃を虐殺するなど、残虐無道な行為をほしいままにし、1919年3月1日韓国独立運動のときには、全国至る所で多数の良民を殺戮した。

さらに、1923年に発生した日本の関東大震災のときには、根も葉もない謀略をもって東京に居住していた無辜の韓国人たちを数知れず虐殺したのであった。

一方、数多くの韓国人たちは日本の圧政に耐えることができず、肥沃な故国の山河を日本人に明け渡し、自由を求めて荒蕪たる満州の広野に移民し、臥薪嘗胆の試練を経て、祖国の解放に尽力したのであった。日本軍は、このような韓国民族の多くの村落を探索しては、老人から幼児に至るまで全住民を一つの建物の中に監禁して放火し、皆殺しにした。日本はこのような圧政を帝国が滅亡する日まで続けたのであった。このように、三・一独立運動で、あるいは満州広野で倒れた民衆は主としてキリスト教信徒たちであったのであり、さらに帝国末期にはキリスト教信徒に神社参拝を強要し、これに応じない数多くの信徒を投獄、または虐殺した。それだけではなく、8・15解放直前の日本帝国主義の韓国キリスト教弾圧政策は、実に極悪非道なものであった。しかし、日本の天皇が第二次大戦において敗戦を宣言することによって韓国民族は、ついにその軛から解放されたのである。

このように韓国民族は、1905年の乙巳保護条約以後1945年解放されるときまで40年間、第一、第二イスラエル選民が、エジプトやローマ帝国で受けたそれに劣らない迫害を受けたのである。そして、この独立運動が主に国内外のキリスト教信徒たちを中心として起こったので、迫害を受けたのが主としてキリスト教信徒たちであったことはいうまでもない。

原理講論

「西暦1910年、日本が強制的に韓国を合併した後は、韓国民族の自由を完全に剥奪し、数多くの愛国者を投獄、虐殺し、甚だしくは、皇宮に侵入して王妃を虐殺するなど、残虐無道な行為をほしいままにし」

⇒1895年10月8日に起こった「**閔妃暗殺事件(乙未事変)**」のことを指すと思われる。

閔妃暗殺事件は、日本陸軍軍人三浦梧楼らの計画に基づいて、王宮に乱入した日本軍守備隊らによって王妃閔妃が暗殺された事件。



しかしこの事件は、王妃閔妃の政敵であった高宗の父興宣大院君が三浦公使と共謀して起こしたクーデターとの説も多く、複数の学説が存在している。

この事件は、日本による朝鮮統治期間以前の事件であり、日本人単独による蛮行でもなく、当時の李氏朝鮮内の政治闘争の一環でもあるのに、原理講論には全ては日本による残虐無道な行為のごとくに書いてある。

原理講論

「さらに、1923年に発生した日本の関東大震災のときには、根も葉もない謀略をもって東京に居住していた無辜の韓国人たちを数知れず虐殺したのであった。」

⇒関東大震災時に、数千人の朝鮮人を虐殺したというのは、今では常識的な内容となっています。

しかしこのことに関しても、史実を時系列に従い忠実に検証してみると、全く違ったものが見えてきました。

つまり関東大震災時、①在日朝鮮人たちによる暴動や火事場泥棒が多発しており、②そのことに注意喚起する新聞記事によって③自警団が結成され、④その結果多数の朝鮮人の虐殺が起こったというのです。⑤そのことに対して政府は、それ以上虐殺が起きないように報道の規制措置を取ったとのことです。

しかもこの在日朝鮮人たちによる暴動も、その背後には当時の共産党による共産革命のためのテロ行為があった可能性があり、そこには共産党と根元が同じ在日朝鮮統一民主戦線の朝鮮人が関与していた可能性もあるというのです。

しかし左傾化した日本では都合な真実は隠され、歪曲され、無実の朝鮮人に対する日本人による一方的な虐殺と定着し、原理講論にも同じような主張が真理のごとくに記載されているのです。



原理講論

「日本軍は、このような韓国民族の多くの村落を探索しては、老人から幼児に至るまで全住民を一つの建物の中に監禁して放火し、皆殺しにした。日本はこのような圧政を帝国が滅亡する日まで続けたのであった。」

⇒1919年4月15日の堤岩里事件のことを指すと思われる。

3・1運動が全国規模で拡大し、華城地域では暴動の様相を見せ、警察の駐在所が破壊され、日本人警官2人が殺害されたり、面事務所、郵便局、駅、金融組合、日本人小学校、日本人家屋が襲撃、破壊もしくは放火されるなどの被害が出た。

デモの首謀者逮捕の目的で、成人男性22人を堤岩里教会に集め、取り調べの過程で反抗、逃亡があったので全員を射殺。証拠隠滅のために教会および付近の家屋に火を放った。総犠牲者は23人(近隣での殺害を含めると29人)。

この事件が日本統治下での朝鮮人弾圧の最大の悲劇。

原理講論には、同様の事件が統治期間中継続的に、各地で続いたかのごとくに書いてあるが、実際は3・1運動を機に朝鮮総督府による統治体制が、武断的なものから文治的なものへと方針転換される契機となり、日本敗戦に至るまで大規模な運動は起こらなかったといえます。



原理講論

「さらに帝国末期にはキリスト教信徒に神社参拝を強要し、これに応じない数多くの信徒を投獄、または虐殺した。それだけではなく、8・15解放直前の日本帝国主義の韓国キリスト教弾圧政策は、実に極悪非道なものであった。」

⇒日韓併合下ではキリスト教徒が抗日運動を担うようになり、1919年に発生した三・一運動ではキリスト教徒が主要な役割を果たした。

1937年皇国臣民ノ誓詞が発せられ、総督府は公然とキリスト教会への神社参拝を強要した。

このような事実は確認できるが、8・15解放直前の日本帝国主義の韓国キリスト教弾圧政策は確認できない。原理講論にある日本による迫害の多くは、その根拠があいまいなところが多く、その思想は朴殷植著『朝鮮独立運動の血史』に近いところが多いことを考えると、帝国末期の実に極悪非道な韓国キリスト教弾圧政策も、その信憑性はかなり低いのもかもしれない。

<参考>

乙巳保護条約(第二次日韓協約)(Wikipedia)

乙未事変(いつびじへん)(Wikipedia)

関東大震災と朝鮮人虐殺事件の問題点

関東大震災における朝鮮人虐殺事件について全体像を把握するために知っておくべき3つのポイント。

- 1、「被害者の数の問題」
- 2、「当時何が起きたのかの時系列」
- 3、予備知識としてこの問題における朝鮮総連と日本共産党の問題。

1:客観性の無い情報が事実のように飛び交う

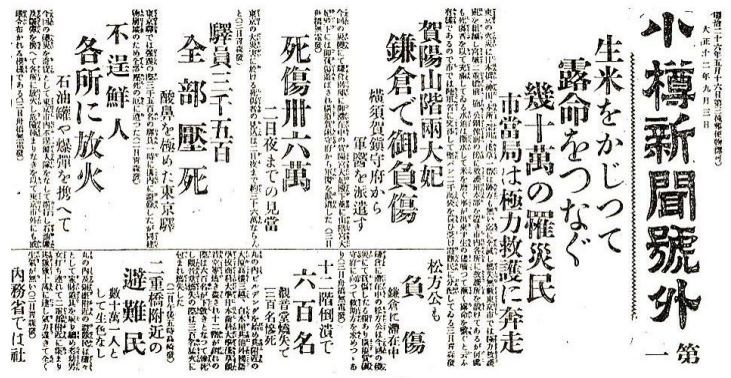
「6000人の朝鮮人が虐殺された」とする情報は、近年日本では殆どこの数字が取り上げられることはない。この数字は、元々「上海臨時政府(大韓民国臨時政府)」が震災時に機関紙の「独立新聞」に掲載した数字で、何の裏付けも取られておらず、日本の公式記録では「自警団に殺された朝鮮人の数は231人」となっている。

2:特定の情報が隠されている

当時の新聞記事を時系列を追って見てみると

①朝鮮人による暴動や火事場泥棒が多発していた。

以下は震災当時の初報記事



以下は暴徒の鎮圧と「その後の風説報道」を否定する政府発表を報じる記事

「不逞鮮人の擧げ」 千歳、東京に出陣した前志野隊... 横濱の大震害 二晝夜に亘つて現場を観察す

鮮人暴動は流説 戒厳司令部公表

大正十二年九月五日

大正十二年九月五日 第二號外 九月四日

東京府神奈川縣全部に 戒厳令區域を擴張す

戒厳司令部を急設 各師團から東上

鮮人一部の暴擧は 既に完全に取締を遂行した

警視廳の急告通達(三日)

以下は震災「1ヵ月後」に、風説によって発生した朝鮮人襲撃を防ぐ報道規制が解かれたあとの記事

震災の混乱に乗じ 鮮人の行った兇暴 中には婦人凌辱もある

本所では... 大倉倉庫に放火

婦人凌辱 少女を凌辱

關東一帯を騒がした 鮮人暴動の正體はこれ

放火殺人暴行掠奪につき 橋梁破壊も企てた不逞團

掠奪 放火 婦人に暴行

三十名の一團 柳島の呉服屋で掠奪

少女を殺す

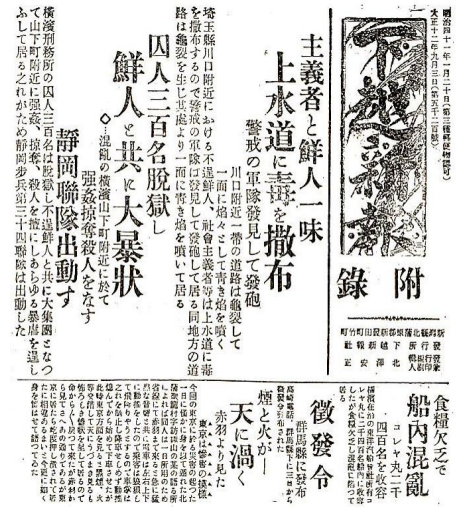
- ②いくつかのメディアが「また朝鮮人による暴動が起きる」と煽った。
- ③「また同じ事が起きてはたまらない」と自警団が結成された。
- ④その結果朝鮮人殺害事件が発生した。
- ⑤政府は「風説による襲撃をさせないために」1ヶ月間詳細報道の規制措置を行った。

要するに、当時の記事から「暴動に参加したかどうかわからない」朝鮮人が数百名殺されたのは事実ですが、その前段階として朝鮮人移住者による治安の悪化、震災後の火事場泥棒や暴動があったのも同じく事実というわけです。

勿論、自警団による朝鮮人殺害事件は犯罪であり日本政府としても当時これを問題としていましたが、だからといってその前の段階で何が起きていたのかを隠すのもそれはそれで問題なのです。

3: 朝鮮総連と共産党

当時の共産党というのは「武力闘争」による国家転覆と共産国家の建国を目指すテロ組織でした。そして、朝鮮人の中にもこの活動に参加している人々が多数おり、彼らが「独立闘争」と呼んでいるものも、そのかなりの数が実は「共産革命のためのテロ行為」であり、**震災後の混乱に乗じて多数の共産主義者がテロ行為を行っていた**というわけです。



不逞鮮人益々擴大
王子横濱方面に於て軍隊と衝突
不逞鮮人及び主義者の一派は其の後獵を極め、三日午前十一時三十分余名手に手に爆弾を携へて或は放火し近衛師團の三個中隊と王子附近に衝突突圍の結果三十余名捕はる尙全日午前四時四十分の全鮮人爆弾を持って横濱方面より襲來討伐の一個中隊は少數の爲に全滅の怖れあり、三聯隊の二個中隊急遽自動車に分乗して應援に向ふ尙越後高田十三師團にも出動命令下り直に東京に急派
陸軍として避難し來れる者の誤に依れば全暴徒の一隊が爆弾を投げ放火せるを目撃せりと

早稲田大學焼失
安全を傳はれし早稲田大學も遂に猛火の侵す所と也
四時間にして焼失せり

大學病院に延焼
東京大學病院の收容患者は一千三百五十余名なりしが延焼と見るや急遽救助準備をなしたるも遂に及ばず六百名の焼死者を見るに至り慘狀見るに忍びず

不逞鮮人益々擴大
王子横濱方面に於て軍隊と衝突
不逞鮮人及び主義者の一派は其の後獵を極め、三日午前十一時三十分余名手に手に爆弾を携へて或は放火し近衛師團の三個中隊と王子附近に衝突突圍の結果三十余名捕はる尙全日午前四時四十分の全鮮人爆弾を持って横濱方面より襲來討伐の一個中隊は少數の爲に全滅の怖れあり、三聯隊の二個中隊急遽自動車に分乗して應援に向ふ尙越後高田十三師團にも出動命令下り直に東京に急派
陸軍として避難し來れる者の誤に依れば全暴徒の一隊が爆弾を投げ放火せるを目撃せりと

そして更に重要なのは、**現在朝鮮総連と呼ばれている組織は、元を辿ると日本共産党と根元が同じであり、朝鮮戦争当時には在日朝鮮統一民主戦線(民戦)**という下部組織をつくり、共産党とともに北朝鮮の側に立って在日米軍基地などへの武力闘争という名のテロ行為を繰り返していたのです。つまり日本共産党は、当時共産党が行っていた震災に乗じたテロ行為も隠しており、更には朝鮮総連と根元が同じである事、朝鮮総連とともにテロ行為をしていた過去がある事も隠しているのです。しかも、関東大震災における朝鮮人殺害事件には、共産党によるテロ行為も深く関わっているにも関わらず、その事を隠してこのようなプロパガンダを行っていると事自体本来は大問題です。

<参考>

「堤岩里3・1運動殉国記念館」のHP

3月1日に始まり、全国規模で広がった独立運動は、華城地域では暴動の様相を見せ、警察の駐在所が襲撃、破壊され、日本人警官2人が殺害されたり、面事務所、郵便局、駅、金融組合、日本人小学校、日本人家屋が襲撃、破壊もしくは放火されるなどの被害が出た。また、頻りにデモや演説が行なわれ、山では篝火がたかれ、日本人住民が避難するまでになっていた。

取り締まりの過程で、朝鮮人にも相当数の犠牲者が出ている。首謀者は、主にその地域のキリスト教徒、天道教徒であり、他の村では首謀者が逮捕されていたが、堤岩里ではまだ逮捕されていなかった。そこに治安維持目的で派遣された有田中尉の歩兵部隊が、デモの首謀者逮捕の目的で、住民のうち成人男性(15歳もしくは20歳以上)22人を堤岩里教会に集め、取り調べの過程で反抗、逃亡があったので全員を射殺(うち1人は逃亡)、教会の外で犠牲者の夫人も2人殺害、証拠隠滅のために教会および付近の家屋に火を放った。総犠牲者は23人(それ以外に近隣の古洲里村で6人殺害。これを含めると29人)。

<参考>

三・一運動 (Wikipedia)

三・一運動は、1919年3月1日に日本統治時代の朝鮮で起こった日本からの朝鮮独立運動。独立万歳運動や万歳事件とも。中心となったのは天道教やキリスト教、そして仏教の指導者たちである。彼等は会合を重ねて大衆化・一元化・非暴力の三原則を取り決めた。



3月1日午後、京城(ソウル)中心部のパゴダ公園に宗教指導者らが集い、「独立宣言」を読み上げることを計画した。

運動の広がり

発端となった民族代表33人は逮捕されたものの、本来独立宣言を読み上げるはずであったパゴダ公園には数千人規模の学生が集まり、その後市内をデモ行進した。道々「独立万歳」と叫ぶデモには、次々に市民が参加し、数万人規模となったという。以降、運動は朝鮮半島全体に広がり、数ヶ月に渡って示威行動が展開された。これに対し朝鮮総督府は、警察に加え軍隊も投入して治安維持に当たった。

被害

襲撃による日本側の被害を挙げると、人的なものは官憲の死者8名、負傷者158名であり、物的なものは駐在所159、軍・面事務所77、郵便局15、その他諸々27であったといわれる。

日本の対応

日本側は憲兵や巡査、軍隊を増強し、一層の鎮圧強化を行った。こうした中、いくつかの悲劇が発生した。最も有名なのは堤岩里事件である。この事件は4月15日に堤岩里の住民30余名を教会堂に集めて一斉射撃の後放火焼殺され、他にも日本側が放火し15村落317戸が延焼し、39人が亡くなったというのが全貌である。

運動の終息

朝鮮総督府当局による武力による鎮圧(弾圧)の結果、運動は次第に終息していった。
逮捕・送検された被疑者12,668名。このうち有罪判決を受けたのは3,967名。死刑・無期懲役になった者、懲役15年以上の実刑になった者はいない。3年以上の懲役は80名。

影響と意義

三・一運動は、憲兵警察制度を廃止し、集会や言論、出版に一定の自由を認めるなど、朝鮮総督府による統治体制が武断的なものから文治的なものへと方針転換される契機となった。朝鮮人による国外での独立運動が活発化する契機となったことや、国内での合法的民族運動を展開する道が開けることになった。
三・一運動を招いた反省から、武断的な統治を文化統治へ大きく改めた結果、以降は日本統治に対する抵抗といえる抵抗がまったくみられなくなった。

犠牲者

・朴殷植著『朝鮮独立運動の血史』

3月～5月に集会参加者延べ約202万、死傷者が7509名、負傷者が15961名としている。

・日本警察の集計

3～4月11日、参加人数約49万、死者357名、負傷者802名。

三・一運動期間中、6月30日までに逮捕され起訴された総数は26865人、第一審判決で最高15年から最低3月未満までの受刑者が22275名であった。

日本人の憲兵6名と警察官2名が虐殺され、多くの建物が放火されたにもかかわらず、死刑を一人も求刑せず、15年以上の実刑もなく、3年以上の懲役はわずか80人に過ぎなかった。

・朝鮮総督府資料から、参加人数約106万名、死者553名、負傷者1409名

・(朝鮮日報日本語版) 三・一節:国史編さん委が初の公式集計「運動参加者103万人・死者934人」

2019.2.21(木) 11:02 配信 朝鮮日報日本語版

韓国の国史編さん委員会は20日、1919年3月1日に起きた日本からの独立運動である三・一運動の当時、

80～103 万人がデモに参加し、725～934 人が死亡したとする集計を明らかにした。日帝（日本帝国主義）による既存資料に基づくデモ参加者数 58 万人、死者 553 人を最大で 1.7 倍上回る数値だ。

(2) 日本の韓国統治 40 年

原理講論には「40 年間、第一、第二イスラエル選民が、エジプトやローマ帝国で受けたそれに劣らない迫害を受けたのである。」とありましたが、原理講論にあった内容のほとんどは、事実とはかけ離れた、根拠のあいまいな情報を基に書かれたものであったことがわかりました。

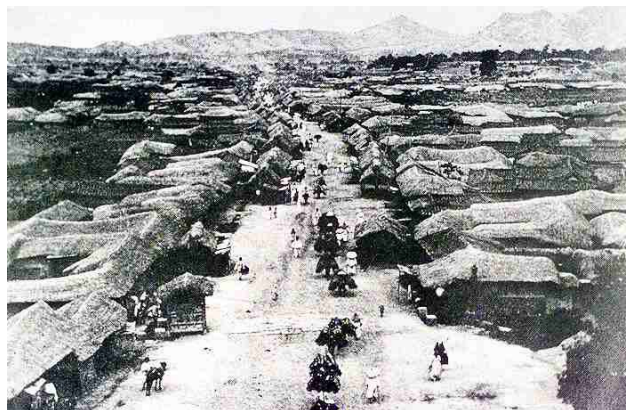
それでは日本による朝鮮統治時代 40 年間は、実際どのような統治がなされたのかを見ていくことにいたします。

1、日本の韓国統治時代概要

①朝鮮王朝末期の韓国

日本において朝鮮末期の状況を調べるとき、最も客観的な資料というものは、日本人や韓国人による資料ではなく、全く利害関係のない外国人による資料が最も信頼できるものと思われま

す。そんな前提条件のもと、ここではよくネットでも取り上げられているイザベラ・バードの『朝鮮紀行』とシャルル・ダレの『朝鮮事情』を参考に李朝末期の朝鮮の様子を見てみたいと思います。



・李朝末期のソウル

「路地の多くは荷物を積んだ牛どうしがすれちがえず、荷牛と人間ならかうじてすれちがえる程度の幅しかなく、おまけにその幅は家家から出た固体および液体の汚物を受ける穴かみぞで挟められている。悪臭ふんぷんのその穴やみぞの横に好んで集まるのが、土ぼこりにまみれた半裸の子どもたち、疥癬持ちでかすみ目の大きな犬で、犬は汚物の中で転げ回ったり、ひなたでまばたきしたりしている。」

「冬にはぬかるみ、ならしてない場合はでこぼこの地面と、突き出た岩の上をわだちが通っている。道と言っても獣や人間の通行でどうやら識別可能な程度についての通路に過ぎない」

・文化的建造物

「ソウルには芸術品はまったくなく、古代の遺跡もわずかで、公園もなければ、まれな例外を除けば見るべきイベントも劇場もなく、旧跡も図書館も文献もなく、宗教におよそ無関心であったため寺院もなく、迷信が影響力をもつため墓地もない」

・両班制度について

「両班は公認の吸血鬼であり、ソウルには『盗む側』と『盗まれる側』の二つの身分しかない」

「朝鮮の災いのもとのひとつにこの両班つまり貴族という特権階級の存在があるからである。

両班はみずからの生活のために働いてはならないものの、身内に生活を支えてもらうのは恥とはならず、妻がこっそりよその縫い物や洗濯をして生活を支えている場合も少なくない。

両班は自分ではなにも持たない。自分のキセルですらである。(中略)慣例上、この階級に属する者は旅行をするとき、おおぜいのお供をかき集められるだけかき集めて引き連れて行くことになっている。本人は従僕に引かせた馬に乗るのであるが、伝統上、両班に求められるのは究極の無能さ加減である。従者たちは近くの住民を脅して買っている鶏や卵を奪い、金を払わない。」

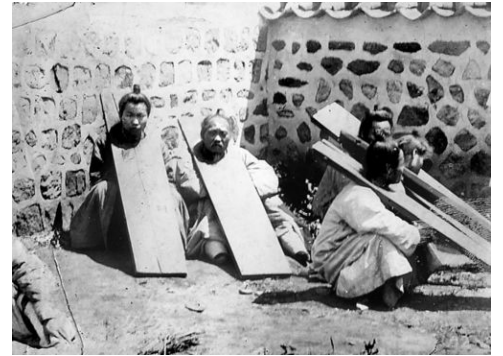


・朝鮮の官僚

「日本の発展に興味を持つ者も少数はいたものの、多くの者は搾取や不正利得ができなくなるという私利私欲のために改革に反対していたとし、墮落しきった朝鮮の官僚制度の浄化に日本は着手したが、それは困難きわまりなかった」

・非特権階級(民衆)

「年貢という重い負担をかけられているおびたしい数の民衆が、代価を払いもせずその労働力を利用するばかりか、借金という名目の無慈悲な取り立てを行う両班から過酷な圧迫を受けているのは疑いない。商人なり農民なりがある程度の穴あき銭を貯めたという評判がたてば、両班か官吏が借金を求めにくる。これは実質的に徴税であり、もしも断ろうものなら、その男は偽の負債をでっちあげられて投獄され、本人または身内の者が要求額を支払うまで毎朝鞭で打たれる。」



※イザベラ・バードの『朝鮮紀行』より

<ソウルの町並みと悪臭>

バードは本書の中で、1894年の訪問時のソウルに関して、道は牛がすれ違えないほど細く迷路のようであり、家から出た汚物によって悪臭が酷く、北京を見るまで「ソウルこそこの世で一番不潔な町」だとし、「紹興へ行くまではソウルの悪臭こそこの世で一番ひどいにおいだ」「都会であり首都であるにしては、そのお粗末さは実に形容しがたい」と記している。また、人工の道や橋も少なく、「あっても夏には土埃が厚くて、冬にはぬかるみ、ならしてない場合はでこぼこの地面と、突き出た岩の上をわだちが通っている。道と言っても獣や人間の通行でどうやら識別可能な程度についての通路に過ぎない」と記している。

また、ソウルには芸術品はまったくなく、古代の遺跡もわずかで、公園もなければ、まれな例外を除けば見るべきイベントも劇場もなく、旧跡も図書館も文献もなく、宗教におよそ無関心であったため寺院もなく、迷信が影響力をもつため墓地もない、と驚き、孔子廟と碑を除くと公認の寺院がひとつもなく、城内に僧侶が入ると死刑に処せられかねないため、清や日本ならどんなみすばらしい町にでもある堂々とした宗教建築物の与える迫力がソウルにはないとしている。



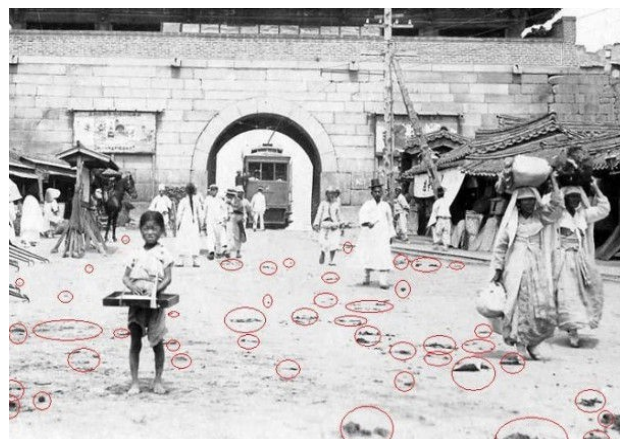
<両班制度について>

両班は究極に無能であり、その従者たちは金を払わず住民を脅して鶏や卵を奪っているとしている。両班は公認の吸血鬼であり、ソウルには「盗む側」と「盗まれる側」の二つの身分しかないと述べている。朝鮮の官僚については、日本の発展に興味を持つ者も少数はいたものの、多くの者は搾取や不正利得ができなくなるという私利私欲のために改革に反対していたとし、墮落しきった朝鮮の官僚制度の浄化に日本は着手したが、それは困難きわまりなかったと述べている。

【前編】イザベラ・バード「朝鮮紀行」まとめ

路地の多くは荷物を積んだ牛どうしがすれちがえず、荷牛と人間ならかろうじてすれちがえる程度の幅しかなく、おまけにその幅は家家から出た固体および液体の汚物を受ける穴かみぞで挟められている。

悪臭ふんぷんのその穴やみぞの横に好んで集まるのが、土ぼこりにまみれた半裸の子どもたち、疥癬持ちでかすみ目の大きな犬で、犬は汚物の中で転げ回ったり、ひなたでまばたきしたりしている。



朝鮮の災いのもとのひとつにこの両班つまり貴族という特権階級の存在があるからである。両班はみずからの生活のために働いてはならないものの、身内に生活を支えてもらうのは恥とはならず、妻がこっそりよその縫い物や洗濯をして生活を支えている場合も少なくない。

両班は自分ではなにも持たない。自分のキセルですらである。(中略)慣例上、この階級に属する者は旅行をするとき、おおぜいのお供をかき集められるだけかき集めて引き連れて行くことになっている。本人は従僕に引かせた馬に乗るのであるが、伝統上、両班に求められるのは究極の無能さ加減である。従者たちは近くの住民を脅して買っている鶏や卵を奪い、金を払わない。

(中略)非特権階級であり、年貢という重い負担をかけられているおびたしい数の民衆が、代価を払いもせずその労働力を利用するばかりか、借金という名目の無慈悲な取り立てを行う両班から過酷な圧迫を受けているのは疑いない。商人なり農民なりがある程度の穴あき銭を貯めたという評判がたてば、両班か官吏が借金を求めにくる。これは実質的に徴税であり、もしも断ろうものなら、その男は偽の負債をでっちあげられて投獄され、本人または身内の者が要求額を支払うまで毎朝鞭で打たれる。(後略)



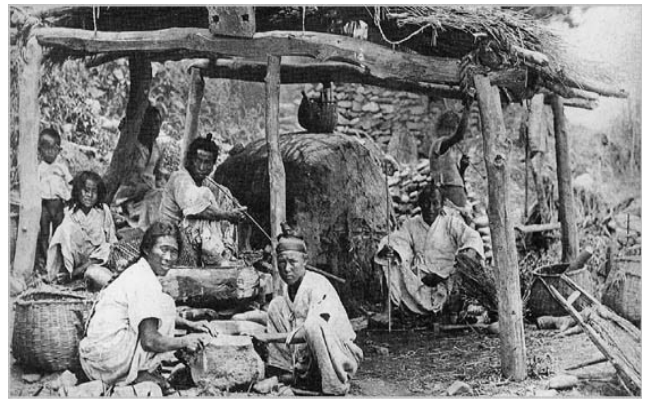
※シャルル・ダレ『朝鮮事情』

「序論」(『朝鮮事情』)では、以下のように当時の李氏朝鮮の様子を細かく伝えている。

ソウルは、人口が多い大都市であるが、見るべき建築物はなく、空気も流れることのない曲がりくねった路地ばかりで、足元にはゴミが散乱しているとし、道路を作る技術がほとんどないため、利用しにくい道は商取引の障害になっているとしている。

また役人の地位は売買されており、その地位を購入した人は、その費用を取り戻そうと特権を濫用して体裁がまうことなく行動するという。

女性の地位については極度に低く、男性の奴隷や労働力となっているだけとし、また学問については、書物はすべて中国のもので、学ぶ言葉は朝鮮語でなく漢語で、歴史に関しても朝鮮史でなく、中国史ばかり研究しており、科学技術については数世紀の間、まったく進歩していないと伝える。朝鮮人の衣服については、白衣が一般的であるが、多くの場合、汚れて色変わりしており、富裕な者でも不潔なことが多く、これは朝鮮人の特徴であるとしている。



朝鮮は1871年、72年には酷い飢饉におそわれ、朝鮮人の中には娘を米一升で売る者もあらわれたほどであったが、朝鮮政府は己の利得のみのために、鎖国と固守し、中国や日本からの食料買い入れを許すよりも、むしろ国民の半数が死んでいくのを放置する道を選んだと伝えている。

②日本の朝鮮統治

日本統治時代の朝鮮は、慰安婦問題、徴用工問題等、日本によって世界の歴史に類を見ない悪逆非道な仕打ちを受けた期間として、今日においても韓国、北朝鮮によって、全世界にその悲劇が訴え続けられています。

しかしほとんどの場合、植民地として欧米諸国の支配下に置かれた国々は、原住民は大量虐殺され、欧米に奴隷として売られ、劣悪な環境で人間扱いされずに搾取されるため、人口は減少し、平均寿命は短くなります。

また教育や環境整備を行い、生活に自由とゆとりを与えた場合、抵抗運動が起こり、独立の機運が高まるため、決して現地に資本投資を行ったり、教育を施すようなことはありません。

このような一般的植民地政策と、日本による朝鮮統治政策を比較したとき、明らかな違いを発見することができます。

韓国の国定歴史教科書によると1777年、総人口は1,804万人であったのが、日韓併合時の1910年には1,313万人となりました。それが1942年には2,553万人となり、併合時の倍近くになりました。

また平均寿命も1910年には24歳だったものが、1942年以降45～56歳へと急速に伸びています。

このことは、李朝518年の統治がいかにひどいものであったかを如実に証明していると同時に、日本統治時代の朝鮮は、生活環境が充実し、食料も十分に供給され、衛生、健康面も急激に向上したことを表しています。

では実際、日本統治時代の朝鮮はどのような時代であったのか、資料と写真を見ながら検証してみたいと思います。



★日本統治時代の朝鮮(Wikipedia)より

1910年、大日本帝国は大韓帝国との間に結ばれた日韓併合条約の締結によって大韓帝国を併合し朝鮮総督府の統治下に置いた。日本の同盟国のイギリスやアメリカ、フランスやドイツ、中華民国などの世界の主要国はこれを認めた。

日本による統治期間は、1919年の三・一独立運動までの武断統治期、それ以降日中戦争に至るまでの文化統治期、および日中戦争、太平洋戦争から終戦に至るまでの戦時体制期に大きく分けられる。

併合当初の10年間は所得税の免税措置を行い、インフラ整備、近代教育制度や近代工業の導入など朝鮮半島の開発に力を入れ、開発工事や運営の主な労働力を朝鮮人に求めることで雇用を創出した。30数年間で朝鮮半島につき込んだ日本国民の税金は現在の価値で63兆円にもなり、民間の投資額まで入れると80兆円をはるかに超えるといわれている。

一方で憲兵警察制度や、内地と同様の言論・結社の自由の厳しい制限など武断統治により、朝鮮王朝末期から続いていた抗日運動を抑えようとした。1919年には三・一独立運動が起こったが、日本の憲兵警察により鎮圧された。

三・一独立運動以後、朝鮮総督府は従来の統治政策を修正し、内地と同様に言論や結社の自由が与えられたため、朝鮮人による様々な民族運動が繰り広げられた。満州国と接する北部国境地帯では、共産主義国家であるソビエト連邦の支援を受けた朝鮮独立を掲げる共産ゲリラと朝鮮総督府との散発的な戦闘も発生している。

1929年にカーネギー財団から朝鮮半島に派遣されたアメリカ人記者らは、「日本は併合以来19年間にして、数百年間停顿状態にあった朝鮮と、近代文明国との間に渡り橋を架けてやった。…朝鮮人の苦しみもあるかも知れぬが、日本は莫大な利益をもたらしている」「李氏朝鮮時代よりも日本統治によって朝鮮人民は救われている」との評価をしている。

<社会政策>

朝鮮総督府により、これまで存在しなかった高等教育や義



務教育制度や戸籍制度などの近代的な社会制度の整備がおこなわれた。公立学校では朝鮮語は必須科目であった。

<身分解放>

統監府は**1909年**に**戸籍制度**を導入し、白丁などの賤民にも姓を名乗らせて戸籍には身分を記載することなく登録させた。これにより、白丁の子弟も学校に通えるようになった。**身分解放に反発する両班は激しい抗議デモを繰り広げた。**

<教育制度>

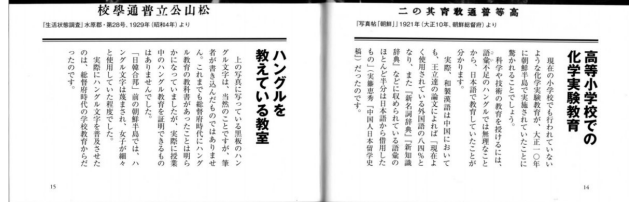
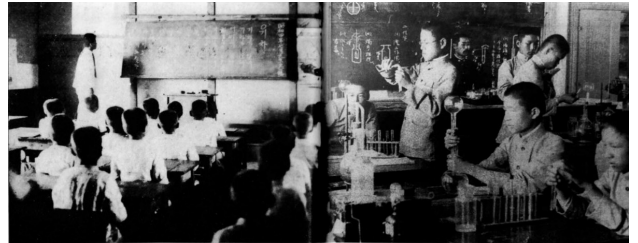
李氏朝鮮では一般人のための教育機関は皆無で、大多数の朝鮮人は読み書きができない状況だった。

朝鮮では1906年の時点でも小学校が全国で40校未満であり、両班の子弟は書堂と呼ばれる私塾で漢籍の教育を受けていた。

併合後、朝鮮語は公教育で必須科目として教授された。

1924年に京城帝国大学が、日本で6番目の帝国大学として設立された。**各種学校は1940年代には1000校を超えていた。**

1938年には「国語を解する朝鮮人」の割合が前年度の8%弱から13%強にまで伸び、1943年末で22%にまで伸びた。



<創氏>

創氏とは、すべての朝鮮人に新たに氏を創設させ、家族を基礎とする日本内地の家制度に近いものに変更しようとしたものである。

創氏改名後は、朝鮮人はすべて先祖伝来の「姓名」に加え、新しく作った「氏名」が増え、2つの名を持つことになったのであり、姓名自体が抹消・変更されたのではない。

改名は任意とされていたため、創氏と同時に改名した者の割合は**9.6%**であった。

<宗教政策>

キリスト教は李朝はアヘンと同じようなものと警戒し、カトリックへの弾圧は断続的に行われた。

朝鮮におけるキリスト信者の成長率は世界のキリスト教宣教史上類まれなものであり、1895年に公称1590人の信徒が1910年には22万6791名に達した。

1920年に入ってキリスト教会が三・一独立運動の主要な組織者であったとして、キリスト教会への苛烈な弾圧を加えるようになった。

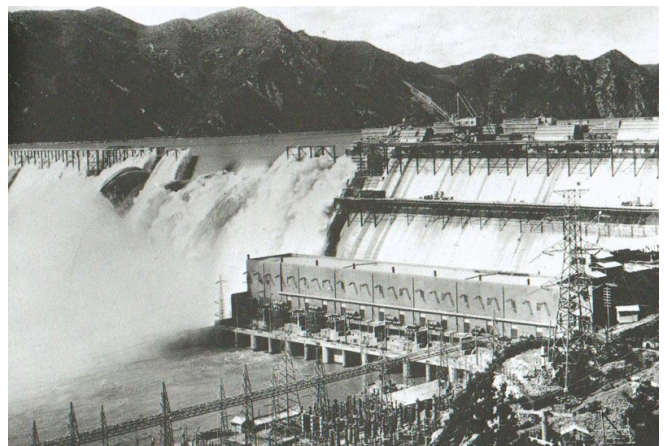
<造林事業>

1910年当時、特に南部の海拔の低い低地帯では若い木と禿げ山が大部だった。

造林事業は1911年には約4千町、1152万本だったが1922年までの累計は約36万町、10億本に至ったと報告されている。

<経済>

朝鮮は日本本土防衛の為の重要な要と政府は捉え、富国強兵政策に従い多額の国家予算を朝鮮半島に投じた。これまで朝鮮半島にほとんど存在しなかった**鉄道、道路、上水道、下水道、電気インフラ、病院、学校、工場など、最新鋭のインフラの整備を行い、近代教育制度や近代医療制度の整備を進め、朝鮮半島を近代化していった。**鉄道路線は幹線ばかりでなく生活用の支線も多くが敷設さ



れ地方経済を活性化させた。

朝鮮総督府からの補助金による 1,527 件の農業用ダムと 410 件の水路の建設、5 億 9 千万本以上の植林や砂防ダム建設などの水利事業も行われた。

1920 から 30 年代の朝鮮半島の経済成長率は年間約 4% で、同じ期間の欧州 (1% 台) や日本・アメリカ (3%) に比べて、より高い成長をしている。

<平均寿命>

衛生面では、生活面における衛生指導や集団予防接種が行われ、当時朝鮮半島で流行していたコレラ、天然痘、ペストなどの伝染病による乳児死亡率が減少し、平均寿命は 24 歳から 56 歳まで伸びた。

また農地の開発や農業技術の指導により食糧生産量も激増したことで、人口は併合時 (1910 年) の調査では 13,128,780 人、1944 年の調査では 25,120,174 人となり、平均寿命も併合時 (1910 年) 24 歳だったものが、1942 年には 45 歳まで伸びた。

食糧生産は年々増加し、併合前の 1909 年には 746 万石であった収穫高は、1918 年には 1529 万石と 2 倍以上に、更に 1942 年には 2489 万石なった、



<資本主義の萌芽>

韓国や北朝鮮では、現在も朝鮮の資本主義の萌芽を李氏朝鮮時代に求め、「芽生えた朝鮮の資本主義は成長する前に日韓併合による植民地化によって 1945 年まで大きく抑制されていた」という説が通説となっている。

これに対し、ハーバード大学教授で朝鮮史が専門のカーター・J・エッカートは、李氏朝鮮時代の経済規模は同時代の日本や中国と比べて小さく、当時の商人と後の時代の資本家とのつながりがほとんど無いため、資本主義の萌芽が李氏朝鮮時代には存在せず、日韓併合による日本の政策によって生まれ、特に戦後の韓国の資本主義や工業化は、日本の朝鮮半島での近代化政策を模したものであると発表している。

<朝鮮人の独立運動>

1919 年には三・一独立運動が起こって大規模な暴動にまで発展し、朝鮮中を巻き込んだ。この独立運動は約一年間続き、暴動と総督府側による取締りによって多くの死傷者がでた (運動家に殺害された者も多い)。事件直後に行われた調査結果を記した資料によれば、8,437 人が逮捕された。しかし逮捕者への刑罰は主犯でも最高で懲役 3 年以下という軽いものであった。死者数は 553 人、負傷数は 1,409 人である。当時上海に亡命中の朴殷植は『韓国独立運動之血史』に 46,948 人が逮捕され、7,509 人が死亡し、15,961 人が負傷したと記している。

女学生・柳寛順は三・一独立運動を扇動した罪で投獄・拷問され 16 才で殺された。

こうした中、いくつかの悲劇が発生した。最も有名な「堤岩里事件」は、4 月 15 日に小学校焼き討ちと警察官 2 名の殺害の容疑で堤岩里の成人男性住民 30 余名を教会堂に集めたところ、取調べ中に容疑者 1 名が逃げようとして憲兵に斬殺され、それを見た他の容疑者が暴徒化した為に全員が射殺され、放火などにより 15 村落 317 戸が延焼し、39 人が死亡した事件である。



<朝鮮半島の人口推移>

西暦	朝鮮半島居住の朝鮮人
1753 年	730 万人

1850年	750万人
1864年	802万人
1885年	897万人
1891年	788万人
1904年	710万人
1907年	1167万人
1910年	1313万人
1942年	2553万人

日韓併合とともに朝鮮人の人口は、驚異的に増加した。たとえば、韓国の教師用国定歴史(国史)教科書によると、1777年、総人口は1,804万人であったが、100年後の1844年には1,689万人で6.79%減少した。さらに日韓併合時の1910年には、1,313万人となった。それが、32年後の1942年の人口は2,553万人で、併合時の倍近くになった。このことは、李朝518年の統治がいかにひどいものであったかを如実に証明している。

<参考>

——崔基鎬著『歴史再検証 日韓併合の真実』より
 朝鮮併合の真実
 ★日本統治時代の朝鮮(Wikipedia)より
 李氏朝鮮(Wikipedia)

③朝鮮王朝末期の混乱とキリスト教伝播

韓国のキリスト教史を見たとき、歴史を通して日本の関与が大きかったことがわかります。まず1593年の文禄・慶長の役の時に、キリシタン大名であった小西行長とともに、イエズス会司祭が朝鮮に渡り、小西行長は朝鮮人養女を得て洗礼を施し、歴史上初の朝鮮人キリスト教徒となりました。



朝鮮初のプロテスタント教会
1884年(ソレ教会)



1945年 出獄した牧師たち

朝鮮王朝末期には、カトリック弾圧の激しかった朝鮮において、1876年日本が日朝修好条規を締結したのをきっかけとし、アメリカ、フランス、ロシアなども通商条約を結ぶことになり、キリスト教布教も活発に行われるようになりました。1903年から1908年には韓国キリスト教のリバイバル(信仰復興)が起こり、平城は東洋のエルサレムと呼ばれるほどに急激にキリスト教が普及しました。1910年の日韓併合の後、朝鮮総督府は日本組合基督教会に莫大な資金援助を行い、朝鮮植民地伝道を繰り広げました。この後真のお父様が1920年に誕生されましたので、再臨のメシヤを迎えるために、その環境整備としてカトリックを弾圧していた朝鮮王朝が方針を転換し、キリスト教が受け入れられ、朝鮮半島に急激にリバイバルが起こったと言えるでしょう。その方針転換のきっかけが日本との日朝修好条規であり、朝鮮総督府による日本組合基督教会への莫大な資金援助がメシヤ降臨を後押しをしたと言えるでしょう。

韓国のキリスト教

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

★朝鮮への初めてのキリスト教

朝鮮に初めてキリスト教の宣教師が足を踏み入れたのは、1593年に文禄・慶長の役に参加していたキリシタン大名小西行長の求めに応じて朝鮮に渡ったイエズス会司祭グレゴリオ・デ・セスペデスが最初である。この戦役において小西はジュリアおたあとと呼ばれる朝鮮人養女を得ており、彼女は養父にならって受洗し、歴史上初の朝鮮人キリスト教徒(受洗者)と考えられている。

★朝鮮王朝末期のカトリック弾圧

1801年、王朝を守るためとの理由でカトリックの弾圧を強化した(辛酉教獄)。

この弾圧でカトリック信者、巻き込まれた者もあわせて数万人が犠牲になったと言われている。

カトリックへの弾圧は1815年、1827年、1838年など、断続的に行われた。

・主なカトリックへの弾圧

1801年、辛酉教獄: 清国人宣教師周文謨・進士黄嗣永ほか300名あまりを処刑

1839年、己亥教獄: フランス人宣教師ローラン＝マリ＝ジョゼフ・アンベールほか200名あまりを処刑

1846年、丙午教獄: 金大建ほか20名あまりを処刑

1866年、丙寅教獄: 大院君政権は、迫り来る西洋列強に対しては強硬な鎖国・攘夷策を取りカトリックへの弾圧を強化し、1872年までの間に8千人あまりの信徒を殺害した。



★朝鮮王朝末期の混乱とキリスト教伝播

・1875年日本軍艦を攻撃した事件(江華島事件)が発生、翌1876年に日朝修好条規(江華島条約)を締結して日本側に謝罪。

それ以降閔氏政権は開国政策に切り替え、アメリカ(米朝修好通商条約)、フランス、ロシアなどとも通商条約を結んだ。

朝鮮の開国によって欧米諸国との外交関係が樹立されると、プロテスタント諸派が朝鮮に宣教師を派遣した。

・1882年に大院君は閔妃暗殺を狙い、クーデターに動いた(壬午事変)。

この軍乱で日本も標的とされ日本公使館が焼き討ちにされ日本人が多数殺害された。

事変後には済物浦条約が締結され、日本に謝罪を行うとともに日本人保護のために日本軍の朝鮮駐留が認められた。

清によって復権した閔氏政権は、親日開明政策から開明に消極的な親清政策へ大きく転換する事になる。

・1884年に定住した宣教師によるプロテスタントの朝鮮布教は、メソジスト派と長老派の宣教師によって始められた。

・1884年12月、清国軍と朝鮮人によって日本公使館は焼き払われ日本人数十人が殺害された(甲申政変)。事件後には守旧派によって開化派への処刑が徹底的に行われ、開化勢力は消滅し、清国の影響力が増大した。

・1885年にはイギリス軍によって巨文島が占領された(ポート・ハミルトン事件)。

・1885年に長老派は少年向けの培材学堂、

・1886年にメソジスト派は少女向けの梨花学堂を創設して教育に力を注いだ。

・1887年スコットランドの長老派から満州へ派遣されたジョン・ロスにより新約聖書全巻が翻訳・出版され、朝鮮に持ち込まれた。

・1894年には東学党の乱(甲午農民戦争)が勃発すると閔氏勢力は清に援軍を求めた。

一方日本も条約と居留民保護、列強の支持を盾に介入し、乱は官軍と農民の和議という形で終結するが、淮軍と日本は朝鮮に駐屯し続けた。日本は閔氏勢力を追放し、大院君に政権を担当させて日本の意に沿った

内政改革を進めさせた。

- ・1894年日清戦争が勃発し日本軍が勝利すると、朝鮮は清への服属関係を廃棄し独立国となった。しかしその後、朝鮮は宗主国をロシアに変える動きを見せ、閔妃はロシアに近づき、親露政策を取る事になる。
- ・1895年10月に閔妃が惨殺される(乙未事変)。
- ・1897年、朝鮮は大韓帝国と国号を改称し、元号を光武とした。
- ・1904年になると、日露戦争が勃発し、日本が勝利する。
- ・1905年には第二次日韓協約が締結された。日本は朝鮮(大韓帝国)の外交権を接收し、内政・財政に関しても強い影響力を得て朝鮮の保護国化を推し進めていく。
- ・1906年、日本は韓国統監府を置き、伊藤博文を初代統監とした。
- ・1903年から1908年には韓国キリスト教のリバイバル(信仰復興)が起こった。
- ・1907年、R・A・ハーディーら宣教師の聖書研究会によって、信仰復興は広まった。
- ・1910年8月22日に韓国併合ニ関スル条約が締結、ここに大韓帝国は日本の一部となり、朝鮮半島の国家は完全に消滅した。
- ・1910年の日韓併合の後、朝鮮総督府は日本組合基督教会の指導者海老名弾正に朝鮮宣教を命じ渡瀬常吉を派遣。朝鮮総督府より莫大な資金援助を受けて朝鮮植民地伝道を繰り広げる。

④もし日本が韓国を統治しなかったら…ロシアによる統治

李氏朝鮮末期、朝鮮王朝は大院君と閔氏政権による主導権争いが続き、暗殺、内乱、武力闘争、クーデターを繰り返していました。同時にそれは親日開国政策と親清守旧政策との駆け引きでもありました。しかしそんな逼迫した状況の中でも朝鮮の官僚制度は腐敗堕落し、日本の発展に興味を持つ者も少数はいたものの、多くの者は搾取や不正利得ができなくなるという私利私欲のために改革に反対していました。

1894年日清戦争が勃発し日本軍が勝利すると、朝鮮は清への服属関係を廃棄し独立国となりました。しかしその後、朝鮮は宗主国をロシアに変える動きを見せ、親露政策を取る事になりました。1904年になると日露戦争が勃発し、日本が勝利することによって、ロシアの南下政策に楔を打つことができました。このような経緯を経て、1905年に第二次日韓協約が締結され、日本は朝鮮の外交権を接收し、内政・財政に関しても強い影響力を得て朝鮮の保護国化を推し進めていくようになりました。このような経緯をもって日本は朝鮮を統治することになりましたが、もし日本が朝鮮を統治していなかったら、朝鮮は間違いなくロシアを宗主国として、ロシアの支配を受けるようになっていました。



もしロシアが朝鮮を支配するようになったら、朝鮮はどのようになっていたのでしょうか？当時の欧米は植民地にしたアジア人を全く人間扱いしませんでした。文字通り奴隷と同じ扱いです。ですから一番考えられることは、ロシアも朝鮮に自国の税金を投資し、インフラを整備することなどありえず、朝鮮の農産物や鉱産物を搾取できるだけ搾取し、過酷な植民地政策をしていた可能性が高いでしょう。

しかし現実的には **1917年にロシア革命**が勃発し、ロシアは共産化され、ソビエト連邦が発足しましたので、**必然的に朝鮮も共産化**されてしまったでしょう。無神論を奉じるソビエト政権が成立すると、キリスト教徒たちは、共産主義勢力に抵抗する者や、ロシアに残って共産主義勢力に一定程度妥協する者、亡命する者、地下活動に移る者などに分かれたといえます。つまり1903年から1908年に起こった韓国キリスト教のリバイバルも消え失せ、キリスト教徒たちは迫害の中に身をさらすようになっていたことでしょう。

果たしてこのような環境の中で真のお父様は韓半島に誕生することができたでしょうか？誕生することができたとしても、キリスト教徒と出会い、イエスの啓示を受け、再臨主としての道を進むことはできたのでしょうか？ソビエト政権下では**2,300万人が虐殺された**といひます。真のお父様の親族は虐殺されることなく、真のお父様をこの世に誕生させることはできたでしょうか？

いろいろな可能性を考えてみても、朝鮮がロシアを宗主国としていたら、真のお父様が韓半島に生まれていたかどうか、またはメシヤとしての道を進むことができたかどうか、非常に疑わしいと言わざるを得ません。それはロシアではなく、清または中華人民共和国であったとしても、同じような可能性が高いことでしょう。

結論を言えば、再臨の主、メシヤを韓半島に誕生させるためには、日本が朝鮮を統治するのが、最もふさわしい政治状況だったと言えます。逆に日本でなければ、人類の真の父母様をこの地上に誕生させることが難しかったかもしれません。

⑤世界の植民地統治政策

欧米列強のアジア侵略はいかにして行われたか？

15世紀の大航海時代で世界に進出した西欧列強は、やがてアジア全域を植民地化した。

彼ら白人帝国主義国はいかなる侵略行為を行ったのか。

1 掠奪と搾取

350年にわたりインドネシアの香辛料など独占的に収奪したオランダは、19世紀に入ると、強制的栽培制度を導入し耕地の5分の1(実際は半分)にわたって、コーヒー・砂糖・藍などのヨーロッパ市場向け作物を強制的栽培させた。これによる巨額な収益は国家予算の3分の1を占めた。

インドシナ半島東部を支配したフランスは、土地を収奪しフランス人らに無償で与えたため、農地を奪われた農民は小作人からさらに債務奴隷へと没落した。

茶の輸入により輸入超過になったイギリスは、中国へ流出した多額の銀を取り戻すためにインドにけし栽培を強制し、大量のアヘンを中国に密輸して暴利を得た。財政悪化を招いた清はアヘンの密輸を取り締まったため、イギリスはこれを口実に戦争を仕掛け、香港を租借した。これが悪名高いアヘン戦争である。

2 貧困と飢餓

土地の集約的耕作と輸出用換金作物の大規模栽培は、無料に近い土地で低廉な労働力を使い、莫大な収益をあげるものがほとんどであった。そして、マレーのゴム、インドの綿花というように、特定の一次商品を宗主国に輸出し、完成消費財を輸入するという経済構造に変質した。

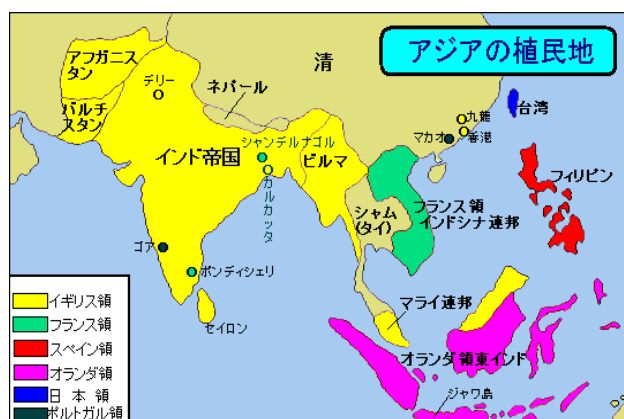
その結果、水田の減少や失業者の増加により、飢饉に際して多くの犠牲者を出す地域が現れた。ジャワでは人口33万の町が12万に減少したり、インドではイギリスの支配ののち飢饉が増加し、1877年の南インドの飢饉では5百万人が死亡し、1943年での犠牲者はベンガル地方だけで340万にも達した。



3 複合民族化

大規模農業の急速な開発によって、大量の労働者を必要とした列強宗主国は、大量の移民政策をとった。インドネシアでは、中国人苦人(クーリー)が1860年の20万人から1930年の123万人と6倍に増加。マレー半島では、鉱山労働者に中国人、ゴム園労働者にインド・タミール人が大量に移入された。

植民統治では、上部に白人支配層が、次に華僑やインド人などの外来アジア人が、最も人口の多い現地民が最下層の地位におかれるという階層社会を造った。



4 弾圧と虐殺

列強は植民地支配への反乱については、きびしい弾圧と虐殺でのぞんだ。

イギリスは、1857年に起こったセポイの反乱に徹底的な弾圧を加えた。イギリスは、みせしめのため捕虜の集団銃撃や焼き殺しなど、珂責ない弾圧と虐殺を行った。フランスのベトナム支配では、1940年のメコン河流域の住民蜂起では、6000人のベトナム人が逮捕され、サイゴンの監獄は満員となり多くの囚人が死亡した。米西戦争に勝ったアメリカは、フィリピンに戦争を仕掛けて全域を制圧した。また1906年、アメリカ式の土地制度などに反発したイスラム系住民の反乱の時は、米軍は彼らの砦を包囲し、戦闘員から女子供を含めて6百人全員を皆殺しにしてしまった。



<列強に侵略にあえぐアジア>

・清(中国)

1662年以降、中国を支配した満州族の清は、東インド会社が経営するインドとの貿易を開いていたが、イギリスとのアヘン戦争やアロー戦争の敗北を契機に列強に不平等条約を締結させられ、外国の圧力を受けた。特に日清戦争の敗北後は、ロシア・イギリス・フランス・ドイツなどによって鉄道の敷設権や要地の租借権を奪われ、半ば植民地の状態となった。

・インド

1600年にイギリスがインドに進出して乗インド会社を設立し、度重なる征服戦争を繰り返して全土を征服した。イギリスは、セポイの反乱の武力鎮圧後、1877年にムガル帝国を滅ぼして英領インド帝国を樹立。以後は直接統治を行い、苛酷な植民地経営を行った。

・ミャンマー(旧ビルマ)

17世紀以降、イギリスの東インド会社と貿易を行っていたが、イギリスが三度にわたるミャンマー(ビルマ)戦争でこれを征服し、1886年に全土をインド帝国に併合し、植民地化した。

・インドネシア

17世紀よりポルトガル・オランダ・イギリスなどが進出し、1818年にオランダがマタラム王国を滅ぼして植民地にし、19世紀末までにスマトラ、ボルネオを支配し、1904年にオランダ領東インドをつくって植民地体制を確立した。

・マレーシア

15世紀にマラッカ王国がポルトガルに支配され、17世紀にはオランダの支配を受けた。18世紀後半に入るとイギリスが進出し、イギリスは、ペナン・シンガポール・マラッカを海峡植民地として直接統治し、さらに北ボルネオ・マライ半島への支配を強化して1895年にマライ連邦を結成した。

・インドシナ三国

ベトナムは19世紀の阮朝がフランスの軍事介入を受け、1885年フランスの保護国となった。

カンボジアはベトナムがフランスの植民地にされると1863年にフランスの保護国とされた。

ラオスも1893年にフランスの保護国となった。



フランスは、このインドシナ3国を併合して仏領インドシナ連邦(仏印)を形成した。

・フィリピン

16世紀にマゼラン率いるスペイン遠征隊が侵入。武力でルソン島を平定したスペインは1571年に植民地とし、皇太子フィリップにちなみここをフィリピンと命名した。1898年には米西戦卑でスペインに勝ったアメリカがフィリピンの植民統治を行い、徹底した英語とキリスト教の普及を押し付けた。

⑥世界はどのように大東亜戦争を評価しているか

日本は第二次世界大戦に敗北することにより、第二次世界大戦は日本の侵略戦争であり、戦前の日本の政策はすべて悪だったという自国を否定するような自虐史観を植え付けられました。

しかし近年になり、公開されたハルノート等により、日本はアメリカの策略により太平洋戦争に引き込まれたのであり、日本の植民地政策は正しいものだったという情報も流されるようになりました。

一体どちらの情報が正しいのか？

私たち日本人は今日に至るまで、ほとんど日本は加害者という教育を受けてきました。そこで「ここでは自存自衛と大東亜の解放を掲げて戦われた日本の戦争は、アジアの諸国民や各国の識者からどのように受け止められているのだろうか」ということを、多くの記事の中からまとめられたものをご紹介します。

太平洋戦争とはいったい何だったのか 1946年(昭和21年)5月3日、東京。

元アメリカ大統領ハーバート・フーヴァーと連合軍最高司令官マッカーサーは「太平洋戦争とはいったい何だったのか」を3日間にも渡って話し合った。

そのとき、日本人なら誰も思いもしないようなことをフーヴァーは口にした…

「太平洋戦争は、日本が始めた戦争じゃない。あのアメリカの『狂人・ルーズベルト』が、日米戦争を起こさせた。気が狂っていると言っても精神異常なんかじゃない、ほんとうに戦争をやりたくてしょうがなかった…その欲望の結果が日米戦争になったんだ」

■タイ

◎ククリット・プラモード 元首相

「日本のおかげで、アジアの諸国はすべて独立した。日本というお母さんは、難産して母体をそこなったが、生まれた子供はすくすくと育っている。今日、東南アジア諸国民が、アメリカやイギリスと対等に話ができるのは、一体だれのおかげであるのか。それは『身を殺して仁をなした』日本というお母さんがあったためである。12月8日は、われわれにこの重大な思想を示してくれたお母さんが、一身を賭して重大決意された日である。さらに8月15日は、われわれの大切なお母さんが、病の床に伏した日である。われわれはこの2つの日を忘れてはならない。」

■マレーシア

◎ラジャー・ダト・ノンチック 元上院議員

「私たちは、マレー半島を進撃してゆく日本軍に歓呼の声をあげました。敗れて逃げてゆく英軍を見たときに、今まで感じたことのない興奮を覚えました。しかも、マレーシアを占領した日本軍は、日本の植民地としないで、将来のそれぞれの国の独立と発展のために、それぞれの民族の国語を普及させ、青少年の教育をおこなってくれたのです。」

■インドネシア

◎サンバス 元復員軍人省長官

「特にインドネシアが感謝することは、戦争が終わってから日本軍人約1000人が帰国せず、インドネシア国軍とともにオランダと戦い、独立に貢献してくれたことである。日本の戦死者は国軍墓地に祀り、功績を讃えて殊勲章を贈っているが、それだけですむものではない。」

■インド

◎グラバイ・デサイ インド弁護士会々長

「インドは程なく独立する。その独立の契機を与えたのは日本である。インドの独立は日本のお蔭で 30 年早まった。これはインドだけではない。インドネシア、ベトナムをはじめ東南アジア諸民族すべて共通である。インド 4 億の国民は深くこれを銘記している。」

(1946 年の軍事裁判に出廷した藤原岩市氏らに)

■スリランカ

◎I・R・ジャヤワルダナ 大統領

「往時、アジア諸民族の中で、日本のみが強力かつ自由であって、アジア諸民族は日本を守護者かつ友邦として、仰ぎ見た。…当時、アジア共栄のスローガンは、従属諸民族に強く訴えるものがあり、ビルマ、インド、インドネシアの指導者たちの中には、最愛の祖国が解放されることを希望して、日本に協力した者がいたのである。」(1951 年、サンフランシスコ対日講和会議演説)

⑦大韓民国臨時政府

日本による朝鮮統治時代を研究すると、抗日運動の拠点としての大韓民国臨時政府の存在の大きさに改めて気づかされます。

大韓民国臨時政府というと、真のお父様の日本留学時代、抗日運動の中心人物として、上海にある大韓民国臨時政府と連絡を取り合っていたということは有名な話です。

同じように真のお父様の祖父の弟、文潤國牧師が、文家の財産をすべて独立運動に捧げ、それでも足りないと言いつつ、村人たちからお金を集めては抗日運動に送金していたというのも、同じ上海臨時政府にでした。

文潤國牧師は結局、自分がそのお金を抗日運動に献金したとは言わなかったために、村人たちから詐欺師呼ばわりされ、その村に残ることもできなくなり、一人故郷を迫られ、見知らぬ街で誰にも見取られることもなく客死したと言います。



このように真のお父様の生涯路程にも度々登場する大韓民国上海臨時政府ですが、抗日運動の拠点だったということもあり、今日に至るまで抗日運動家たちに信じられている捏造された間違った情報も、ここから発せられていたのです。

例えば私たちが主の路程等で教わった、日帝 36 年時代の日本人による韓国人迫害の様子は、大韓民国臨時政府の第 2 代大統領朴殷植氏が著した『韓国独立運動之血史』にある迫害の様子に酷似しています。『韓国独立運動之血史』では日本による朝鮮迫害をどのように表現しているのか見てみたいと思います。

・1919 年に起こった韓国独立運動(三・一運動)について

「平和的なデモをしていた朝鮮人たちを、日本軍警察が無差別に虐殺し、日本の軍警察は、馬に乗り剣をふるって横行し、デモ隊を乱撃した。また人の目を刺し、人の耳をもぎ、人の腕を切り落とし、人の鼻をそぐなどの残虐性をはっきした、一般市民も、少女とか、女性の性器を切り、股裂きをした」

「日本は独立を妨害するために、あらゆる悪行を犯した。日本は独立を叫ぶ人々に向かって銃を撃ち、民家、教会、学校に火をつけた」

「10 歳にならない少女と婦女子らが恥辱的な扱いを受け、身体を殴られ、幼い少女たちも残酷に殴られ、7 歳以下の幼い少女ら 300 余命が殺害された」

実に残忍で惨たらしい迫害の様子ですが、教会のセミナーでも似たような迫害の様子を聞きました。

このような生々しい迫害の様子は、ネットや本を探しても、なかなか見つけることはできません。見つけることができるのであれば吉田清治氏の書いた著作物のみです。

この吉田清治氏の濟州島での慰安婦狩り等の証言は、朝日新聞によって 16 回にわたり連載され、反日思想

の根拠となっていました。朝日新聞は2014年8月5日に吉田証言を虚偽と判断し、すべての記事を取り消しました。

しかし教会内では自虐史観に縛られ、『韓国独立運動之血史』にあるような韓国人への迫害が行われたと今でも信じられていることでしょう。

大韓民国臨時政府が流した、もう一つの間違った情報に関東大震災時における、朝鮮人虐殺事件です。関東大震災時日本人自警団によって6000人も朝鮮人が虐殺されたと信じられてきましたが、その情報は上海臨時政府が震災時に機関紙の「独立新聞」に掲載した数字でした。しかしこの数字は、実際に震災現場で確認した数字ではなく、何の裏付けもない伝聞によってはじき出された数字だったのです。

日本の公式記録では「自警団に殺された朝鮮人の数は231人」となっていますし、多く見積もったとしても数百人と言われています。

そればかりではなく朝鮮人を虐殺したということも単純な虐殺事件ではありませんでした。

共産党と根元が同じ在日朝鮮統一民主戦線の朝鮮人が関与し、各地で在日朝鮮人たちによる暴動や火事場泥棒が多発し、そのことに注意喚起する新聞記事によって自警団が結成され、多数の朝鮮人の虐殺が行われたというのです。

もちろんどんな理由があつたとしても虐殺など許されるわけではありませんが、理由もなく朝鮮人虐殺事件が起こったわけではなかったということです。

・大韓民国臨時政府の初代大統領は李承晩でした。

そして第二代大統領が『韓国独立運動之血史』を著した朴殷植でした。

そしてその体制は金九によって引き継がれました。

大韓民国初代大統領李承晩の詳細に関しては後から詳細を述べたいと思いますが、これら大韓民国臨時政府の指導者たちを見ると、大韓民国臨時政府とはいかなる機関だったかということが想像できます。

李承晩大統領は、今日に至るまで韓国の反日思想の基礎を作り上げた独裁者であり、後の大量殺戮者でした。

朴殷植は、反日の思想的根拠を捏造によって作り上げた張本人です。

そして主の路程にも登場する金九は、今でも独立運動の英雄として、多くの韓国人の尊敬を受けていますが、実際の人物像は少し違っていたみたいです。

金九は元々日本人を殺した殺人犯であり、数多くの暗殺を指揮したテロリストでした。

真のお父様とも関わりのあつた金九についてももう少し詳しく見ていきたいと思ひます。

・金九の起こした殺人事件、1896年鷗河浦事件

食事を注文した時に女給が自分より先に食膳を与えるのを見て憤慨し、閔妃殺害にはなんら関係がない日本人の土田讓亮を日帝・日本人への懲罰として殺害した。

殺害後金品を奪って逃走、捕縛され、強盗殺人犯として死刑判決を受けた。特赦により減刑されたが後に脱獄。

・金九の証言(『白凡逸志』日本語版 平凡社(1973年)79ページ)

倭奴(ウェノム)の頭から足の先まであちこちを切りつけた。二月の寒い明けがたのことで、氷が張っていた地面に、血が泉の湧くように流れた。わたしは手でその血を掬って飲み、またその倭(ウェ)の血をわたしの顔に塗り付け…

1921年、ソ連の政治資金が臨時政府に上納されていないという理由で、青年たちに韓国人の共産主義者たちの暗殺を指示。

1922年11月、金九が刺客を放ち、韓国人共産主義者金立が上海で狙撃殺害される。



1932年、韓人愛国団の李奉昌が昭和天皇暗殺を狙った桜田門事件、尹奉吉による上海天長節爆弾事件などのテロを指令。

1947年12月、韓民党の党首・張徳秀を暗殺した疑いで米軍の法廷に召喚される。

このようにいくつかの暗殺を指揮しただけでなく、国時先生の真とのお父様の秘史「救国への奇跡」を見ると、真のお父様をも暗殺しようとしたということが述べられています。

救国への奇跡—大東亜戦争の陰で—国時先生米国講演より

「1946年5月27日の、お父様が急に、お米を買いに行ったその帰り道に啓示を受けて、急に北に行ったということは、蒋介石の手先の金九の一味が、お父様の命に狙いをつけていたということです。」

金九先生という、今でも韓国で最も英雄視される人物ですが、否定的な評価も現れてきました。

韓国の右翼論客の池萬元氏は「金九は現代版に解釈すればウサマ・ビンラディンのような人間。国を経営できる人間ではない。実力が足りないながらも李承晩に嫉妬した人間」と評論しています。

ジャーナリストの金完燮氏も「偏狭な儒教思想に凝り固まった無知蒙昧な人物」「金九については生まれつきの殺人鬼だと思わずにはいられない」と評論しています。



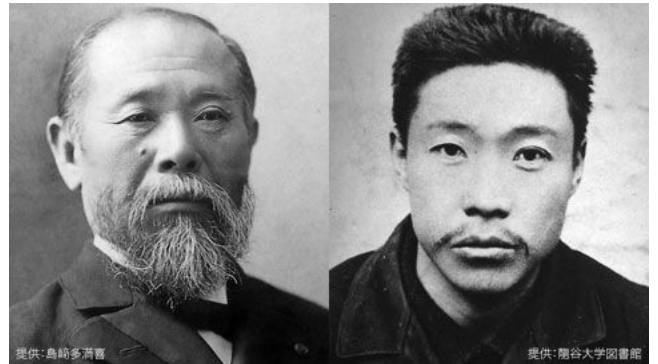
このような事実を知るまでは、上海臨時政府は大叔父文潤國牧師が詐欺をしてまでお金を作り支援を行っていた独立運動の拠点であり、真のお父様も上海臨時政府と連絡を取りながら日本で抗日運動を展開していたということを学んでいましたので、摂理的にも重要な独立運動組織であると思っていたのですが、一人一人の中心的な指導者たちを見ると残念ながら別の側面も見えてきました。

安重根は韓国側から見ると独立運動の英雄ですが、日本側から見ると伊藤博文元総理を暗殺したテロリストです。上海臨時政府も韓国側から見ると、独立運動の拠点として大きな役割を果たした機関ですが、日本側から見たらただのテロ組織です。

立場が変われば評価も変わります。

しかしその組織を構成している中心人物たちを見ると、上海臨時政府はとても評価できるものではありません。大量殺戮者であり、事実を捏造し情報を操作する人たちであり、元々人殺しでありました。自分達の思想を正当化し、都合の悪い事実は抹消し、反対する者たちを力づくで消し去る人たちです。

そんな人たちによって作られた反日思想が今も韓国を席卷しています。だからこそ今正しい歴史教育が必要なのです。



<参考>

大韓民国臨時政府 (Wikipedia)

大韓民国臨時政府は、1919年(大正8年)の日本統治時代の朝鮮で起こった三・一運動後、海外で朝鮮の独立運動を進めていた活動家李承晩・呂運亨・金九らによって、中華民国の上海市で結成された朝鮮(韓国)のテロ組織である。

日中戦争勃発後は所在地を上海から重慶に移した。たえまない党



↑大韓民国臨時政府と朝鮮義勇隊の移動経路

派間の対立と連合を続けていたため、蒋介石や中国国民党が党派間の融和のために指導を行っていた。

第二次世界大戦の終戦後、アメリカや他の連合諸国は大韓民国臨時政府がポーランド亡命政府のように第二次世界大戦で貢献をしていないことから、何かしらの地位を与えることを故意に控えるなど、国際的な承認が得られることはなかった。

1919年9月に統合された臨時政府は国務総理に李東輝を選出し、1920年に李東輝が臨時政府を去ると李東寧・申圭植・盧伯麟が国務総理代理を引き受けた。国務総理代理体制は1922年9月、李承晩の大統領制に改編され、1925年には朴殷植を大統領に選出した。1926年末に構成された金九内閣は1927年、集団指導体制である国務委員制に改編した。

<参考>

朴殷植(Wikipedia)

朴殷植は、朝鮮の歴史家、作家、民族主義運動家、政治家。

大韓民国臨時政府の第2代大統領(1925年3月 - 7月)を務めた。



朴の漢文の素養と宋明理学への深い造詣を下地とした、高い文章表現力によって支えられていると韓国では評価され、韓国歴史学で多く参照、引用される。その主著『韓国独立運動の血史』は朝鮮人の民族意識鼓舞の目的で1919年から1920年にかけて、亡命先の上海で、文献や伝聞、新聞資料等の資料から作成したもので、そのため数値や事実関係の検証が徹底しておらず、多数の誤りが(韓国人の歴史家によって)指摘されている。内容について、民族主義を鼓舞するための記述であって考証を意識した記述ではないとの指摘もある。

『朝鮮独立運動の血史』より

「日本では母子が性交する」

「日本は国や個人財産に至るまで、みな狡猾と暴力によって奪った」

「日本はその野蛮な習慣を我が民族に強制し、倫理を冒瀆した」

・1919年に起こった韓国独立運動(三一運動)について

「平和的なデモをしていた朝鮮人たちを、日本軍警察が無差別に虐殺し、日本の軍警察は、馬に乗り剣をふるって横行し、デモ隊を乱撃した。また人の目を刺し、人の耳をもぎ、人の腕を切り落とし、人の鼻をそぐなどの残虐性をはっきした、一般市民も、少女とか、女性の性器を切り、股裂きをした」

「日本は独立を妨害するために、あらゆる悪行を犯した。日本は独立を叫ぶ人々に向かって銃を撃ち、民家、教会、学校に火をつけた」

「10歳にならない少女と婦女子らが恥辱的な扱いを受け、身体を殴られ、幼い少女たちも残酷に殴られ、7歳以下の幼い少女ら300余命が殺害された」

・『朝鮮独立運動の血史』では、3月～5月に集会参加者延べ約202万、**死傷者が7509名**、負傷者が15961名としている。

・**日本警察の集計**

3～4月11日であるが参加人数約49万、**死者357名**、負傷者802名となっている。

三・一運動期間中、6月30日までに逮捕され起訴された総数は26865人、第一審判決で最高15年から最低3月未満までの受刑者が22275名であった。

日本人の憲兵6名と警察官2名が虐殺され、多くの建物が放火されたにもかかわらず、死刑を一人も求刑せず、15年以上の実刑もなく、3年以上の懲役はわずか80人に過ぎなかった。

・(朝鮮日報日本語版) **三・一節:国史編さん委**が初の公式集計「運動参加者103万人・**死者934人**」

・**韓国の国史編さん委員会**は20日、1919年3月1日に起きた日本からの独立運動である三・一運動の当時、80～103万人がデモに参加し、**725～934人が死亡**したとする集計を明らかにした。日帝(日本帝国主義)による既存資料に基づくデモ参加者数58万人、死者553人を最大で1.7倍上回る数値だ。

<参考>

金九(Wikipedia)

金九は、朝鮮の民族主義者、韓国の政治家、韓国独立党党首。韓人愛国団を率い大韓民国臨時政府主席を務めた。

1919年以來、上海で臨時政府に参加し、大韓民国臨時政府の警察本部長、内務大臣、大統領代理、國務領(大統領)などを務めた。1924年、満州の朴喜光と通じ親日派暗殺、主要公館破壊などを指揮し、韓人愛国団を組織して李奉昌の桜田門事件、尹奉吉の上海天長節爆弾事件を指示した。1940年から1947年まで大韓民国臨時政府の主席であったが、李承晩と対立して1949年6月26日に暗殺された。

1896年鳴河浦事件。食事を注文した時に女給が自分より先に食膳を与えるのを見て憤慨し、閔妃殺害にはなんら関係がない日本人の土田讓亮を日帝・日本人への懲罰として殺害した。金九は後に土田のことを日本陸軍中尉と記しているが、被害者の土田は長崎県出身の商人であった。殺害後金品を奪って逃走、捕縛され、強盗殺人犯として死刑判決を受けた。後に特赦により減刑され、さらにのち、脱獄する。

資料

倭奴(ウェノム)の頭から足の先まであちこちを切りつけた。二月の寒い明けがたのことで、氷が張っていた地面に、血が泉の湧くように流れた。わたしは手でその血を掬って飲み、またその倭(ウェ)の血をわたしの顔に塗り付け…

—金九、『白凡逸志』日本語版 平凡社(1973年)79ページ

1921年、ソ連の政治資金が臨時政府に上納されていないという理由で、青年たちに韓国人の共産主義者たちの暗殺を指示。

1922年11月、金九が刺客として放った呉冕植と盧鍾均により韓国人の共産主義者・金立が上海で狙撃殺害される。

1932年、韓人愛国団の李奉昌が昭和天皇暗殺を狙った桜田門事件、尹奉吉による上海天長節爆弾事件などのテロを指令する。

1947年12月、韓民党の党首・張徳秀を暗殺した疑いで米軍の法廷に召喚される。

<評価>

肯定的評価

抗日独立活動が長期に渡ったことや右翼でありながら反共よりも統一志向に基づく活動をつづけたことに加えて、独立後早くに暗殺されたことも関係してか、南北朝鮮・左右両翼から比較的尊敬されている人物として稀有な存在となっている。

否定的評価

韓国の右翼論客であり軍事評論家の池萬元社会発展システム研究所長は「金九は現代版に解釈すればウサマ・ビンラディンのような人間。国を経営できる人間ではない。実力が足りないながらも李承晩に嫉妬した人間」と評論している。

2004年7月27日、ジャーナリストの金完燮も「偏狭な儒教思想に凝り固まった無知蒙昧な人物」「金九については生まれつきの殺人鬼だと思わずにはいられない」と評論して、ソウル高等検察庁に起訴された。

⑧李承晩大統領

李承晩博士は、大韓民国臨時政府と、大韓民国の初代大統領です。李承晩大統領は1919年4月10日、上海で結成された「大韓民国臨時政府」の初代大統領に就任。独立建国運動の中心人物となりました。また1948年8月15日には、アメリカ合衆国後援の下、大韓民国政府樹立を宣言し、初代大統領に就任しました。李承晩大統領は日本統治時代から独立運動の中心人物だっただけに日本を激しく嫌い、アメリカ滞在中には『日本＝野蛮国論』に影響を与え、アメリカが東アジアに政治介入する政策の根拠となりました。独島(竹島)問題の発端となった李承晩ラインをはじめとして、今日まで日本と韓国間に横たわる問題の多くが、李承晩時代に端を発しています。



李承晩大統領は失脚の瞬間まで独裁的に振る舞い、韓国国内は政治的対立で揺れ続けました。李承晩大統領時代に朝鮮戦争が勃発し、共産主義者の粛清のため保導連盟事件をおこしました。また済州島四・三事件、国民防衛軍事件のような失政から国民の目をそらすべく、反日政策をいたずらに煽ることにつながったとも指摘されています。

★保導連盟事件

1948年12月1日、国家保安法を制定。

1949年6月5日、要監視対象者の教化と統制をおこなう思想保護観察団体「国民保導連盟」を組織。

この組織には転向した党員が登録されたほか、抵抗を続ける党員の家族や単なる同調者に対しても登録すれば共産主義者として処罰しないとして加盟が勧められました。保導連盟に登録すると食料配給がスムーズに行われたため、食料目当てに登録した人々も多かったといわれ、民間団体が左翼取り締まりの成績を上げるために無関係な人物を登録することもあったともいいます。

1950年6月25日朝鮮戦争が勃発、27日に李承晩大統領は保導連盟員や南朝鮮労働党関係者を処刑するよう命令。

韓国軍、警察は釜山にまで後退する一方、保導連盟に登録していた人民を危険分子と見なして大虐殺を行う。

- ・被害者は公式に確認されているもので4934人。
- ・「朝鮮戦争前後民間人虐殺真相糾明と名誉回復のための汎国民委員会」:虐殺された人数 60万人～120万人
- ・1960年4月、全国血虐殺者遺族会が遺族の申告をもとに作成した報告書:虐殺された人数 114万人。
- ・韓国政府の「真実・和解のための過去史整理委員会(ko)」:子供を含む少なくとも10万人以上の人々を殺害、遺棄。



★済州島四・三事件(Wikipedia)

済州島四・三事件は、1948年4月3日から1954年9月21日までの期間に、アメリカ陸軍支配下にある済州島で起こった島民の蜂起に伴う一連の島民虐殺事件を指す。島民の5人に1人にあたる6万人が虐殺された。また、済州島の村々の70%が焼き尽くされた

★国民防衛軍事件(Wikipedia)

国民防衛軍事件は、朝鮮戦争中の1951年1月に、韓国の国民防衛軍司令部の幹部らが、国民防衛軍に供給された軍事物資や兵糧米などを横領した事件。横領により9万名余りの韓国軍兵士が餓死したとされる。

<参考>

李承晩初代大統領(Wikipedia)

李承晩自身は李氏朝鮮の王族の分家出身であることを誇りにしていた。

1919年4月10日、上海で結成された「大韓民国臨時政府」の初代大総理に就任。

朝鮮独立から2ヵ月後の1945年10月に李承晩は在朝鮮アメリカ陸軍司令部軍政庁直接統治下の朝鮮半島に戻り、独立建国運動の中心人物となった。

1948年8月15日に、アメリカ合衆国の後援の下、朝鮮半島南部のみを実効支配する大韓民国政府樹立を宣言した。李は議会多数の支持を得て初代大統領に就任した。李政権は地主・資本家および大日本帝国統治下の朝鮮人官僚を勢力基盤としていた。

李承晩は失脚の瞬間まで独裁的に振る舞った。韓国国内は政治的対立で揺れ続けた。対立は多くの場合、「体制派と反体制派」「与党と野党」の論争というよりもむしろ「李と議会政治家たち」の軋轢であった。

李は25歳年下のフランチェスカ夫人との間に実子がいなかったため、遠縁にあたる側近で副大統領候補でもあった李起鵬の長男・李康石(イ・ガンソク)を子に迎えた。康石は1957年にソウル大学校に入学をするが、その入学が特惠措置によるものであったことから騒動となった。しかし承晩の独裁下では批判が出来ようもなく、案の定「独裁者の息子」はたびたび問題を起こし、朝鮮日報社『韓国現代史 119 事件』ではこう記されている。

「1957年8月、9月は李承晩政権の絶頂期。李康石は街の無法者となり、警察官を殴ったり、派出所の器物を壊して歩いても、誰も告発したり、処罰するものはいなかった。」

対日政策

朝鮮の独立運動に併合前後から関わっていた経歴から、李承晩は日本を激しく嫌った。アメリカ滞在中には併合以前の李朝を「東洋の理想国家」であったと積極的に言論活動を展開し、これがハースト系新聞によって宣伝された『日本＝野蛮国論』の一部となり、アメリカが東アジアに政治介入する政策の根拠となった。

また、李承晩は朝鮮が日本統治下にあった時期の殆どを海外で過ごしていたため、日本や日本人というものをステレオタイプとして抽象的にしか理解できず、反日政策をいたずらに煽ることにつながったとも指摘されている。加えて権威主義政権として基盤の脆弱であったことや、保導連盟事件、済州島四・三事件、国民防衛軍事件の様な失政から国民の目をそらすべく、今日でも李承晩の民族主義的政策による影響は根強く残っており、日本と韓国間に横たわる問題の多くが、李承晩時代に端を発している。

<参考>

保導連盟事件(Wikipedia)

保導連盟事件とは、朝鮮戦争の最中である1950年6月25日、韓国国軍、韓国警察、李承晩大統領支持者らが共産主義からの転向者やその家族を再教育するためとして設立されていた統制組織である「国民保導連盟」の加盟者や収監中の政治犯や民間人などを大量虐殺した事件。韓国では保導協会員虐殺事件とも呼ばれる。

- ・被害者は公式に確認されているもので4934人。
- ・「朝鮮戦争前後民間人虐殺真相糾明と名誉回復のための汎国民委員会」: 虐殺された人数 60万人~120万人
- ・1960年4月、全国血虐殺者遺族会が遺族の申告をもとに作成した報告書: 虐殺された人数 114万人。
- ・韓国政府の「真実・和解のための過去史整理委員会(ko)」: 子供を含む少なくとも10万人以上の人々を殺害、遺棄。

国民保導連盟による共産主義者への弾圧

李承晩率いる大韓民国政府は、ストライキや武装闘争を挑む南朝鮮労働党(南労党)を中心とする共産勢力に対して弾圧を行い、1948年12月1日、国家保安法を制定。1949年6月5日、要監視対象者の教化と統制をおこなう思想保護観察団体「国民保導連盟」を組織し、翌年にかけて末端組織を全国に拡大した。



この組織には、転向した党員が登録されたほか、抵抗を続ける党員の家族や単なる同調者に対しても登録すれば共産主義者として処罰しないとして加盟が勧められた。保導連盟に登録すると食料配給がスムーズに行われたため、食料目当てに登録した人々も多かったといわれ、警察や体制に協力する民間団体が左翼取り締まりの成績を上げるために無関係な人物を登録することもあったともいう。

朝鮮戦争から処刑へ

1950年6月25日、朝鮮戦争が勃発。朝鮮人民軍が南進しソウルに迫った。6月27日、李承晩大統領は保導連盟員や南朝鮮労働党関係者を処刑するよう命令を発し、同日中にソウルを脱出した。韓国軍、警察は釜山にまで後退する一方、保導連盟に登録していた人民を危険分子と見なして大田刑務所などで大虐殺を行った。

済州島四・三事件 (Wikipedia)

済州島四・三事件は、1948年4月3日に在朝鮮アメリカ陸軍司令部軍政庁支配下にある南朝鮮の済州島で起こった島民の蜂起に伴い、南朝鮮国防警備隊、韓国軍、韓国警察、朝鮮半島の李承晩支持者などが1954年9月21日までの期間に引き起こした一連の島民虐殺事件を指す。

南朝鮮当局側は事件に南朝鮮労働党が関与しているとして、政府軍・警察による大粛清をおこない、島民の5人に1人にあたる6万人が虐殺された。また、済州島の村々の70%が焼き尽くされた

国民防衛軍事件 (Wikipedia)

国民防衛軍事件は、朝鮮戦争中の1951年1月に、韓国の国民防衛軍司令部の幹部らが、国民防衛軍に供給された軍事物資や兵糧米などを横領した事件。横領により9万名余りの韓国軍兵士が餓死したとされる。

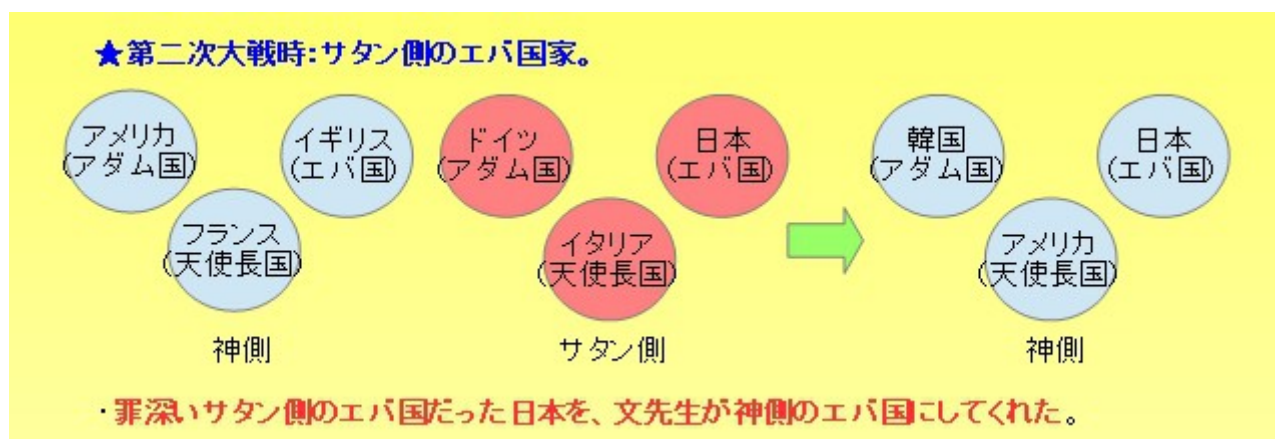
2、日本はサタン側のエバ国への疑問

原理講論の第二次世界大戦の項目を見ると、神側の連合国、サタン側の枢軸国を次のように書いています。

神側の連合国(米、英、仏):民主主義、アベル型人生観、キリスト教支持

サタン側の枢軸国(独、日、伊):全体主義、カイン型人生観、反キリスト教的立場

そしてサタン側枢軸国を形成している日本を「大戦当時の日本の軍閥は、韓国の各教会に神道の神棚を強制的に設置させ、キリスト教信徒たちを強制的に引っ張りだして日本の神社に参拝させ、これに応じない信徒たちを投獄、殺傷した。」と表記されています。つまりこれらが日本がサタン側に区分された原理的根拠となります。



またみ言を通じ、主の国韓国は建国以来、900回以上も他国から侵略され続けても、一度たりとも他国を侵略することはない、最後の侵略とも言える、日帝36年の時代には、日本によって歴史上最も過酷な迫害を受けてきたと教わりました。

この1905年の第二次日韓協約(乙巳保護条約)から40年間、主の国韓国を迫害したことが、日本がサタン側のエバ国となった最も大きな要因と言えるでしょう。

しかし日本による朝鮮統治時代を、歴史的資料に従い、できるだけ中立の立場で詳細を見てみると、キリスト教国家である欧米列強による植民地支配とは全く違った統治の様子がありました。

キリスト教国家であり、神側国家である欧米列強による植民地支配は、迫害と搾取による統治で、植民地とされたアジアやアフリカ人は虐殺され、奴隷として売られ、欧米人と同じ人間として扱われることはありませんでした。

欧米人と同等に扱われ、人としての権利が与えられたのは、日本によって欧米から解放され、第二次世界大戦が終了してから後のことでした。

また日本による朝鮮の統治は原理講論にもあるように、大東亜共栄圏構想の一環として、皇民化政策を行うことによって、神社参拝を強制したり、創氏改名などの政策も行っていました。それは朝鮮人、台湾人を大日本帝国の忠実な臣民として戦時動員体制に組み込むために実施されたものでした。

しかし一方では、今のお金に換算すると80兆円もの多額な税金や民間からの資金を投入し、道路や鉄道、生活用インフラを整備し、ダム建設、植林、農地の開拓等国土を整備して農産物を増産し、学校を建設し、身分制度を廃止することで、結果として512年間の李氏朝鮮時代、減ることがあっても増えることのなかった人口が、一気に二倍に増えたという事実からも、朝鮮人の生活が豊かになったことを表しています。

さらには日本が朝鮮半島に進出し、統治しなかったら、李氏朝鮮時代に迫害されていたキリスト教は朝鮮に根付かなかった可能性も高かったばかりか、ロシアによって統治されていた可能性が高かったことでしょう。もしロシアによって統治されていたら、ロシア革命によってロシアが共産化されると同時に韓半島も共産化され、キリスト教が根付くどころか排除され、再臨主を迎えることさえもできなかった可能性が高かったと言えます。

石原慎太郎氏と朴正熙大統領(当時)の対話を見ると次のようにあります。

朴氏:「しかしあのとき、われわれは自分たちで選択したんだ。日本が侵略したんじゃない。私たちの先祖が選択した。もし清国を選んでいたら、清はすぐ滅びて、もっと大きな混乱が朝鮮半島に起こったろう。もしロシアを選んでいたら、ロシアはそのあと倒れて半島全体が共産主義国家になっていた。そしたら北も南も完全に共産化された半島になっていた。日本を選んだということは、ベストとはいわないけど、仕方なしに選ばざるを得なかったならば、セコンド・ベストとして私は評価もしている」(拍手)。

「石原さん、大事なものは教育だ。このことに限ってみても、日本人は非常に冷静に、本国でやってるのと同じ教育をこの朝鮮でもやった。これは多とすべきだ。私が良い例ですよ」

「私は貧農の息子で、学校に行きたいなと思っても行けなかった。日本人がやってきて義務教育の制度を敷いて子供を学校に送らない親は処罰するといった。日本人にしかられるからというんで学校に行けた。その後、師範学校、軍官学校に進み、そこの日本人教官が、お前よくできるな。日本の市谷の士官学校に推薦するから行けと行って入学。首席で卒業し、言葉も完璧でなかったかもしれないが、生徒を代表して答辞を読んだ。私はこのことを非常に多とする。相対的に白人がやった植民地支配に比べて日本は教育ひとつとってみても、かなり公平な、水準の高い政策をやったと思う」……

師観のブログ「無知から知への解放(朴正熙元大統領のお話)」より



真のお父様が日本はサタン側のエバ国家だったと言われれば、それに対して反論はできません。

摂理的に見たときそれは間違いのない事実だったのでしょ。

しかしそれは一方では神の摂理だった、日本がサタン側のエバ国家となることによって初めてなされる神のみ旨があったと考えることはできないでしょうか？

それゆえ摂理的にはサタン側に属していたとしても、神のみ旨を妨害し、摂理を失敗せようとするのではなく、メシヤを迎える基台を作り、主を迎える韓国の基盤を整備し、将来韓国がアダム国家として摂理の中心として立った時にはその相対として、神側のエバ国として立つため、あえてサタン側のエバ国家という過程を踏ませたと捉えることはできないでしょうか？

ここではこのような大胆な仮説のもとに、統一教会では語られることのなかった、活字として残ってはいないみ

言を中心に推察を進めていきたいと思ひます。

①本来の主の国韓国の相対は日本

韓国は40日サタン分立の民族的な基台を立てることによって再臨主を迎えることができ、神側のアダム国家となることができました。

実は原理講論にあるこの内容も、厳密にいうと間違いだとして指摘される部分です。

真のお父様が誕生されたのが1920年、原理講論には1905年から40年間、サタン分立の民族的な基台を立てたとありますので、真のお父様が誕生された1920年には、まだ40日サタン分立の民族的な基台を立てることはできていませんでした。

そこを無理に解釈するならば、40日サタン分立の民族的な基台を立てることができたのち、1945年当時のキリスト教を中心とした、洗礼ヨハネ使命者たちとの摂理が展開したと解釈すればいいのでしょうか？

とにかく韓国に再臨主を迎え、韓国が神側のアダム国家として立ち、その相対にはイギリスがエバ国家となるように摂理は進んでいました。ところが1945年当時の摂理で、真のお父様を迎えるべきであった洗礼ヨハネ使命者やキリスト教徒たちがお父様を受け入れず、キリスト教会がお父様を迫害することによって摂理に失敗し、イギリスをエバ国家に立てることができなくなりました。

その結果サタンが最も愛した怨讐の国日本をエバ国家に選ばれたということです。

②日本をエバ国家に選んだ理由（天聖教 P1881～P1882,1989.2.10）

「韓国という国を生かそうとするなら、アダム国家の前にエバ国家がなければならないのです。キリスト教が反対したので、イギリスをエバ国家に立てることができないのです。ですから、サタンが最も愛した怨讐の国を立てるしかありません。サタンがキリスト教文化圏をすべて自分の側にしたので、天の側がそれを取ろうとするとすべて反対するのです。それで仕方なく日本をエバ国家に選ぶのです。」

韓国が人類が待ち望んだメシヤ降臨の主の国であり、アダム国家とするならば、当然その相対としてのエバ国家は、あらゆる面から見てアダムの相対的な位置にならなければいけないと考えられます。

そうすると、エバ国がイギリスであった場合、何から何まで相対関係が成立するのは難しいと感じてしまいます。その具体例をいろいろな角度から考えてみたいと思ひます。

1、言語学的観点から

日本語の単語の多くは、中国語がその語源となっているものが多く、中国 ⇒ 韓国 ⇒ 日本へと人が流れてくるに従い、言葉も同じ経路を伝わって流れてきたと考えられております。

例えば日本語の音読漢字は、そのまま韓国でも、中国でも、今でも通用するものが多いのです。

しかし、中国語は、韓国語、日本語というよりは語順から言っても英語に近いのに対して、韓国語と日本語は語順も同じで、文法的にも近いものがあります。

ですから日本人にとってもっとも習いやすい外国語は韓国語であり、韓国人にとってもっとも習いやすい外国語は日本語なのです。

2、民族的観点から

日本人のルーツを調べると、いろいろなルーツを見出すことができますが、その中でも有力な説の一つが、韓半島から来た渡来人であるというものがあります。

もともと日本にいた原日本人は、韓半島からの渡来人に追いやられ、今では北海道のアイヌ民族や、沖縄方面のみに見られるとも言ひます。

実際、彫が深く、毛深く、がっちりしたタイプの人達がそれに相当し、今の本州や日本列島全体に住んでいる人の多くは、韓半島から流れてきた渡来人であったとする説が有力なのです。

3、文化的観点から

日本人のルーツを示す例の一つとして挙げられるのが、天皇家のルーツです。

天皇家のルーツは、文先生のみ言でも、近海金氏と言われております。また他にも百済が新羅に敗れたとき、百済の王族が日本に逃げ延びて、日本の天皇家となったというような話もあります。

そのため天皇家で行われる宮中行事の多くは、百済式だとも言われます。それだけでなく、高松塚古墳をはじめとして、日本にある古墳の中に描かれている絵を見ても、韓半島から文化が伝わってきたことを示すような、多くの壁画が残されています。

最近では、日本固有の古墳形式と思われていた前方後円墳が、韓国でも多く発見されてきています。



4、歴史的観点から

日本の歴史を見たときに、日本人のルーツも、日本語のルーツも、文化的影響も全て韓半島を抜きには考えられません。日本の書物の中でも最も古い書物の一つと言われている万葉集も、韓国語で解釈すると違った解釈ができるとも言います。

その当時の日本では、当たり前のように韓国語が語られていたというような話もあり、歴史的にも日本と韓国は深い関係を保ったまま、今日まで歴史が流れてきています。

5、地理的観点から

文先生のみ言に、韓半島は男性性器を象徴し、日本列島は女性性器を象徴しているというのがあります。

実際地理的に見て、韓半島のすぐ隣に日本があるわけですし、韓国の相対的に位置している国は日本と見ることができます。

以上のような観点から見たときに、もしエバ国が日本ではなく、イギリスだったらと考えると、言語的にも、民族的にも、文化的にも、歴史的にも、地理的にも、韓国の相対というのは、違和感を感じざるを得ません。



6、日韓トンネル

1981年11月、韓国ソウルで開催された、第10回「科学の統一に関する国際会議」において真のお父様は、人類一大家族理想実現のために全世界を高速道路で結び、経済や文化交流を促進するとして「国際ハイウェイプロジェクト」を提唱しました。そしてその「国際ハイウェイ」の最初の起点となるものとして、「日韓トンネル」の建設を提案しました。

また真のお父様はみ言の中で、韓半島は男性性器を、日本列島は女性性器を象徴していると語られています。

男性性器を象徴する韓半島と、女性性器を象徴する日本を結びつける日韓トンネルが完成し、そこを車が往来するということは、それはあたかも精子が交流するかのとき印象を受けます。つまり日韓トンネルの完成は、男女の結婚、つまりアダム国家韓国とエバ国家日本の結婚を意味するのです。



原理講論 61P を見ると、「アダムとエバが完成された夫婦として一体となったその位置が、まさに、愛の主体であられる神と、美の対象である人間とが一体化して、創造目的を完成した善の中心となる位置なのである。ここにおいて、はじめて父母なる神は、子女として完成された人間に臨在されて、永遠に安息されるようになる

のである。」

とあるように、日韓が一体化したその位置が、まさしく神が臨在し、永遠に安息される、創造目的を完成した善の中心となるのです。

神が臨在し、永遠に安息される、創造目的を完成した善の中心が日韓トンネルだとすれば、アダム国家韓国の相対として立つのは日本以外にはあり得ません。

つまり神の摂理として、本来予定された創造本然の中心位置が日本と韓国であり、日韓トンネルであったとするならば、日本は神側のエバ国として元々予定されていた国であったと考えるしかないのである。

③ 1988年、太田会長の御言報告

日本がサタン国家となってしまったことに関して、初めて納得できたみ言が、1988年に受けたみ言の報告ででした。

その年、文鮮明先生のみ言を直接受けてきたという、当時カープの責任者だった太田洪量会長が、最新のみ言として、それまで語られたことのない内容のみ言を受けてきたということで報告してくださったのでした。

そのみ言とは、**神様は人類の恩讐関係、つまり対立と闘争の姿を見たとき、その対立の中でも最も乗り越えることの困難な対立は、国家と国家の対立である**と思われたということです。

例えば100年戦争を戦ったイギリスとフランスの対立、歴史的なユダヤとアラブの対立など、どの国の対立を見ても、歴史的な恩讐を超えて、一つとなることのできる国家と国家というものを見出すことができなかつたと言っているのです。

しかし**もし国家と国家の恩讐を超え、一つとなることのできる国があるとしたら、それは韓国と日本以外にはない**と思われたのだそうです。

その結論として**神様は、日本をサタンの手に委ね、日本をして40年間韓国を統治せしめた**ということです。

つまり**歴史的な恩讐を超え、国と国が一つとなる道を切り開くためには、韓国と日本をして、歴史的に最も恩讐関係になる必要があつたため、日本をサタンの手に委ね、歴史上最大の迫害を行い、どの国の恩讐関係よりも、最も悲惨な恩讐関係を作らせた**ということです。

例えば恩讐関係と言っても、ちょっと喧嘩しただけの恩讐関係の人が、先祖3代にわたっていがみ合い、憎み合っていた人たちに対して、「いつまでも恩讐関係でいるのはよくない。もうこの辺で恨みを忘れ仲直りしなさい。」などと言っても全く説得力もなく、先祖3代に渡る恩讐を解消しようなどとは決して思わないでしょう。しかし、何十代にもわたっていがみ合い、時には殺しあうほどの恩讐関係の人、しかも自分の妻と子供まで殺されてしまったというような人が、神様の愛に出合い、「恨みは恨みしか生み出さない、愛をもって恩讐関係を清算しよう」と決意し、全ての恨みを許したとします。

そんな人が3代に渡って恩讐関係だった人に、「私も苦しかったが許してやったんだから、何とかあなたも許してやりなさい」と言ったとき、3代に渡って恩讐関係だった人も許さざるを得ない立場に立つのです。

そんな感じで、極と極の恩讐関係が、その恩讐を超えて一つになることができたなら、その中間にある恩讐関係は、自動的に無くなるということです。

そこで神様は、日本をサタンの手に委ね、40年間韓国を統治し、迫害することで、歴史上最大の国家間の恩讐関係を作つたということです。**真のお父様は、そんな神様の意図と願いを知り、それまで摂理的サタン国家だった日本をして、神側のエバ国家として立てた**ということです。

この時の真のお父様のみ言は、後にみ言として、活字になったものを読むことはできません。

(会議の中で語られたようなことを言っていたため活字にはなっていないためか?)

疑問に思われた場合は、直接太田会長にご質問いただけると感謝です。

③日本はサタン側のエバ国の結論

統一教会に入教すると、日本人はまず最初に、日本は元々サタン側のエバ国で、再臨主を迎えた主の国韓国を40年間迫害した。

再臨主、メシヤである真のお父様を最初に迫害し、拷問を加えたのも日本人だった。

それゆえ日本人は歴史上最も罪深い民族だということを徹底的に教育され、自虐史観を植え付けられます。

さらにそんな罪深い日本人を真のお父様は真の愛で許され、さらには祝福まで与えてくださった。

エバ国日本が経済的に栄え、世界第二位の経済大国になれたのも、真のお父様のおかげだ。

そんな真のお父様の愛に応えるためにも、摂理に貢献できる人材を天の前に捧げなければいけない。

そのためにはまずは人材復帰の前に象徴献祭として万物を捧げなければいけない。

世界第二位の経済大国になれたのは、日本が万物を捧げ、み旨を推し進めるために神が祝福してくれた結果なのだからと教わり、日本の蕩滅のためなりふり構わず献金路程に明け暮れてきました。

そこで献金のノルマを果たすため、ヤコブの知恵を用いなさいとも教わります。

ヤコブは兄エサウから、パンとレンズマメで長子の嗣業を奪い、母リベカの協助のもとエサウと偽り、父イサクから祝福を奪いました。つまり神のみ旨を達成するためには、イサクを騙すという小さな悪は容認される。み旨成就という大義があれば、たとえ人を騙そうが、何をしようが、全ての行為は善であるという概念を教わりました。

同時にアベルカインの教育が徹底的になされ、アベルの言うことは神の声であり絶対である。

アベルは神の代身であり、真の御父母様の代身である。アベルを通さないと神は絶対に働けないと教育されてきました。それゆえ自分自身で考えることはカインの考えであり、サタンが働いてしまうと教育されます。つまり自分で考え、自分で行動するという自立の精神が否定され、アベルに従属することこそが信仰の道を全うする唯一の道であると洗脳されます。

その結果日本人は自分で考えることをやめ、アベルの言うことだけを絶対的に信じ、ただの操り人形となり、言われるままに献金こそがみ旨であり、献金し続けることで救われると信じ込んでしまっています。

逆に言えば、今までどんなに献金してきたとしても、今の摂理、今の天の願いに応えられないことは罪であり、地獄に落ちてしまうと思ひ込み、恐怖観念に囚われ、献金の無間地獄に陥ってしまっています。

しかし今回エバ国日本の罪について改めて考察したとき、40年にわたる日本による朝鮮統治時代は、欧米列強による植民地支配と違い、腐敗し発展の止まった李氏朝鮮時代に終止符を打ち、近代化への道筋を作り、韓半島の発展に大きく寄与していたという事実がわかりました。

同時に朝鮮へのキリスト教の伝播に寄与し、清やロシアからの占領を阻止し、韓半島の共産化を食い止めることによって、韓半島に再臨主、真のお父様を迎える基盤を造成することに大きく貢献していたという事実もわかりました。

つまり日本による朝鮮統治がなかったら、真のお父様を韓半島に迎えることはできなかった可能性が高かったということです。

そんな事実を裏付けるようなみ言も、真のお父様によって語られていたという報告も太田会長によってなされてきました。

つまり神様は、人類の恩讐関係を乗り越えるために、日本をサタンの手に委ね、日本をして40年間韓国を統治せしめたと語られていたと言います。つまりは日本がサタン側のエバ国家となってしまったのも、全ては神の摂理であり、み旨成就のために通過せざるを得ない一つの路程であったということです。その事実を知っておられたがゆえに真のお父様も、サタン国家日本を神側のエバ国家にしたのであり、恩讐国家日本を愛するという真の愛を実践することもできたのでしょう。

神様の摂理を多少理解できた今、私たちが洗脳され必死で行ってきたエバ国の使命としての献金は、天に功労を積むことができていたかどうか少し考えてみたいと思います。

今家庭連合に献金することは功労どころか罪になります。

神のみ旨を担う二代王文亨進様を、唯一迫害しているのは家庭連合です。家庭連合への献金はその迫害のための資金提供ともなりますので、それは天宙的な罪になります。

また今の家庭連合の献金の使い道は、教団の維持、つまり箱物の維持と教団職員の人件費に消えてしまいます。同時に利権構造を作ってきた、韓国人幹部たちの懐を潤すだけです。神の摂理を担っていない家庭連合では、功労を積むことなど絶対にできません。教団の最大の目標が教団の維持でしかありませんので、み旨と語り行っているすべてのことは、神のみ旨とは関係がなくなっています。

★ヤコブの知恵

また私たちが洗脳され、目標達成のために自己正当化するための理論「ヤコブの知恵」について考えてみま

す。ヤコブはパンとレンズ豆でエサウから長子の嗣業を譲り受けました。

しかし母リベカの協助のもと、自らをエサウをと偽り、イサクからの祝福を奪いました。

教会ではこれをヤコブの知恵と称し、神のみ旨を成就するためには、たとえ相手を騙そうとも、それが条件となり神のみ旨を推し進めることができる。結果的に本人は自覚していなかったとしても条件を立てることができ、神のみ前に復帰されることが許されるようになるというように、自己正当化してきました。

果たして本当にそうなのでしょうか？

ヤコブはエサウに対し、常日頃から僕の僕のように誠心誠意仕えていたのなら、ヤコブが長子の嗣業が欲しいと言ったとき、エサウは自分は欲しいものはもう既にすべて持っているとし、すんなりと長子の嗣業を譲ってくれたかもしれません。

またイサクの祝福も、ヤコブは常日頃エサウに仕え、イサクに仕えていたなら、エサウから私はもう既に欲しいものはすべて持っているからと言ってイサクの祝福も譲ってくれていたかもしれません。

つまりヤコブは、僕の僕の路程を誠心誠意歩んでいたならば、知恵など用いなくてもイサクとエサウから認められる存在となっていたかもしれません。

それが神がヤコブに与えた、最高の勝利の路程であり、そんな路程を私たちも歩まなければいけないのではないのでしょうか？

つまりヤコブの知恵などというものは、本来僕の僕として勝利できた路程に失敗し、もうこれ以上失敗できない状況に置かれたときに、やむをえず行った最終手段だったのではないのでしょうか？

これはあくまでも最終手段であり、諸刃の剣のようなもので、人を傷つけると同時に下手をしたら自分をも傷つけるものだといえます。

実際エサウを騙したヤコブはエサウの怨みを買って、殺されそうになり、21年間もの間カナンの地には戻って来ることができませんでした。

結論としていえることは、ヤコブの知恵と言って自分たちの行動を自己正当化するような行為は本来行うべきではなく、原理的にはあくまでも僕の僕となって仕えることで復帰することこそ、私たちがカイン世界で歩むべき本来の道であると言えます。

いわゆる「ヤコブの知恵」に対する金オンピル先生の見解(2002年10月27日新宿教会)

「メシヤのためであるなら、あるいは大義があれば、何をやっても許される」という誤った考えを持っている食口はいないのでしょうか？

「国のためであれば、個人を苦しめることもありうる」とか、あるいは、「み旨のためであれば、サタンのはたらきを奪って来ても許される」と、考えている人はいないのでしょうか？

「3倍以上、返してあげなければいけない」という真のお父様のみ言を、よく考えてみてください。

うそはうそであり、どろぼうはどろぼうです。ただそれが、戦争などの状況下にあっては、一時的に許される、同情されうる、ということ、ありうるかもしれません。でも、「間違ったことは間違ったことである」と、はっきり知らなければなりません。



聖書の中にも、うそをついて奪って来た例があります。「サタンがうそをついて奪って行ったので、『蕩滅復帰』の原則により、神側もうそをついて奪って来ても、罪にならない」と考えて、行動を正当化する人が、もし、いたしましょう。

しかし、それは、うそはうそなのです。ヤコブの時も、うそをつかなかったとするならば、21年の苦役路程はなかったかもしれないのです。

戦時下で生命が懸かっている時に、人のいない家からお米を持って来ることは、状況的に考えて許されるとしても、それがそのまま善であるとは言えません。それ自体が善なる行為であると言うことはできないのです。それを私たちは、真のお父様のこのみ言と行動を通して、はっきりと理解しておく必要があります。

「あなたがやったことは赦され、同情されるかもしれない。しかし、善ではない」ということです。ですから、後でこれを3倍以上、返すことによって償うこととなるのです。このような出来事を通して、私たちは本当に真のお父様の伝統を学んでいかなければならないということを感じるので。

★アベルカイン

次にアベルカインについて考えてみたいと思います。

教会ではアベルは神の代身であり、真の御父母様の代身である。ゆえにアベルのみ言は絶対だとして、アベルに対して従順屈服を強要されます。

しかし果たしてアベルカインの原則とはそういうものなのでしょうか？

結論を言えば間違っています。

アベルとカインは一方的な主従関係ではなく、元々兄弟関係です。カインが兄で、アベルが弟です。ですから本来は、アベルよりもカインの方が神に愛され、実力的にも上なのです。

しかし墮落の結果、神がより愛されるカインがサタンに奪われ、神から遠い存在に堕ちてしまった結果、カインはアベルを通してしか神の前に帰ることができなくなったのです。それゆえ教会では、組織の上にくるものがアベルであり、カインが下にくるのです。神はアベルを通じてしか働くことができないため、カインはアベルのみ言に従うしかなくなるのです。

しかしアベルに従うということは、アベルの言うことを無批判的に一方的に受け入れ、ただ言われるままに従順に従わなければいけないということではありません。カインはカインの責任分担として、自分の意見をアベルに提言する必要があります。言うべきことはすべて言い、アベルとともに意見を闘わせ、最終的な判断をアベルに委ねるのが本来のアベルカインの原則です。一旦アベルが判断を下したら、カインもその判断には従わなければいけません。

このように最終的にはアベルの判断にカインは従わなければいけません。カインの責任分担としてカインも意見を言わなければいけないというところがいつの間にか消えてしまい、統一教会はカインはアベルに絶対従順屈服、絶対服従という組織になってしまいました。そのため教会組織の上部に位置する幹部たちは、真のお父様のみ言と言いながら、実際は自分たちの意のままに指示を出し、日本人食口たちはその指示を言われるままに受け入れ、献金路程を歩んできました。疑問があったとしても質問することも許されず、ただただノルマを果たすために、一般教会員から献金をむしり取るのが恒常化してしまいました。

一般社会ならば監査が入り、組織が正常な運営をしているかどうかをチェックするシステムが存在します。しかし教会組織では、カインの立場の者がアベルの立場の者をチェックするシステムもないため、不正放題の組織となってしまいました。

韓国人食口たちは信仰を持った時から、自分たちは神の選民であるという、絶対肯定で信仰をスタートしました。その上韓国人の国民性として、自己否定が苦手な、自分を正当化するために平気で嘘をつく性質を持つ



ています。もともと自己否定が苦手で、自分の墮落性と闘おうとしない上に、選民であるという絶対肯定の信仰を持ったわけですから、あとは推して知るべし、あたかも自分たちは両班であるかの如くに振舞ってしまいます。両班思想も韓国人の根底に根付いていますので、たとえ日本人食口たちが献金でどれほど苦しもうが、両班には関係のないこと、罪深き奴婢のごとき日本人は、苦勞して当たりまえと考えるのが自然の成り行きです。

韓国に住み、日本の現状を知らない食口たちならまだ理解はできます。しかし韓国在住の韓国人幹部以上に、日本に責任を持ってきた、日本の食口の現状を実際に自分の目で見て知っている日本の総会長たちの方が、より大きな私財を築いたという話は、信じがたいものがあります。あれだけみ言を語り、一見親身になって日本人食口たちを指導していた責任者たちは、原理を理解していたのでしょうか？統一教会がなぜ墮落してしまったのかを考えると、このアベルカインという問題が大きく作用していたと考えざるを得ません。

(3) 真のお父様を最初に迫害し拷問を加えたのは日本人

真のお父様は、生涯6度の監獄生活を経験されました。

もちろんそのすべてが、無実の罪で投獄されたものであり、文先生を良く思わなかった人たちによって受けた迫害でした。

① 1944年10月：京畿道警察部、共産主義者の疑いをかけられ、日本の警察による拷問。

原因者：抗日闘争時の共産主義者の友人が文先生の名前を出し、共産主義者の疑いをかけられ逮捕。

執行者：日本の警察。

結果：拷問を受けながらも、友人の名前を吐かずに解放

② 1945年10月：定州において約1週間収監され、過酷な牢獄生活。

③ 1946年8月11日：北朝鮮平城の大同保安署、キリスト教指導者の反感と李承晩のスパイの容疑で拘束。

迫害者：共産党の宗教弾圧。キリスト教指導者の反感。

執行者：北朝鮮の共産党員、ソ連の調査官。

結果：文先生はほとんど死んだような状態で門の外に放り出されて釈放。奇跡的に生き返る。

文先生を受入れなかった許孝彬集団は、1950年に韓国戦争が起きた時、共産党によりすべて虐殺。

④ 1948年2月22日：キリスト教既成教団の嫉視と共産党当局の宗教抹殺政策により内務署拘束。

5年刑の宣告で平城刑務所に収監。興南特別労務者収容所にて強制労働。

迫害者：既成教会の牧師たちによる告発。

執行者：北朝鮮の共産党。

結果：文先生は2年8ヵ月の間、興南肥料工場で強制労働。

国連軍の興南爆撃により、2日の違いで死を免れ解放。

⑤ 1955年7月4日：異端的信仰を理由にソウル中部警察署に拘束、西大門刑務所に収監・・・梨花女子大学事件。

迫害者：梨花女子大総長金活蘭、副総長朴マリヤ、李起鵬長官、大統領夫人フランチェスカ、米国宣教師たち、李承晩主権下の五大長官、崔ソンモ、韓国既成教会と政府等の国家的な反対。

執行者：韓国警察

結果：文先生は無罪釈放

迫害の中心人物であった朴マリヤ、李起鵬夫婦は、長男の手によって次男とともに射殺。

李博士、金活蘭も哀れな末路。

⑥ 1984年7月20日：脱税容疑でアメリカ、コネチカット州ダンペリー連邦刑務所に収監。

迫害者：政府権力の濫用と宗教的迫害

執行者:アメリカ政府

結果 :『宗教の自由』の名にかけて、アメリカのキリスト教会が統一教会と一体化。

①の最初の獄中生活では、文先生は日本留学時代、一緒に抗日運動をしていた共産主義者の学生によって名前を出され、共産主義者の疑いをかけられて、筆舌に尽くすような拷問を受けられました。これはいわば、イスカリオテのユダのような立場に立つのが、日本留学時代の同志であった、共産主義者の韓国人留学生であったと思われます。その同志によって共産主義者の疑いをかけられた文先生は、日本人によって拷問にかけられたわけですから、日本人はイエスに槍を刺したローマ兵のような立場に立ちます。よって1回目の獄中生活において、より罪深い立場に立つのは、文先生と共に日本に留学していた、共産主義を信じる韓国人留学生であったということがわかります。

②の牢獄生活は、韓国が主権を取り戻した後でありましたので、文先生に過酷な牢獄生活を強いたのは韓国人だったと思われます。

③と④の北韓での獄中生活は、既存教会の指導者たちによる嫉視と、共産党当局による宗教弾圧によるものでした。よって文先生を直接に迫害したものは、北朝鮮のキリスト教指導者たちであり、北韓の共産党、すなわち文先生と同族の韓民族によるものでした。

しかもこの時の迫害は、③の時は、あまりにもひどい拷問によって、生死の境を彷徨うほどの拷問でありましたし、④の時は、あと2日解放が遅れたら、共産党によって文先生の命も奪われていたであろうギリギリのところでの解放でした。

⑤の西大門刑務所での獄中生活は、梨花女子大総長金活蘭、副総長朴マリヤ、夫の李起鵬長官、大統領夫人フランチェスカ、米国宣教師たち、李承晩主権下の五大長官、崔ソンモらによる、韓国既成教会と政府による国家的な迫害でした。

彼らは全て神が用意した洗礼ヨハネ的な立場に立つ人物であると同時に、イエス当時の律法学者、パリサイ人らに相当するような人物たちでした。つまり神が用意した韓国人の摂理的重要人物たちであり、次の摂理のために用意されたアメリカ人宣教師たちでありました。

⑥のアメリカコネチカット州ダンベリーでの獄中生活は、アメリカ政府が文先生を直接に迫害したものでした。

こうして分析的にみても、6度にわたる牢獄生活は、神が6000年かけて用意した摂理的中心人物たち、つまり神の選民として立てられた韓民族、キリスト教徒、それにアメリカによる迫害の結果であったことがわかります。

確かに真のお父様を最初に迫害し、拷問まで加えたのは日本人でしたが、それは共産主義が世界に拡大するのを食い止めるためという、摂理的にはより神側の動機によるものでした。同時にそれは、日本留学時代に共に抗日運動をしていた韓国人留学生による密告でしたので、真のお父様を日本に売り渡したのは、イスカリオテのユダのような立場に立つ韓国人留学生だったということです。

真のお父様の路程も、日本留学時代、そして韓国に帰国して第一のお母様と結婚し家庭を持つまでは、真理探究時代と位置付けられます。具体的な伝道活動は行わず、教会に通い奉仕活動を行いながら聖書の探求に没頭していました。そんな中で『神様と私たちは父と子の関係である。それゆえ、神様は人類の苦痛をご覧になって、あのように悲しんでいらっしゃるのだと悟り、宇宙のあらゆる秘密が解かれた』と語られています。

1946年5月27日、啓示を受け北朝鮮に向かってからが本格的伝道路程が始まりますので、つまりそこからがメシヤとしての公式路程と見ることができます。そうすると3回目からの牢獄生活は、メシヤに対する迫害と判断することができます。

つまりメシヤとして、再臨主としての真のお父様を迫害し、拷問を加え、死の寸前にまで追いやった人々というのは、神が2000年間かけて準備した選民である韓民族であり、キリスト教徒達であったということです。

2000 年前イエスを十字架に着けた罪で 2000 年間、その罪の蕩滅を受けなければいけなかったのがまさしく神が準備した選民、ユダヤ人達であったように、韓民族とキリスト教たちは全く同じ過ちを犯してしまっていたのです。

こうしてみると、2000 年間待ち望んだメシヤ、再臨主である真のお父様を直接迫害した罪深き人たちというのは、日本人ではなく韓民族であり、キリスト教徒達であったということがわかります。

この事実から見ても、真のお父様を最初に迫害したエバ国日本の罪は、全く無いとは言いませんが、韓民族やキリスト教徒たちの罪に比べると、比較の対象にもならないほどであると結論付けられるのではないのでしょうか？

(二) 神が準備した韓国とキリスト教の罪

(1) イエス降臨時と再臨時

1、2000 年前のイエス降臨時

イエスキリスト降臨時、イエスはその使命を全うできずに十字架についてしまいました。しかし多くのキリスト教徒たちは、神の子イエスが、その使命に失敗したなどとは考えることができず、結果のみを見つめ、イエスは十字架につくために来られたと考えています。十字架につくことにより、私たちの罪を清算し、私たちを罪から解放してくれたと考えているのです。

しかしイエスの言行を見ると、決して自分は十字架につくために来たなどとは言ってはいません。神の国を地上にもたらすために来たと言っています。その事実を明らかにした文鮮明先生は、イエスは使命を全うすることができなかつた。本来イエスを迎えるべく、神が用意した人物、洗礼ヨハネが、その使命を果たすことができなかつた。聖母マリアも、その使命を全うすることができなかつたと言っておられます。



では文先生が語られるように、イエスがその使命を全うすることができなかつたとするならば、どこにその原因があつたのでしょうか？

その原因と結果を、より重要なものから簡単に列挙すると、

① 洗礼ヨハネがイエスを証しながらも、イエスを不信し、受け入れなかつた。

⇒ 洗礼ヨハネの悲惨な最期。イエスがサタンをはじめ、律法学者、パリサイ人らユダヤ人から、試練と迫害を受けるように。

② ユダヤ人、律法学者、パリサイ人たちがイエスを受入れず、迫害し、十字架に付ける。

⇒ ユダヤの地はローマによって滅ぼされ、ユダヤ人は 2000 年間国を持たない流浪の民に。

③ イスカリオテのユダが、銀貨 30 枚でイエスを裏切り、売り渡す。

⇒ ユダは自分の罪に耐え切れずに自殺。

④ マリヤがイエスの使命を悟れずに、母親としての使命を果たせず。

⇒ イエスは最後まで独身となり、家庭を持つことができず。

イエス降臨時、イエスがその使命を全うできるように、神が 4000 年の歳月をかけ準備してきた基盤がその使命を全うできたとき、神が準備してきた基盤にとっても、最高の栄光が待っていたはずですが、それはあたかも、イエスが洗礼ヨハネをさして、「女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。」と言ったことからわかります。

しかしその基盤が、イエスを受入れなかったとき、自分の使命を悟れなかっただけでも、それはこの上もない罪になってしまうことも、同じくイエスの言動から理解できます。「神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい。」

神の摂理にとって、人類歴史を通じ神が準備した基盤が、イエスを受入れ、その使命を全うできることが、人類にとっての最大の栄光であります。逆にイエスを受入れることができなかつた時、それは最大の罪になってしまいます。さらに、イエスの使命完遂を妨害し、直接にイエスを迫害などしようものなら、その罪は拭い去ることなどできないほどの大罪になってしまいます。そのような観点で見たとき、イエス降臨時、最も罪深い存在が自分の使命を悟れずに、イエスを受入れなかった洗礼ヨハネでした。そしてイエスを直接に迫害し、十字架に付けるように訴えた律法学者、パリサイ人たちでした。さらにはイエスを裏切ったイスカリオテのユダでした。



しかしいくら聖書を見ても、ユダヤの王が誕生したという話を聞き、3歳以下のユダヤ人を皆殺しにするように指示を出したヘロデ王や、イエスを直接槍で突いて殺したローマ兵に関しては、その罪深さを糾弾するような内容は見当たりません。またキリスト教徒を徹底的に迫害したローマ帝国に関しても、その罪を問うような部分は見当たりません。それどころかローマ帝国に関しては、世界で最も早くキリスト教を受入れ、国教としたわけですから、最も大きな恵みをいただいた国となったともいえることでしょう。このような考察の元、再臨の主である真のお父様の路程を分析し、イエス降臨時における洗礼ヨハネのような人物は誰であったのか？そしてユダヤ教、ユダヤ人に相当する人物、国はどこだったのか？さらにはローマ帝国に相当するところはどこなのかについて考察してみることにします。

まずは2000年前、イエス・キリスト降臨時の状況について見てみることにします。

★2000年前のイエス降臨時

①ヘロデ大王

紀元前37年、ローマの軍勢の力を借りて、イスラエルのレビ族が祭司王として統治した。ハスモン朝を破り、ユダヤ地区にヘロデ朝を成立。

②ローマ帝国

ユダヤ地区の宗主国

⇒ 紀元395年東西に分裂。

西ローマ帝国は476年に、東ローマ帝国は1453年に滅亡。

③ユダヤ地区

ガリラヤにイエス誕生

⇒ 紀元70年にローマ帝国軍に滅ぼされる。

④洗礼ヨハネ

主の道を直くする者。エリヤの使命を持つ者

⇒ 一旦はイエスを証すも不信し従わず。

ルカ7:28「女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい。」

⑤ユダヤ人

神の選民の中にイエス誕生

⇒ イエスを十字架に。

マタイ 27:25「その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」

⇒ 2000 年間流浪の民となり、迫害を受けてきた。

①ヘロデ大王

(Wikipedia『ヘロデ大王』より)

■ヘロデ朝の創設

ヘロデ大王は、共和政ローマ末期からローマ帝国初期にユダヤ地区を統治したユダヤ人の王(在位:紀元前 37 年 - 紀元前 4 年)である。

ヘロデはローマにおいて元老院にアピール、父の代から続くローマへの忠誠を評価されてローマの軍勢を貸与され、エルサレムへ向かった。

エルサレムにあったイスラエルのレビ族が祭司王として統治したハスモン朝は、ローマ軍の精鋭の前にあえなく陥落。

紀元前 37 年、ヘロデはついにローマに従属することを約束して、ユダヤの分封王となり、エドム人ヘロデが統治するヘロデ朝を創設。



■ユダヤ人の迫害

王位についたヘロデは、前政権ハスモン朝の血をひくものをすべて抹殺した。

自分に対して敵対的であったユダヤ教の指導層最高法院の指導的なレビ族の祭司たちを迷わず処刑。

■幼児虐殺

2:7 そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、星の現れた時について詳しく聞き、

2:8 彼らをベツレヘムにつかわして言った、「行って、その幼な子のことを詳しく調べ、見つかったらわたしに知らせてくれ。わたしも拝みに行くから」。

2:9 彼らは王の言うことを聞いて出かけると、見よ、彼らが東方で見た星が、彼らより先に進んで、幼な子のいる所まで行き、その上にとどまった。

2:10 彼らはその星を見て、非常な喜びにあふれた。

2:11 そして、家にはいって、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた。

2:12 そして、夢でヘロデのところへ帰るとのみ告げを受けたので、他の道をとおって自分の国へ帰って行った。

2:13 彼らが帰って行ったのち、見よ、主の使が夢でヨセフに現れて言った、「立って、幼な子とその母を連れて、エジプトに逃げなさい。そして、あなたに知らせるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが幼な子を捜し出して、殺そうとしている」。

2:14 そこで、ヨセフは立って、夜の間に幼な子とその母とを連れてエジプトへ行き、

2:15 ヘロデが死ぬまでそこにとどまっていた。それは、主が預言者によって「エジプトからわが子を呼び出した」と言われたことが、成就するためである。

2:16 さて、ヘロデは博士たちにだまされたと知って、非常に立腹した。そして人々をつかわし、博士たちから確かめた時に基いて、ベツレヘムとその附近の地方とにいる二歳以下の男の子を、ことごとく殺した。

■ヘロデ王の業績

ヘロデは都市計画において業績を残した。

人工港湾都市カイサリア、歴史に名を残す大要塞マサダ、アウグストゥスの名前を冠した新都市セバステ(サ

マリア)、エルサレムのアントニア要塞、要塞都市ヘロディオン、マカイロスなどはすべてヘロデの時代につくられた計画都市である。それだけでなくヘレニズム君主としてパレスティナや小アジアのユダヤ人が住む多くの都市に多くの公共施設を提供している。

しかし、なんとといってもヘロデの名を不朽のものとしたのは、第二神殿の改築(ヘロデ神殿)、カイサリアの港、マサダ要塞、ヘロディウム (Herodium) などの大建築であった。特にヘロデ神殿はソロモンを超える規模で行ったエルサレム神殿の大改築であった。神殿はローマ帝国を含む当時の世界でも評判となり、このヘロデの時代にディアスポラのユダヤ人や非ユダヤ教徒までが神殿に参拝しようとエルサレムをさかんに訪れるようになった。

② ローマ帝国

■ユダヤ地区の宗主国

■ローマ帝国によるキリスト教の迫害

キリスト教徒 ローマ帝国による迫害

■ペテロやパウロらによるキリスト教の爆発的な宣教活動。

■皇帝ネロによる迫害:64年に起きたローマの大火事は、キリスト教徒による放火と断定し、キリスト教徒たちを逮捕し、虐殺。

■カタコンベ:地下墓地。

キリスト教徒はカタコンベで信仰を守り、迫害に耐える。

- ・ 303年:皇帝ディオクレティアヌスは、キリスト教の会合を禁止し、教会の破壊、聖書の焼き捨て、聖職者全員の逮捕などが行われ、コロッセオで、数千人のキリスト教徒が火あぶりや猛獣によって処刑される。
- ・ **313年ミラノ勅令**:皇帝コンスタンティヌスによるキリスト教の公認。
- ・ **392年キリスト教の国教化**:テオドシウス一世により発令。
- ・ 395年:テオドシウス一世の死後、ローマ帝国は東西に分裂。
- ・ 476年:ゲルマン民族の侵入により西ローマ帝国は滅亡。
- ・ 1453年4月:オスマン帝国軍により東ローマ帝国は滅亡。



③ ユダヤ地区

イエス・キリストの時代には、ユダヤ属州やガリラヤ地方が、全てローマ帝国の支配下だった。

■ヘロデとヘロデ朝の成立

■ヘロデ(ヘロデ大王、紀元前37年 - 紀元前4年)

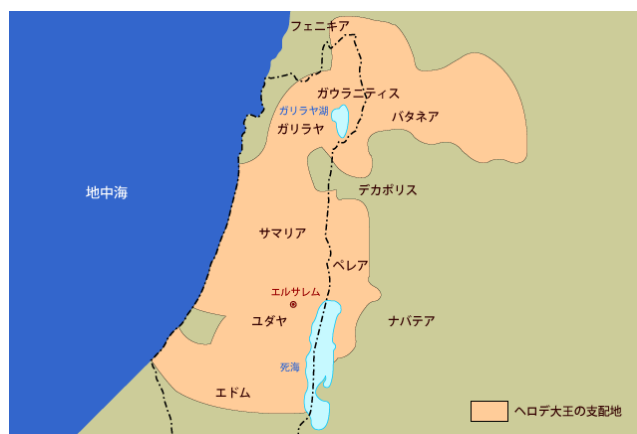
ヘロデはローマの元老院で支援を訴え、元老院はヘロデに「ユダヤ人の王」の称号を与えた。

ヘロデは紀元前37年にハスモン朝を打倒して、ヘロデ朝を成立。

ヘロデは紀元前4年に亡くなるまで統治し、ヘロデの死後は3人の息子が分割支配した。

■3分統治時期

ヘロデ・アルケラオス(紀元前4年 - 6年、支配地:ユダヤ、エドム、サマリア)



ヘロデ・フィリッポス(紀元前4年 - 34年、支配地:バタネア、ガウラニティスなど)

ヘロデ・アンティパス(紀元前4年 - 39年、支配地:ガリラヤ、ペレア)

- ・アグリッパ1世(34年 - 44年):ヘロデ大王が支配していた時期の支配地を回復させた。
- ・アグリッパ2世(44年 - 93年頃):王国の北部分を承継し、南半分はローマが直轄統治した。

ユダヤ人はローマ帝国に叛乱し、紀元70年のエルサレム攻囲戦で滅ぼされ、中東世界に離散した。ユダヤ的なものを一掃しようとしたローマ人は、この土地をユダヤ人の宿敵ペリシテ人にちなんでパレスチナという名前をつけたため、ユダヤという地名は消滅した。1948年に建国した新国家は、イスラエル国と命名された。

④ 洗礼ヨハネ

★洗礼ヨハネはイエスを証した。

ヨハネによる福音書

1:29...ヨハネはイエスが自分の方にこられるのを見て言った、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

1:30『わたしのあとに来るかたは、わたしよりもすぐれたかたである。...』とわたしが言ったのは、この人のことである。...

1:32 ヨハネは...言った、「わたしは、御霊がはどのように天から下って、彼の上にとどまるのを見た。」

1:33 わたしはこの人を知らなかった。しかし、水でバプテスマを授けるようにと、わたしをおつかわしになったそのかたが、...言われた、『ある人の上に、御霊が下ってとどまるのを見たら、その人こそは、御霊によってバプテスマを授けるかたである』。

1:34 わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

★洗礼ヨハネの不信

ルカによる福音書

7:18...ヨハネは...7:19『きたるべきかた』はあなたなのですか。

それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか」と尋ねさせた。

7:21 イエスは... 7:22 答えて言われた、「行って、あなたがたが見聞きしたことを、ヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。

7:23 わたしにつまずかない者は、さいわいである」。

7:24...イエスはヨハネのことを群衆に語りはじめられた、「あなたがたは、何を見に荒野に出てきたのか。風に揺らぐ葦であるか。

...柔らかい着物をまとった人か。きらびやかに着かざって、ぜいたくに暮している人々なら、宮殿にいる。

7:26 では、何を見に出てきたのか。預言者か。そうだ、あなたがたに言うが、預言者以上の者である。

7:27『見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、あなたの前に、道を整えさせるであろう』と書いてあるのは、この人のことである。

7:28 あなたがたに言うておく。女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。

しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい。

★洗礼ヨハネの最期

マタイによる福音書



14:6 ヘロデの誕生日の祝に、ヘロデヤの娘がその席上で舞をまい、ヘロデを喜ばせたので、
14:7 彼女の願うものは、なんでも与えようと、彼は誓って約束までした。
14:8 すると彼女は…「バプテスマのヨハネの首を盆に載せて、ここに持ってきて…」と言った。
14:9 王は困ったが、…14:10 人をつかわして、獄中でヨハネの首を切らせた。
14:11 その首は盆に載せて運ばれ、少女にわたされ、少女はそれを母のところを持って行った。

⑤ユダヤ人

★イエスの十字架の死に責任を持つ者

マタイによる福音書

27:15 さて、祭のたびごとに、総督は群衆が願い出る囚人ひとりを、ゆるしてやる慣例になっていた。
27:17 それで、彼らが集まったとき、ピラトは言った、「おまえたちは、だれをゆるしてほしいのか。
バラバか、それとも、キリストといわれるイエスカ」。
27:20 しかし、祭司長、長老たちは、バラバをゆるして、イエスを殺してもらうようにと、群衆を説き伏せた。
27:21 総督は彼らにむかって言った、「ふたりのうち、どちらをゆるしてほしいのか」。
彼らは「バラバの方を」と言った。
27:22 ピラトは言った、「それでは
キリストといわれるイエスは、どうしたらよいか」。
彼らはいっせいに「十字架につけよ」と言った。
27:23 しかし、ピラトは言った、「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。
すると彼らはいっそう激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。
27:24 ピラトは手のつけようがなく、かえって暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言っ
た、「この人の血について、わたしには責任がない。
おまえたちが自分で始末をするがよい」。
27:25 すると、民衆全体が答えて言った、「その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよ
い」。
27:26 そこで、ピラトはバラバをゆるしてやり、イエスをむち打ったのち、十字架につけるために引きわたした。

ユダヤ民族 ⇒ 2000 年間国を持たざる流浪の民となり、迫害を受けてきた。

2、文先生誕生時の時代背景

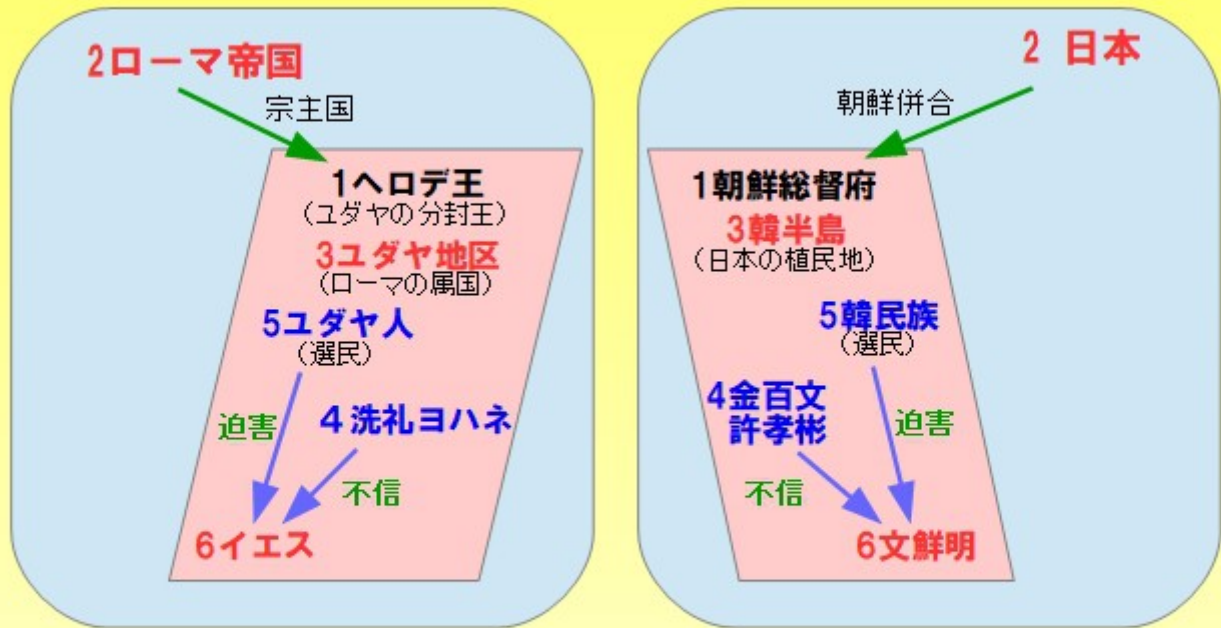
2000 年前、イエス・キリスト降臨時の状況について見てみると、イエスの降臨に備え、神が 4000 年の歴史を
かけて備えてきた基盤、洗礼ヨハネ、ユダヤ人たちが、イエスを受入れず、迫害したことでイエスは摂理に失敗し
てしまいました。つまり洗礼ヨハネ、ユダヤ人達が、人類にとっての最も重い罪を犯してしまったことがわかりま
す。

一方、ユダヤ人の王が誕生したという話を聞き、3 歳以下のユダヤ人を皆殺しにするように指示を出したヘロ
デ王や、イエスを直接槍で突いて殺したローマ兵に関しては、その罪深さを糾弾するような内容は見当たりま
せん。

それはあくまでも、イエスとその使命を全うできるか否かの直接的な責任に関わった人物たちが、洗礼ヨハネ
であり、ユダヤ人、律法学者、パリサイ人達であったのに対し、ヘロデ王やローマの兵たちは、イエスの使命完
遂には直接的には関与せず、結果として刑の執行を命じられただけにすぎなかったからでした。

このような観点を踏まえて、文鮮明先生の路程を分析し、洗礼ヨハネの使命を持った人物は誰だったのか、ユ
ダヤ人、律法学者、パリサイ人達に相当する人物たちは誰だったのか、またヘロデ王やローマ兵に相当する
人物というのは誰だったのかについて考察してみることになります。

イエス降臨時代と再臨時代



祭司長、長老たちはイエスを十字架に。
 「その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい」。
 ユダヤ民族 ⇒ 2000年間国を持たざる流浪の民となり、迫害を受けてきた。
 果たして韓民族は？

★文先生誕生時の時代背景

①朝鮮総督府:韓国併合により、大日本帝国領となった朝鮮を統治するための官庁。(1919~1945)

②日本:韓半島を植民地として統治

③韓半島 :再臨主誕生の地

⇒ 1953.7.27.南北分断 (韓国、北朝鮮)

④金百文、許孝彬:洗礼ヨハネ型人物

⇒ 文先生を不信し従わず。

⑤韓国人:神の選民、文先生誕生

⇒ 洗礼ヨハネ型人物は文先生を不信

⇒ 文先生、僕の僕の道へ。

キリスト教会、北朝鮮政府、韓国国民全てが文先生を排斥。

直接的に投獄、拷問…2度にわたる死の危険も。

⑥文鮮明:再臨主、イエスの使命の完成者

① 朝鮮総督府

1910年の韓国併合により、大日本帝国領となった朝鮮を統治するための官庁。(1919~1945)



・迫害

⇒ 創氏改名、3.1 独立運動の弾圧、強制連行、従軍慰安婦

・併合による変化

・1920

・30年代 GDP 平均成長率 4%

(1920年代の世界経済は2%以下、日本は3%強)

・1人当り国民所得が1910年の40ドルから倍増

・日本資本の大量流入による鉄道・道路・橋梁などの交通機関の整備。

・耕作地が拡大(246万町から449万町まで)

・人口が1313万人(1910年)だったのが、2553万人(1942年)に増加、

・平均寿命が24歳から56歳に。

・併合時は4%程度だった識字率が61%を超えた(1944年)

②日本

1945年当時の摂理においては、日本は韓国を40年間統治した国でした。それはあたかも、ユダヤが国を持たずに、ローマの属国としてローマの支配下にあったときにイエスが降臨されたごとく、文先生も日本の統治下にあった韓民族の中に降臨されたのです。

当時の日本と韓国の関係、摂理的意義について「神様の摂理から見た南北統一」のみ言で見ていきたいと思います。

日帝統治下40年の摂理史的意義 神様の摂理から見た南北統一より

復帰摂理歴史は、同じ内容と形式が反復されながら、蕩滅の路程

を通して復帰していく歴史だという事実を知らなければなりません。

よって再び来られるメシヤは、独立した国を通しては来ることができないのです。

再臨の一日にそのような立場に立った国が韓国です。

イスラエルの国とキリスト教が、霊肉を中心としてサタン圏で支配されながら戦ってきたように、韓国も40年間肉面的な面で怨讐に支配されながら、霊的な面で、この国のために生命を捧げることを覚悟する群れを中心として、独立運動をしてきました。そうして民族を糾合し、結束させて、キリスト教を主とした人たちが主導となって国を建てるようになったのです。

キリスト教の信者たちが霊的な面で、日帝40年の弾圧を受け、国もない中で死の道を自ら進んでいながら国を愛する忠節の道理を立てたのです。

韓国は内的な面でキリスト教を中心として120年間発展するようになるのです。

韓国が日本から40年間抑圧される時代、内外の40年蕩滅期間
＝イスラエル民族においては、民族的カナン復帰をするためのエジプトでの400年苦難時代

＝キリスト教のローマ帝国迫害時代400年



=アダム以後イエス様までの 4000 年を蕩滅し得る受難ともなる

日本:失敗した英国に相当する立場でアジア的の代身国家として立てた国が日本。
アジアを育て、アジアのための日本にならなければならないのです。それゆえ世界的な経済大国を築きました。
神様は英国の祝福を蕩滅するために日本に祝福を与えたので、日本は英国の立場を蕩滅して世界を救わなければならない。

⇒神社参拝問題を中心としてキリスト教を極度に弾圧。
自分の国のために生きるアジアをつくろうというサタン的な立場になってしまった。
神様の名前を閉め出して、自分の国の民族主義的な女神、天照大神に仕えるのです。

③韓半島と第三イスラエル 韓民族

1945 年当時、6000 年の人類歴史の結実体として、神様は再臨の主として文鮮明先生をお送りくださいました。
しかし、神様が文先生をお迎えするために準備した、摂理的な中心人物、中心民族はことごとく摂理に失敗したため、文先生はその蕩滅のため、自らが摂理的な中心人物となり、地獄の底から摂理を再出発をせざるを得なくなりました。

2000 年前、イエス様をお迎えした人類は、やはりイエス様を受入れることができず、神様の独り子であるイエス様を十字架に付けてしまったように、再臨の時代においても文先生を、一つ間違えば死んでしまうような、死の淵にまで追いつめてしまいました。

2000 年前イエス様を迎えるために、神様が用意した中心人物と言え、原理的には洗礼ヨハネがその中心であり、聖母マリア、イエス様の弟子たち、選民としてのユダヤ民族たちがいます。彼らは自らに与えられた責任を全うすることができなかつたため、洗礼ヨハネは摂理とは全く関係のないことで、意味もなく処刑されてしまいました。そしてユダヤ民族は、ローマによって滅ぼされ、2000 年間国を持たない流浪の民として、苦難の歴史を綴ることとなりました。

1945 年当時、再臨主である文先生を、韓半島に、韓国人として迎えることができました。
文先生を韓半島に迎えるために、神様が 2000 年の歴史を通し準備してきた基盤というのは、洗礼ヨハネの使命を持った中心人物たちでしたし、第 3 イスラエルとしての韓国人であり、その中でも中心的使命を持ったキリスト教徒たちでした。
ここでは神様が 2000 年の歴史をかけ、韓半島にどのように摂理的な中心人物たちを用意してきたのか、そしてその神様が用意した韓国におけるキリスト教会が、神様の摂理を悟れずに、御旨を失敗してきたのかを、『南北統一』のみ言葉集を中心に見ていくことにします。

2000 年前、イエス様を十字架に付けることにより、ユダヤ民族はその責任を取り、2000 年間流浪の民として苦難の路程を歩きました。それと同じように、韓国キリスト教会がその責任を果たすことができなかった結果、文先生を地獄の底まで陥れただけではなく、韓半島も南北分断の悲劇を招来してしまったということが、明確にみ言葉として記されています。

神様の摂理は、その中心人物たちが使命を全うし、勝利すると、彼らは誰よりも栄光を受ける立場に立ちますが、逆に使命を全うできなかった場合には、最も罪深く、最も苦難の路程を歩まなければいけないということを教えてくれています。

1945 年当時の摂理を失敗した第三イスラエル選民、韓国人は、もう既に選民としての栄光の位置にあるのではなく、摂理に失敗した立場にあるということを実感し、僕も僕も立場から再出発しなければ、救いはないくらいの覚悟が必要なのではないでしょうか？！

たぶんそれらも含めて、文先生が全てを蕩滅し、韓国人に対しても今も栄光の位置を残してくれているとは思いますが、自分たちは摂理に失敗したんだと悔い改めることもなく、自分たちは選民である、世界は選民であ

る韓民族に従うべきなどというような傲慢な思いを持っていたならば、残された道は滅びの道しかないのではないのでしょうか？

残念ながら今の教会を見たとき、悔い改めの心を持って歩んでいる韓国人指導者はほとんど見かけることはありません。彼らに指導される教会は、どのような道を歩むのかは、火を見るよりも明らかでしょう。一人でも多く、摂理の真実を見極め、神様の願いに生きる韓国人指導者が生まれることを期待してやみません。

④洗礼ヨハネ型人物

1、「腹中教」の許孝彬女史

☆許孝彬女史夫婦と腹中教

⇒金聖道女史はエバ的的使命であり、その次の許孝彬女史はマリヤ的的使命、「腹中教」を作る。

★大同保安署に拘束(1946.8.11)

1946年6月、共産党は、新しい宗教団体に対する弾圧を始め、許孝彬氏の集団が摘発される。

文先生は許孝彬女史に3度にわたり勧告「私が誰であるか祈ってみなさい。」「すべてを否定してここから出なさい。」

⇒許女史は大きな兆候を期待し、一人の若い男などには期待もしなかった。

許孝彬女史は文先生からの手紙を読んでから破こうとしたが、共産党の監視員に見つかり、文先生は拷問を受ける。

★結果

1950年に韓国動乱が起きた時、許孝彬女史以下監獄にいたすべての腹中教信者を共産党が虐殺。

2、金百文牧師のイスラエル修道院を中心とした摂理(1945.10～1946.4)

★金百文氏と文先生は、カインとアベル、洗礼ヨハネとイエス様のような立場。金百文氏は天から啓示を受けて、文先生に全世界のソロモン王の栄光が先生に臨むようになることを祝福。しかし彼はその真の意味が分からず使命に失敗。

3、「主なる神の夫人」朴氏(朴ウルリョン)ハルモニを中心とした摂理

韓国で婦人として、役事を始めた人は金聖道ですが、これを蘇生として、許孝彬を経て、朴老婆につながりました。

★段階的な証と祝福

僕のように扱われるその位置で、精誠を込めれば、僕から養子、庶子、息子の位置まで復帰します。そして「天の国の総理大臣である」、「天国の全権を代表したイエス様の位である」、「神様の対象実体である」と、はっきり証をするのです。先生は、証をするその言葉を受け、即座に「敬礼しなさい」と言いました。それが、復帰するための主管性転倒です。

朴老婆は、文先生の言葉を受入れることができずに使命に失敗。

文先生を迎えるために神が用意した神霊集団。その中心人物たち、許孝彬女史、金百文牧師、朴ウルリョンハルモニは、文先生に直接侍る機会があったにもかかわらず、文先生を受け入れることができずにその使命に失敗してしまいました。

これらはほんの些細な失敗にすぎませんでしたが、イエス降臨時の洗礼ヨハネと同じで、このようなほんの些細な失敗が、人類史上最も大きな罪となってしまったと言っても過言ではありません。

このように文先生の路程のクライマックスともいえる部分を分析的にみても、6000年の歳月をかけ、神が用意した全ての基盤は、選民として立てられた韓国人によるものであり、その全ての摂理はことごとく失敗に終わったことがわかります。

2000年前、神の選民として立てられたユダヤ民族、そして洗礼ヨハネ等中心人物たちは、摂理に成功していたら最高の栄光が約束されていましたが、摂理に失敗したため、その栄光の位置は奪われ、今日に至るまで悲惨な路程を歩むことになりました。

イエスの路程を教訓として考えると、金百文牧師をはじめとした洗礼ヨハネ使命者たちは、その使命にことごとく失敗し、洗礼ヨハネと同じ「女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい。」と評されるような人物となってしまいました。

また韓国の既成教会、その指導者たち、さらには選民として選ばれた韓国人たちも、イエス当時の律法学者やパリサイ人たちと同じように、「イエスを十字架に付けよ」と叫び訴えたように、文先生を告発し、監獄へと追いやり、2度、3度と命を落としてもおかしくないところまで追いつめました。

洗礼ヨハネの悲惨な最期、ユダヤ民族の悲惨な2000年の歴史を見てみたとき、再臨主を迎えるために神が用意した基盤が、その使命を果たさなかった時、彼らにどのような未来が待っているのか？

文先生の路程を見ても、洗礼ヨハネ的人物であった許孝彬集団は、1950年に韓国動乱が起きた時、共産党たちが後退する時に許孝彬をはじめとしてすべての監獄にいた人々を虐殺してしまいました。朴ウルリョンハルモニは精神異常になり、おじいさんに梶棒で文先生を殴り殺させようとしていました。おじいさんは杖を持って出てこようとしたところで倒れて、全身が青くなって、腹が張り裂けて棺に入れられないくらいに膨れて死にました。北韓で反対した牧師たちは、共産党がすべて殺していきなくなりました。梨花女子大で中心的に迫害を加えた朴マリヤと李起鵬家庭の朴マリヤと李起鵬は、次男の李康旭とともに長男の李康石の手によって射殺され、長男もまた自決するという悲惨な末路を迎えました。

洗礼ヨハネの最期を彷彿させるように、洗礼ヨハネ使命者たちは、悲惨な最期を遂げている人物が多いと感じざるを得ません。

そう考えると、神が立てた選民である韓国、韓民族たちも、イエスを十字架に付けよと叫んだユダヤ人達と同じような未来が待っていないといいのですが、果たしてどうなるのでしょうか？

ユダヤ人達は、自分たちの中に救世主が来ると信じていました。そして現れたイエスを救世主とは認めず、未だに自分たちの中に救世主が現れると信じています。ユダヤ人達は、イエスを十字架に付けたことを悔い改めることもなく、選民である自分たちの中に、いつか必ず救世主が来ると未だに信じているのです。

しかしイエスが十字架につくことにより、第二イスラエルであるキリスト教徒に摂理は移りました。

キリスト教徒とは、イエスに従ったペテロをはじめとした12弟子たちが、イエスが十字架に付いたとき、自分たちはイエスを知らないと言って裏切ってしまったという悔い改めの心と、ペンテコステにより精霊の力を得て、イエスのみ言を述べ伝えようというところから始まりました。

文先生と共に摂理を担ってきた統一教会の韓国人たちは、どちらの心情を持っているのでしょうか？

「文先生の勝利圏を相続した自分たちこそが選民であり、神に愛された民族である。将来韓民族がこそが世界の中心民族になるのであり、日本人をはじめとした他民族は、韓民族に侍るべき民族である。」

または、「神が6000年の歴史をかけ用意してきたすべての韓民族の基盤は失敗し、文先生が一人僕の僕から全ての基盤を蕩滅復帰し勝利されたのであり、韓民族は悔い改めて、父母の心情僕の体をもって世界の人々に侍らなければいけない。」

どちらの心情をもって今の時を生きるかによって、韓民族ばかりか、神の摂理も、人類の未来も決まってしまう、そんな重要な時を私たちは生きているんだということを自覚し、正しい道を選ばれることを期待したいと思います。

⑤韓国人:神の選民、文先生誕生

1945年当時の韓半島を中心とした摂理について、「神様の摂理から見た南北統一」に従ってまとめてみたいと思います。

・イスラエル民族の失敗は、「メシヤが来ればすぐさまローマ帝国を征服し、さらにはユダヤの国が世界を制覇してしまうだろう」と考えていたことにある。

・**神様のみ旨は、イスラエル民族を祭物とし、メシヤ自体も人類の僕の立場に立って、人類のために生きるということだった。**

・旧約時代を蕩滅復帰する使命をもった男性と女性、信仰団体、新約時代を蕩滅復帰した使命をもった男性と女性、信仰団体が現れて、摂理の一翼を担当する役事が展開されていた。

・1945年からの3年間に、キリスト教の最高幹部の数人が反対することにより、全国のキリスト教が反対し得る道が生じた。

・キリスト教を中心として、選民たる民族が先生と分かれることにより、国土が南北に分かれる動機となった。

・**韓国がその責任を果たすことができなければ、み旨は他の国家を探して行く。歴史はある一地点にとどまるものではなく流れていく。**

このように神が2000年の期間を通じて準備した韓民族とキリスト教が摂理に失敗したため、韓半島は南北に分断され、み旨は他の国家へと流れていくということが書かれています。つまりこの時点において、韓民族とキリスト教は、摂理に失敗してしまったということが明らかにされています。

<参考>

「神様の摂理から見た南北統一」より

神様のみ旨は、イスラエル民族を祭物とし、メシヤ自体も人類の僕の立場に立って、人類のために生きるということでした。しかし彼らは、「メシヤが来ればすぐさまローマ帝国を征服し、さらにはユダヤの国が世界を制覇してしまうだろう」と考えていました。こうして、イスラエル民族の願いと神様とメシヤの願い、み旨の方向が食い違いました。ですからイエス様は、メシヤとして受け入れられませんでした。

イスラエル民族は選民として世界を支配できる祝福を受けたにもかかわらず、み旨を奉じて目的を受け継ぐべきイスラエル民族はここで墮落して世界にない罰を受けるようになったのです。それゆえ、2000年間国のない民族として流浪の孤客となったのです。

韓国は、イスラエルと第二イスラエルであるキリスト教徒が果たせなかった摂理的な使命を受け継いだ第三イスラエルです。韓国ではどのようなことがあったとしても神様の摂理が完結しなければならないのです。

旧約時代を蕩滅復帰する使命をもった男性と女性、信仰団体、そして、新約時代を蕩滅復帰した使命をもった男性と女性、信仰団体が現れて、摂理の一翼を担当する役事が展開されたのです。

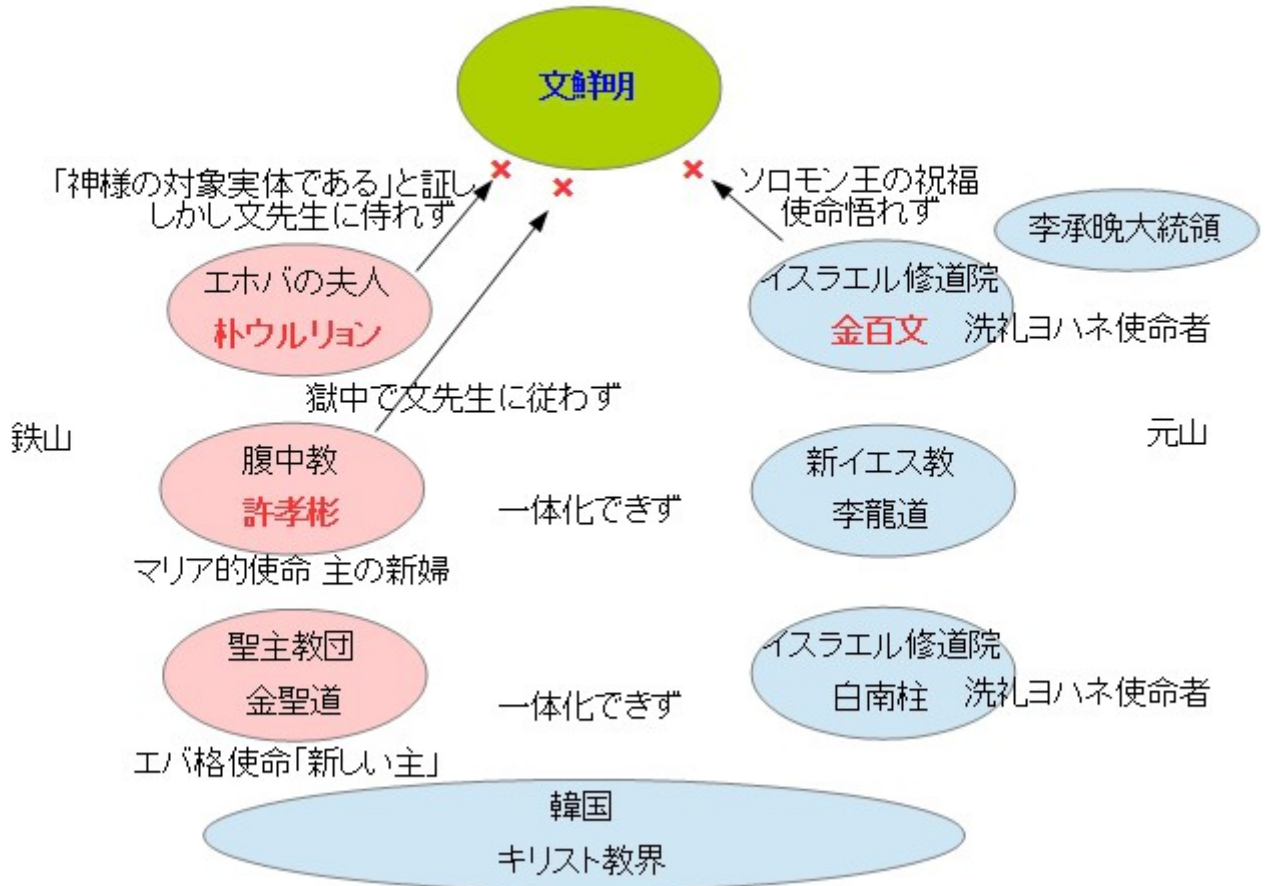
その時先生は新しい歴史的な使命を成し遂げるために、建国当時の要人と手を握り、最高の立場から出発することを期待しました。ところが、キリスト教を代表した牧師の数人が反対して、すべてのものがふさがれ始めたのです。キリスト教を中心として、天の側の国家形態が生まれるべきその場で、キリスト教の最高幹部の数人が反対することにより、全国のキリスト教が反対し得る道が生じたのです。

先生は1945年から1948年までの3年間に、キリスト教と国家から歓迎されずに、むしろ反対される立場に立ったために、別の道へと分かれていかなければならない運命に逢着するようになったのです。国家的な力と基盤を動員して死ぬほど反対されるのは、歴史的に見ると、イエス様の立場を蕩滅すべきみ旨があったからです。キリスト教を中心として、選民たるこの民族が先生と分かれることにより、国土が南北に分かれる動機となったのです。

南北が分かれるようになった原因を考えてみると、6.25事変がその原因だと思うかもしれませんが、根本問題に入っていった原因を調べてみれば、キリスト教と国家が先生に反対して一つになれなかったからなのです。地上のキリスト教と国が責任を果たすことができなかったからです。

韓国教会と皆さんが、天運を受け継ぐための準備態勢を整えなければ、神様が韓国教会を離れるかもしれません。もう国家主義時代は過ぎ去りました。韓国がその責任を果たすことができなければ、み旨は他の国家を探して行かざるを得ないということを知らなければなりません。歴史はある一地点にとどまるものではなく、流れていくことを知らなければなりません。(1986.10.21)

1945年当時の、神が準備した神霊教団と洗礼ヨハネ型人物



(2) 再臨摂理を失敗したのは神が準備された韓国人とキリスト教

1、1945年当時の神の摂理

☆1945年当時の摂理

★神霊役事と男女相対的な役事

・韓国の東側は男性的な姿(外的使命)

⇒東側の元山を中心として男性たちの神霊役事が展開、白南柱牧師、李龍道牧師、金百文牧師と繋がる。

・西側は女性的な姿(内的使命)

⇒西側の鉄山では婦人たちが神霊役事、金聖道女史、許孝彬女史、主なる神の夫人朴ウルリョン ハルモニに繋がる。

★旧約時代を代表する男性集団

・朴東基牧師(シオン集団)

律法的な旧約的エデン復帰派の立場。

「解放以後には再臨主が肉身で必ず再臨する。新郎として来られる主の前で、自分は新婦の立場である」と語った。

★新約時代を代表する男性集団

1. 白南柱牧師 (元山のイスラエル修道院長、最初の洗礼ヨハネ使命者)

主が韓国に来られるという啓示を受けて、主の役事をする。
聖主教団の金聖道女史を訪ね、学び、共に歩む期間を持った。

2. 李龍道牧師 (監理教の牧師・復興師、血分け教の開祖、白南柱牧師の次の洗礼ヨハネ使命者)

1930年代に韓国にエリヤ的な火をもってきた人物。全キリスト教が一つになり得る道を模索。

独立運動のゆえに幾度となく投獄。文先生が学生時代京城で通われた「イエス教会」を、李浩彬牧師らと共に創設した。

3. 金百文牧師 (白南柱牧師の弟子、洗礼ヨハネ格集団イスラエル修道院創設)

当時のキリスト教会において、その霊的背景、信仰において最高の立場にあり、「洗礼ヨハネ」の使命を果たす立場。

文先生とはカインとアベル、洗礼ヨハネとイエス様のような立場にあった。



★新約時代を代表する女性集団

1. 金聖道女史 (聖主教団教主、エバ格使命者)

1923年4月、天からの啓示が与えられ、罪の根は人類始祖の淫行問題にあったこと、イエス様が生きてみ旨を成就しなければならなかったこと、再臨の主は肉身をもって韓国に来られることなど教えられた。

2. 許孝彬女史 (腹中教教主、マリヤ的使命)

聖主教団の使命を引き継ぐ。許孝彬女史の娘が主を迎えるように準備された。許孝彬女史は主の新婦だとし、腹中を通して主が生まれると言った。

3. 朴ウルリョン ハルモニ (主なる神の夫人)

復活したエバと同時に、墮落直後のエバの身代わりの役事をしている夫人。韓国で婦人として、蘇生として初めて役事を始めた人は金聖道女史だが、許孝彬女史を経て、朴老婆につながる。



★男女相対的な神霊役事とその結果

1. 金聖道女史と白南柱牧師の決裂

サタン世界において、女一人で国家を中心として戦ってはならず、必ず男と二人で一つとなって一つの基盤を成さなければならなかった。白南柱牧師がここで金聖道女史と完全に一つになるべきであった。

●結果

金聖道女史は、日本の統治時代は終わり、韓国に再臨主が来て解放されると語っていたため、独立運動の団体とみなされ、100日以上獄中生活の末、1944年4月1日62歳で病死。

2. 李龍道牧師と許孝彬女史

「腹中教」と「新イエス教会」を統一せよという天からの教え。

西側集団「腹中教」が東側集団に行き一時は一つになったが、再び分かれてしまい李龍道牧師はイエス教会を作る。



○文先生は許孝彬女史に3度にわたり勧告

①文先生は腹中教に人を送り「先生の集団が何であるか、祈祷して調べてみなさい」と伝える。

⇒ 許女史は大きな兆候を期待し、一人の若い男などには期待もしなかった。

・1946年6月、許孝彬女史は共産党により社会秩序を乱したという罪名で大同保安署に連行され投獄。

1946年8月11日、許孝彬女史ゆえに、文先生も拘束。

②全体に責任をもっていた黄元信氏、次に許女史の夫と監獄で会い、許女史に「早く出るように言いなさい」と勧告。

⇒ 信徒たちは勧告を聞こうとせず、夫は「自分は妻に従うつもりだ」と言う。

③ 1946年9月18日、先生自身が一通の手紙を送る「私が誰であるか祈ってみなさい。」「すべてを否定してここから出なさい。」

⇒ 許孝彬女史はその手紙を読んでから破こうとしたが、共産党の監視員に見つかり、文先生は拷問を受ける。

●結果

新イエス教運動をした李龍道牧師は既成教会に反対され、1933年33歳で他界。

1950年に韓国動乱が起きた時、許孝彬女史以下監獄にいたすべての腹中教信者を共産党が虐殺。

3、金百文牧師のイスラエル修道院を中心とした摂理(1945.10~1946.4)

天から「一つの修道院をもて」「再臨主を迎えることができる勢力を準備しろ」という啓示を受ける。

神霊の面では、当時の既成教会の最高の信仰基準にあり、また李承晩大統領と近い立場にあった。

金牧師の集団が文先生と一つになっていたらそれが完成段階の集団となり、既成教会の牧師を連結し、政府と連結できた。



金百文牧師 (1917~1990)

★イスラエル修道院三人の女性の証と金百文牧師の祝福

1945年10月、文先生はイスラエル修道院、補助指導師として奉仕。

文先生はその霊的集団から、一人の男性とその男性と一体になった三人の女性を復帰する使命があった。

金牧師が文先生を祝福する前に、三人の女性が文先生を証した。

12月25日天から啓示を受け、**金牧師は文先生の頭に手を載せて「ソロモン王のような使命を受けた方だ」と祝福。**

洗礼ヨハネがイエス様に引き継いだのと同じ役事、金百文牧師が持っていたものを文先生が相続。

★祝福後の責任分担

神霊的恩恵の役事をする婦人たちや食口たちが、「金先生に従わず、文先生に従え」という啓示を受けるようになる。

金牧師はその真の意味が分からなかったが、5パーセントの責任分担として文先生に質問をしなければいけなかった。

★金百文教団の不信の結果

彼らは文先生と一つになるべきであったが従わなかったため、文先生は北韓に行かなければならなくなった。金牧師に忠告して清算し心情的な再出発をするため、文先生は18枚の手紙を書いたが、金牧師はそれをみな破いてしまった。

1946年4月、文先生は6ヵ月間精誠を尽くし、責任を果たした立場で平壤へ出発。

4、「主なる神の夫人」朴ウルリョンハルモニを中心とした摂理

★「主なる神の夫人」出現の意義

韓国全土で神様が築いておいた全ての摂理の基盤を相続するため、男と女から祝福の相続を受けなければならなかった。

そのため「私は神様の夫人である」と言う、神様が直接導ける婦人が出てこなければならなかった。

その婦人を神様が直接導くために、神様を中心として連結される霊的世界が動き入っていくようになる。

初めて地上に着陸できる基地を、「主なる神の夫人」だという婦人を通してつくるようになる。

その婦人が復活したエバであると同時に、墮落直後のエバの身代わりの役事の二つの側の役事をしている朴老婆だった。

★最低の立場から段階的な証と祝福

僕のように扱われるその位置で、精誠を込めれば、次々に復帰される。

「神様が愛する僕が来た」、養子、庶子、息子の位置まで上がって「天の国の総理大臣である」と証しをするようになる。

その次に「天国の全権を代表したイエス様の位である」「神様の対象実体である」と証し、その宣布する式が終わった次には、自主権をもって反対にひっくり返す。アダムの権限を蹂躪したのを、蕩滅的条件を立てて復帰したので、アダムの位置に立つために完全に反対にする。

★主管性復帰と朴老婆の不信とその結果

文先生は、証をするその言葉を受け、即座に「敬礼しなさい」と言う。それが、復帰するための主管性転倒。それに対し「今まで先生に従い仕えたのに、僕に対するように容赦なく命令することができるのか」とひっくり返った。

朴老婆は精神異常になり「文という人は天国の逆賊であり、世の中のすべてのものを盗んでいった」と言い、完全にサタンが発動し、おじいさん、息子、娘を連れて歩きながら、梶棒で文先生を殴り殺そうとする。そうするうちに、そのおじいさんが棺に入れられないくらいに膨れるという恐ろしい死に方で死ぬ。

★反対した牧師たちの結末

文先生が北韓の共産世界に入っていた時、既成教会の牧師 80 余名が「統一教会の文なにがしを捕らえて殺そう」と署名、捺印をしたが、結局文先生を殺そうと謀議した人々は全部死んでいなくなる。共産党が、すべて殺した。

殺そうとして監獄に押し込んだ人は生きて出て、生きようとして文先生を殺そうとした人々は死んでしまう。天がみな清算する。

★1948年2月22日:キリスト教既成教団の嫉視と共産党当局の宗教抹殺政策により内務署拘束。

5年刑の宣告で平壤刑務所に収監。

健康な人間でも過労と飢えと病気で2、3年で死んでいくという、興南特別労務者収容所にて強制労働

僕の僕から出発された文先生は、何よりも貴重な食料の半分を飢えた囚人たちに与え、残りの半分で生きる決心をされた。

僕の段階に上がられると、食事を全部食べられるようになり、増えた半分は、

他から与えられたものとして食べられた。

差し入れの食物や衣服があれば、それらをみな他の囚人たちに分け与えられ、

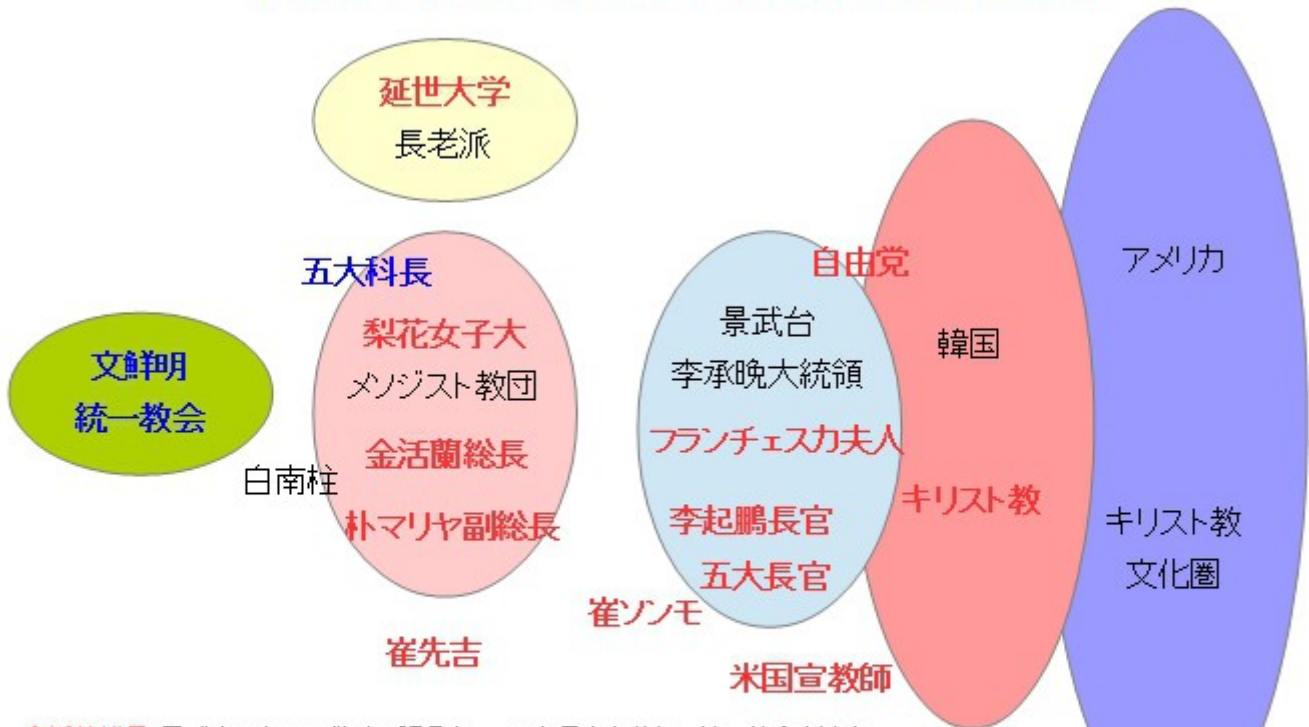
自らは厳寒の北韓の冬にあっても、同じ1枚の古びた薄い服を着ておられた。

1500名の囚人の中から毎年模範労働賞に選ばれ、サタン側の共産党をも屈伏させる条件を立てられたみ言を語るができない中で、神様が同情し、霊界が援助・協助せざるをえない内的・外的蕩滅条件を立てられ、生命がけて従ってくる弟子を12名以上復帰された。

・1950年10月14日:国連軍の興南爆撃により2年8ヶ月ぶりに解放。

2、梨花女子大、延世大事件における神の摂理

梨花女子大事件当時の中心人物たちの相関図



- ・金活蘭総長:景武台に行って偽りの証言をし、五大長官を動かして統一教会を迫害
- ・朴マリヤ副総長:迫害の中心人物、フランチェスカを動かして、米国の宣教師たちと謀議
- ・李起鵬長官:朴マリヤ副総長の夫、景武台を動かす。
- ・李承晩大統領:文先生を受入れ、韓国キリスト教、アメリカキリスト教会へと連結すべきだった。
- ・フランチェスカ大統領夫人:朴マリヤを通じ米国の宣教師たちと謀議
- ・五大長官:文教部、文公部(公報部)、内務部、法務部、外務部、自由党の五大長官が迫害。
- ・崔ソノモ:崔先吉オモニムの叔父、韓国の第一人者。内務部長官と手を組んで、統一教会を迫害。

★1955年、延世大学、梨花女子大学事件。

・背景

1955年度までに最初の摂理から10年がたっていたが、遅くはなかった。

梨花女子大では、当時李承晩大統領の遠縁にあたる側近で、副大統領候補であった李起鵬を夫に持つ副総長朴マリヤと、李承晩大統領の夫人フランチェスカとが繋がっていた。

そこで総長金活蘭と統一教会が完全に一つになり、米国宣教師を屈服していたら、李承晩大統領、政府と一つとなり、一気にキリスト教文化圏であるアメリカに渡っていくことができた。

★延世大学、梨花女子大学事件

大学街で伝道開始。梨花女子大、延世大の学生が大挙押し寄せ、教会員が爆発的に増加。そこで延世大学と梨花女子大学の学生たちをコントロールするようになれば、李承晩側は自然に巻き込まれていた。

梨花女子大学、延世大学は、米国の宣教師を通じて、長老派、メソジスト教団の協力を受けていた。

危機を感じた宣教師が後ろで操り、梨花女子大学、延世大学が統一教会を除去するように金活蘭を動かして、緊急措置として、学校を取るのか、統一教会と文先生を取るのか、二者択一を迫る。

その結果五大科長たちを全部追放し、統一教会の主謀者となった学生たちを一方向的に退学処分。梨花女子大:教授5名を免職、学生14名を退学処分。延世大:教授1名を免職、学生2名を退学処分。

東亜日報、韓国日報に、「宗教の自由がある国に退学処分は問題がある」と社説。世論の同情をかう。

金活蘭と朴マリヤが主導し、大統領官邸で偽りの証言をし、国家と既成教会が一つになって、李承晩主権下の五大長官が、統一教会をなくすために挙国的に総動員された。

・結果

延世大学、梨花女子大学事件は、キリスト教と自由党が主導。

朴マリヤと李起鵬を中心として、大韓民国大統領の李承晩、フランチェスカ、金活蘭が国を滅ぼす元祖となった。

李起鵬は、李承晩の養子になっていた長男の李康石によって、朴マリヤや次男とともに射殺された(長男も自決)。

文先生が監獄に入ることで神様が数千年間準備した国と民主世界のすべての基台が崩壊してしまう。

1955年7月4日:異端的信仰を理由にソウル中部警察署に拘束、西大門刑務所に収監。

10月4日:無罪放免。

3、久保木会長に語られた真のお父様の御言

2000年かけて神が準備された真のお父様を迎えるための基盤は、1945年当時であれば金百文牧師、許孝彬女史、朴ウルリョンハルモニら洗礼ヨハネ使命者たちの失敗により、文先生は再臨主としてキリスト教会に受け入れられることなく、逆に迫害を受けることになったということがわかりました。

そして文先生を北韓の地で、2度にわたり死の寸前まで追い込んだのもキリスト教徒達であり、韓民族であったということがわかりました。

さらには1955年ごろ、最後に残された一縷の望みであった梨花女子大学、延世大学を中心とした摂理においても、その中心人物であった朴マリヤ、李起鵬、金活蘭らが統一教会に反対し、李承晩政権を動かし、国家的な迫害を加えることにより、文先生は西大門刑務所に収監され、最後の望みも絶たれることとなりました。全ては2000年かけて神が準備されたキリスト教、選民としての韓民族の失敗であり、中心人物たちの不信の結果でした。

これらは2000年前のイエス当時の選民であったユダヤ人たちの失敗であり、洗礼ヨハネの失敗と全く同じ失敗を繰り返してしまっていたのです。

しかし2000年前と違っていたのは、文先生は十字架について死ぬことなく、何度も死の淵にまで追い込まれながらも死を克服し、生きてみ旨を遂行し、数々の勝利圏を打ち立てることにより、み旨の勝利者となられたことです。しかしこの勝利は、あくまでも文先生の勝利であって、キリスト教や、韓民族の勝利ではありません。

真のお父様の本音が語られていると感じさせられる証しを、777の大先輩である師観さんのブログより抜粋し紹介したいと思います。

師観のブログ 久保木会長から聞いた話(日本が韓国に代わって代理蕩滅している)より

基元節の為に同じ宿泊所で宿泊した777双の者達の中には久保木会長のそばでみ旨に従事していた者がいます。あまり知られていないみ言を語ってくれました。

本来ならば韓国はメシヤを受け入れなかった時点でイスラエルのように選民ではないと言うのです。

それでも尚、選民の位置を保っていられるのは、アダム国家の失敗をエバ国家である日本に韓国に代わって代理蕩滅してもらっているからだという。



これは久保木会長がじきじきにアボジから会長としてしなければならない使命として言われた事だと言う。韓国のすべての失敗をエバである日本に蕩滅させるのでどうか韓国を選民からはずさないように神に懇願したと言う。

そう言うことならアダム国家を救う為に人肌脱いでも良いかという気持ちになりますが、そのことも知らずに当然の顔をして、韓国を併合した贖罪と思い込み威張ってごり押しをするとどうでしょう。それが30年以上も続くと堪忍袋の尾が切れる人も出てくるでしょう。人に自分の借金を払ってもらっているのに、その人に感謝もせず、当然の顔をされると気持ちの良いものではないでしょう。

この間、777 双と1800 双を教会に招いて慰労会をお母様の計らいで開催していただきましたが、一人の古参の食口が10年間も教会に来なかった理由を語ってくれました。それは自分のアベルである韓国のリーダーがその人の知り合いに、「お前も統一教会に入らないか。ここでは日本人を顎で使えるよ」と言った言葉に切れてしまったという。これは彼の自己紹介の時に話したので、前宋会長も地区長も教区長も教会長も聞くハメになったのです。

(3)主の国韓国とエバ国日本の罪の結論

統一教会に入ると日本はサタン側のエバ国だった。それを真のお父様の愛によって許され、愛され、祝福までも受けることが許された。だから日本は誰よりも犠牲の道を歩み、天に人材と万物を捧げなければいけないと徹底的に教育されてきました。その結果家屋敷を売り払い、ヤコブの知恵と言いながら親族から借金し、さらにはカードを使い自己破産に追い込まれ、そのようにしてまでも食口は今でも終わることなき献金路程を突き進んでいます。その結果生活保護を受ける祝福家庭も多く、社会的にも公安に目を付けられる程に教会は社会的信用を失いました。

しかしそれでも摂理に貢献し、神のみ旨を成就できるのでしたら食口もまだ本望だと思います。今の家庭連合は、摂理と言いながら実際は組織の維持が第一目標となっています。天のみ旨は何も行っていない。組織維持のための伝道であり、大会にすぎません。食口の精誠は教会維持と、韓国人幹部たちの懐を潤すことに使われるばかりです。しかし日本人食口による献金が無ければ、組織の維持はできなくなり、そこにたかる韓国人幹部たちも、自分たちの両班のごとき豊かな生活が失われてしまうので、決して真実を語ることはできません。韓国は摂理に失敗した罪深い民族であり、日本人が罪深いなどと今まで言ってきたことは、摂理的に見たときにはほんの些細なことであるなどとは口が裂けても言うことはできません。

本来選民というのは、神のみ旨を担うために、メシヤと共に最も犠牲の道を歩むべく神が用意された民です。2000年前ユダヤ人は、メシヤは自分たちを解放し、ユダヤ人中心の地上天国、天上天国を作ってくれるお方だと信じ、イエスを不信し、十字架につけてしまいました。

今日の統一教会においても、韓民族が選民ならば、韓国人食口たちは最も犠牲の道を行き、僕の僕として徹底的に仕える道を歩むべきでした。しかし韓国人幹部たちは、自分たちを両班のごとくに錯覚し、まるで奴婢でも扱うように日本人食口たちを扱い、終わることなき献金路程を強いています。

真のお父様は何故このような状況を黙認していたのでしょうか？

久保木会長の側近の方の証しにあるように「本来ならば韓国はメシヤを受け入れなかった時点でイスラエルのように選民ではない」と真のお父様は語られているということです。

同時に「神様のみ旨は、イスラエル民族を祭物とし、メシヤ自体も人類の僕の立場に立って、人類のために生きること」とみ言にあるように、選民は祭物とならなければいけないと語られています。

1945年当時の摂理に失敗し、さらには梨花女子大学事件で失敗して以降、祭物としての路程を歩んできたのは誰でしょうか？日本人食口ではなかったでしょうか？今日に至るまで日本人食口が最も犠牲の道を歩んできたということに異議を唱える者はいないと思います。

何故日本人食口は、何も言わずにただただ犠牲の道を歩むことができたのでしょうか？

それは日本人食口が、韓国人食口と同じように自分たちは神に選ばれた民だなどと思わないように、常に罪深い民族だと教えられ、最も犠牲の道を行くように徹底的に教育されてきたからではないでしょうか？

もちろん日本人が選民だなどというみ言はありません。エバ国になったとだけ教わっています。それだけでもこの上ない栄光の位置です。

しかしひょっとしたらもっと意外な事実上がるかもしれません。

真のお父様の生涯路程の中に次のようなものがあります。

「私は種子がちょっと違います。大韓民国の種子とちょっと違うと思うのです。私はそのように考えます。私の先祖がちょっと違うのです。ちょっと残念でしょう。」

このみ言は何を意味するのでしょうか？真のお父様の種子は大韓民国の種子ではない、先祖がちょっと違うということは、真のお父様の本当のお父様は韓国人ではなかったということの意味するのではないのでしょうか？

真のお父様の種子が植えられたのは、たぶん 1919 年の 2 月 25 日 (陰暦) 頃と計算されます。

そのころお父様のお母様 (忠母様) の近くにいた外国人男性というの何人だったのでしょうか？ 当時は日本統治下の朝鮮でしたから、忠母様の身近にいた外国人は、日本人だった可能性が高いのではないのでしょうか？

マリアが啓示を受けイエスを懐胎したときの様子を聖書を基に見てみます。

ヨハネによる福音書

1:28 御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。

1:30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。1:31 見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。1:32 彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、1:33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。1:34 そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましようか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。1:35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

このような啓示が忠母様にも臨み、その啓示に従って日本人牧師の所に行き、真のお父様を宿すというようなことはありえないことでしょうか？

忠母様は、真のお父様を特別な存在と自覚していたのかしていなかったのかはわかりませんが、お父様に対して特別執着していたように感じます。

真のお父様が日本留学から帰られるとき、連絡船が沈没したと思い、田舎から定州の中心街まで足の裏に太い棘が刺さったことにも気づかずに、裸足のまま 8 キロの距離を走り確かな情報を求めました。その後釜山まで駆け付けお父様を探したという話は有名です。13 人の子供を産み、一人一人に同じように愛情をかけたのかもしれませんが、真のお父様に対しては特別な思いがあったようにも感じます。

イエス様の血統転換の秘密は、イエスの死後 2000 年経ってから真のお父様によって解かれましたが、真のお父様の血統についても、解明されるまで 2000 年の歳月を必要とされるのかもしれませんが。

しかし真のお父様の父親が日本人で、それゆえにお父様は韓国人が犯した失敗を日本人には犯させないために日本の罪を強調され、日本人にサタンが入らないように常に僕の僕となるように指導されていた可能性もあるのではないのでしょうか？

こんなことは単なる妄想にすぎませんが、このように考えると犠牲の道を行く日本人であることにも希望を感じられるかもしれません。それどころかメシヤが地上で活動されていたちょうどそのとき、メシヤと共に祭物として、僕の僕の道を歩むことができたということは、最も大きな功労を天に積むことができた、最も恵多き立場であったということの意味します。

最後の最後まで自分の欲望を前面に出しサタンに奪われることなく、常に神のみ旨を中心とし、祭物として、僕の僕の道を喜んで歩いていく私たちとなっていきたいと思えます。

